元総社蒼海遺跡群（2）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２００６・３

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社蒼海遺跡群（２）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２００６・３

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

６トレンチＨ－６号住居跡竈構築状況（西から）

６トレンチＨ－６号住居跡竈構築状況（北から）

７トレンチ調査区全景（北西から）

７トレンチＤＢ－２号土坑墓遺物出土状況（南から）

はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山です。その悠々と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡で知られるように旧石器時代から開けてきた地域で、いたるところで旧石器時代や縄文時代の遺跡が発見されています。

古代において前橋台地を中心に、800余りの古墳が築造されました。東国古墳文化の中心地として栄え、今でも９基もの国史跡指定となる古墳が存在します。

続く律令制の時代に入ると、総社古墳群から連綿と続く山王廃寺、上野国府、上野国分僧寺、上野国分尼寺など「クニ」の中枢施設が次々に造られ、政治・宗教・学問の中心として繁栄いたしました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東四名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

近代では、横浜港が開港されると、輸出の花形商品として生糸をもって一番乗りしたのが、前橋の糸商人でした。前橋は、藩をあげて蚕糸に力を注ぎ、我が国初の製糸の機械化に取り組みました。生糸により、横浜と前橋を結ぶシルクロードが開かれ、文化交流が始まりました。このように本市は、歴史溢れる豊かなまちです。

本報告書に掲載いたしました元総社蒼海遺跡群の発掘調査は区画整理事業に伴うもので、上野国府を解明する重要な目的があります。調査により、国府と推定される元総社町から群馬町の国分寺一帯まで集落が存在することが判明いたしました。これらは今後、分析が進めば、「国府のマチ」として解釈されるものと期待されます。

発掘調査にあたりましては、ご協力をいただきました元総社地区の皆さん、市区画整理第二課、調査に従事されました皆さんに厚く御礼申し上げます。

なお、本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成18年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　根　岸　　雅

例　　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社遺跡群（２）発掘調査報告書である。
2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3．発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市元総社町1800-3　他
発掘調査期間	平成17年５月17日～平成17年９月14日
整理・報告書作成期間	平成17年12月20日～平成18年３月17日
発掘・整理担当者	近藤雅順・池田史人（発掘調査係員）

4．本書の原稿執筆・編集は近藤・池田が行った。
5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
木村孝充・後藤進一・佐藤佳子・下境　弥・下境米治・城田邦男・曽我　仁・冨澤理恵・内藤　旭
内藤よし・中島利夫・西山勝久・西山光彩・峰岸あや子
6．発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。
2．挿図に建設省国土地理院発行の１：200,000地形図（宇都宮、長野）、１：50,000地形図（前橋）、１：25,000地形図（前橋）、１：6,000前橋市現形図を使用した。
3．本遺跡の略称は、17A130－５～９である。枝番号５～９はそれぞれ５～９トレンチと対応する。
4．遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　　T…竪穴状遺構　　W…溝跡
D…土坑　　DB…土坑墓　　P…ピット　　I…井戸跡
5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺構　全体図…１：200　住居跡・竪穴状遺構・土坑・土坑墓・ピット・井戸跡…１：30・１：60
溝跡…１：60・１：80・１：120　竈断面図…１：30
遺物　土器…１/３　石製品…１/２　鉄器・鉄製品…１/２　瓦…１/２・１/６
6．土器の器種について、本報告書では、口径12.0cm以下・器高4.0cm以下・轆轤整形・酸化焔焼成の坏形土器を「かわらけ」と呼称する。
7．図版・挿図中に付した丸番号はトレンチ名を表す。　例）「⑤－１」……５トレンチ遺物番号１
8．計測値については、（　　）は現存値、［　　］は復元値を表す。
9．セクション図中のＰは遺物、Ｓは石を表す。
10．セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。
◎…締まり・粘性非常にあり、○…締まり・粘性あり、△…締まり・粘性ややあり、×…締まり・粘性なし
11．遺構平面図の ---------- は推定線を表す。
12．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。
遺構断面図　構　築　面…
遺物実測図　須恵器断面…　灰釉陶器断面…　灰釉陶器表面…
緑釉陶器断面…　煤　付　着…　漆　付　着…
13．主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B	（浅　間　B　軽　石：供給火山・浅間山、1108年）
Hr-FP	（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）
Hr-FA	（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）
As-C	（浅　間　C　軽　石：供給火山・浅間山、４世紀前半～中葉）

目　　次

はじめに……i

Ⅰ　調査に至る経緯……1

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地……1

2　歴史的環境……1

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査方針……7

2　調査経過……7

Ⅳ　遺構と遺物

5　トレンチ……10

6　トレンチ……13

7　トレンチ……14

8　トレンチ……17

9　トレンチ……19

Ⅴ　まとめ……30

注）基本層序は各トレンチの全体図（Fig. 4・9・14・19・25）と合わせて記載した。

図　　版

口絵 1　6トレンチH－6号住居跡竈構築状況（西から）
2　6トレンチH－6号住居跡竈構築状況（北から）
3　7トレンチ調査区全景（西から）
4　7トレンチ DB－2号土坑墓遺物出土状況（南から）

PL. 1　5トレンチ遺構写真(1)
2　5トレンチ遺構写真(2)
3　6トレンチ遺構写真(1)
4　6トレンチ遺構写真(2)
5　6トレンチ遺構写真(3)、7トレンチ遺構写真(1)
6　7トレンチ遺構写真(2)
7　8トレンチ遺構写真(1)
8　8トレンチ遺構写真(2)
9　9トレンチ遺構写真(1)
10　9トレンチ遺構写真(2)
11　5トレンチ遺物写真(1)
12　5トレンチ遺物写真(2)
13　5トレンチ遺物写真(3)、6トレンチ遺物写真(1)
14　6トレンチ遺物写真(2)
15　6トレンチ遺物写真(3)、7トレンチ遺物写真
16　8トレンチ遺物写真(1)
17　8トレンチ遺物写真(2)、9トレンチ遺物写真(1)
18　9トレンチ遺物写真(2)、鉄器・鉄製品
19　瓦(1)
20　瓦(2)・文字瓦

挿　　図

Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図
2　周辺遺跡図
3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
4　5トレンチ全体図と基本層序
5　5トレンチ／H－1・2号住居跡
6　5トレンチ／H－3・4号住居跡
7　5トレンチ／H－5～8号住居跡
8　5トレンチ／溝跡、土坑、ピット
9　6トレンチ全体図と基本層序
10　6トレンチ／H－1・2号住居跡
11　6トレンチ／H－3～5号住居跡
12　6トレンチ／H－6号住居跡
13　6トレンチ／H－8号住居跡、土坑、ピット
14　7トレンチ全体図と基本層序
15　7トレンチ／H－1・4号住居跡
16　7トレンチ／H－3号住居跡、T－1号竪穴状遺構
17　7トレンチ／W－1～8号溝跡
18　7トレンチ／土坑墓、土坑、ピット
19　8トレンチ全体図と基本層序
20　8トレンチ／H－1～3号住居跡
21　8トレンチ／H－4～6号住居跡
22　8トレンチ／T－1・2号竪穴状遺構
23　8トレンチ／溝跡、D－1～8号土坑
24　8トレンチ／D－9～11号土坑、ピット、井戸跡
25　9トレンチ全体図と基本層序
26　9トレンチ／H－1号住居跡
27　9トレンチ／H－2～5号住居跡
28　9トレンチ／溝跡、土坑、ピット
29　5トレンチ／H－1・3～5号住居跡出土遺物
30　5トレンチ／H－4号住居跡出土遺物
31　5トレンチ／H－6号住居跡出土遺物
32　6トレンチ／H－1～6号住居跡、土坑出土遺物
33　6トレンチ／H－4・6号住居跡出土遺物、表採遺物
34　7トレンチ出土遺物
35　8トレンチ／H－2・3号住居跡出土遺物
36　8トレンチ／H－5・6号住居跡、9トレンチ／H－1号住居跡出土遺物
37　9トレンチ／H－3～5号住居跡、土坑出土遺物、表採遺物
38　鉄器・鉄製品・石製品・土製品
39　瓦(1)
40　瓦(2)

表

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表
2　元総社蒼海遺跡群（2）調査経過
3　元総社蒼海遺跡群（2）検出遺構累計
4　竪穴住居跡一覧表
5　溝跡計測表
6　土坑・土坑墓・ピット・井戸跡計測表
7　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表
8　鉄器・鉄製品観察表
9　石製品・土製品観察表
10　瓦観察表

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、6年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成17年4月13日付けで、前橋市長　高　木　政　夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　根岸　雅に対し、調査実施を協議し、調査団はこれを受諾した。平成17年4月28日、調査依頼者である前橋市長　高　木　政　夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　根岸　雅との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、5月17日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（2）」（遺跡コード：17A130－5～9）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「（2）」は過年に実施した調査と区別するために付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、東部の広瀬川低地帯の4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3㎞の地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約1㎞の所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地

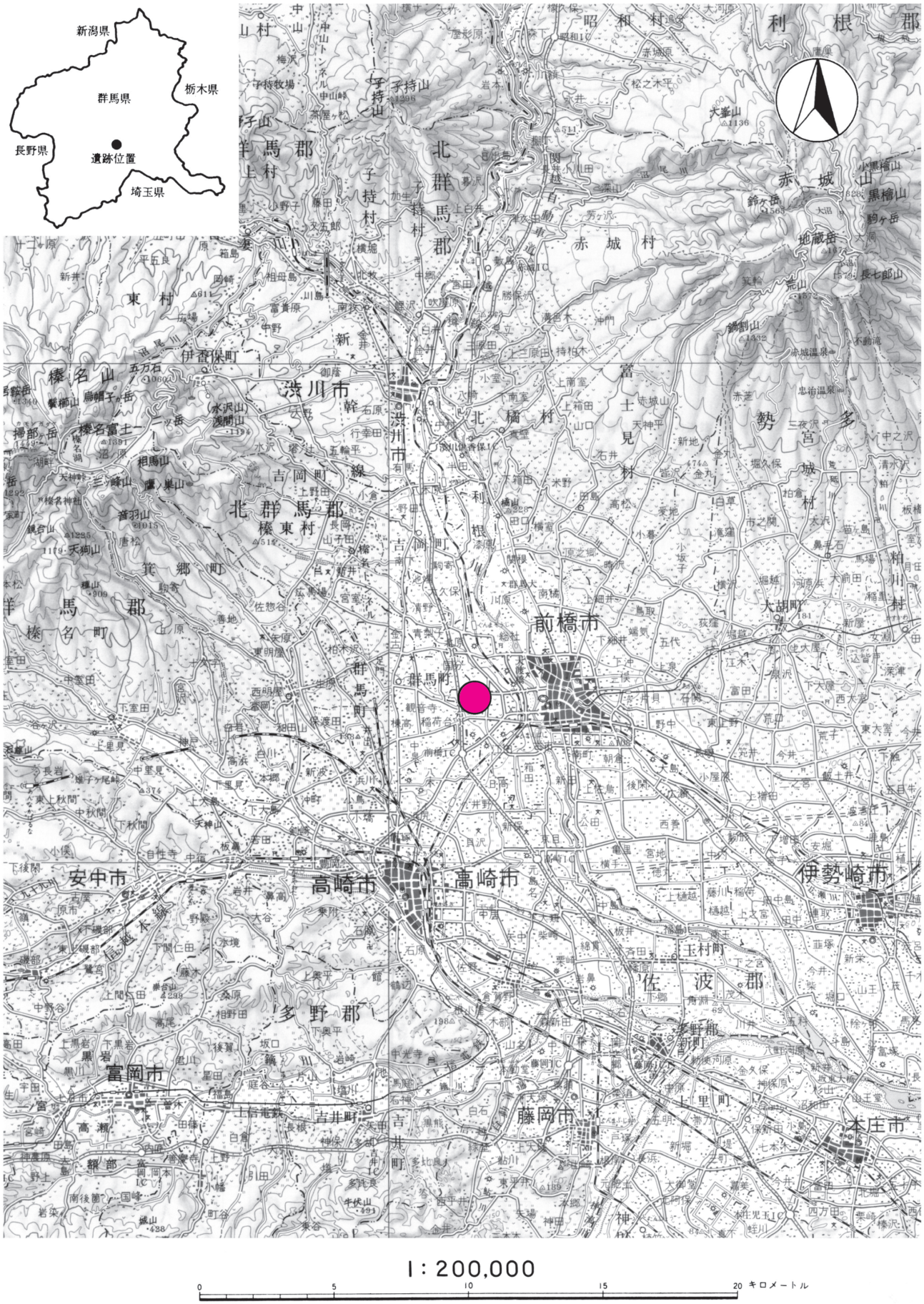


Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図

域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見されるだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡のおもに北に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の総社二子山古墳、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳・蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。

奈良・平安時代に至ると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や、「國厨」・「曹司」・「国」・「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元総社宅地遺跡がある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東外郭線が想定されるに至った。さらに近年では、元総社小見内Ⅲ遺跡や元総社小見内Ⅳ遺跡において、国分尼寺の東南隅から国府の中心部に向かうと思われる溝跡が検出されたり、官人の用いたと考えられる円面硯、巡方（腰帯具）も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘建柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1.5㎞南の地点にN－64°－E方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。また、推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

1:25,000
500m
0
500
1000
1500
大渡橋
中央大橋
群馬大橋
利根橋
平成大橋
東国分
西国分
総社町総社
総社町植野
総社町高井
元総社町
稲荷台
塚田
後閑
北原
敷島公園
総合運動場
浄水場
関越自動車道
上信電鉄線
群馬工業高専
日本精工工場
群馬大学医学部
養護学校
保育大学校
刑務所
小相木町
後家町
前箱田町
大利根町一丁目
利根
滝
江田町
中尾町
日高町
中尾団地
小八木町
新保町
正観寺町
光が丘町
朝日が
古市町
石倉町
大友町
大渡町
問屋町
大手町
紅雲町
昭和町
平和町
岩神町
大下町
1
2
3
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61

Fig. 2　周辺遺跡図

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（２）	2005	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	古墳：塔心礎・根巻石
5	東山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（６Ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（８Ｃ初）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（６Ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（７Ｃ初）
11	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（６Ｃ末～７Ｃ初）
12	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（５Ｃ後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（７Ｃ末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具、平安：条里制水田跡
19	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ(高崎市)	1979～81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域（事業団）	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群・Ⅲ	1980	縄文：ピット、奈良・平安：住居跡、溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980～84	縄文：屋外埋甕、弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・柵列、中世：住居跡・溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
25	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形、中世：住居跡・溝跡・天目茶碗
26	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
28	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6,5～７m、下幅3,24m、深さ２m）
29	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983，88	奈良・平安：住居跡・溝跡
30	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
31	桜ケ丘遺跡		弥生：住居跡
	総社桜ケ丘遺跡・Ⅱ遺跡	1985,87	奈良・平安：住居跡
32	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
33	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ(群馬町)	1985～87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
34	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
35	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
36	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986，88	奈良・平安：住居跡
37	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986，95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
38	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
39	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
40	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
43	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
44	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・斎串・墨書土器、中世：溝跡
45	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989，95	古墳：住居跡、平安：住居跡
46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
50	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
51	元総社宅地遺跡１～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡・五輪塔・椀類
52	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
54	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
55	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡、溝跡
	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
56	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
57	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
	元総社小見Ⅵ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	元総社小見Ⅶ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
58	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
59	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓・掘立柱建物跡・溝跡
	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
	元総社小見内Ⅹ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑・金片・金粒、中世：溝跡・土壙墓
60	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
61	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
62	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡、溝跡

＊調査年度の欄の（　）は調査開始年度を表す。
＊遺跡名の欄の（事業団）は㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、元総社町地内５ヵ所に点在しており、便宜上東から５～９トレンチと呼称した。調査面積は５トレンチ172㎡、６トレンチ176㎡、７トレンチ396㎡、８トレンチ380㎡、９トレンチ152㎡で総面積は1,276㎡である。グリッド座標については、国家座標Ⅸ系（日本測地系）Ｘ＝＋44,000・Ｙ＝－72,200を基点（X0・Y0）とする４ｍピッチのものを使用し、西から東へX1、X2、X3…、北から南へY1、Y2、Y3…となり、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡の公共座標（国家座標IX系）は次のとおりである。

５トレンチ（測点：X172・Y147）

日本測地系	Ｘ＝＋43412.000	Ｙ＝－71512.000
世界測地系	Ｘ＝＋43766.907	Ｙ＝－71803.761

６トレンチ（測点：X156・Y159）

日本測地系	Ｘ＝＋43364.000	Ｙ＝－71576.000
世界測地系	Ｘ＝＋43718.909	Ｙ＝－71867.761

７トレンチ（測点：X118・Y165）

日本測地系	Ｘ＝＋43340.000	Ｙ＝－71728.000
世界測地系	Ｘ＝＋43694.910	Ｙ＝－72019.759

８トレンチ（測点：X95・Y176）

日本測地系	Ｘ＝＋43296.000	Ｙ＝－71820.000
世界測地系	Ｘ＝＋43650.911	Ｙ＝－72111.759

９トレンチ（測点：X35・Y152）

日本測地系	Ｘ＝＋43392.000	Ｙ＝－72060.000
世界測地系	Ｘ＝＋43746.910	Ｙ＝－72351.754

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として１/20、住居跡竈・炉は１/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過

本調査は５月17日より現地調査を開始した。まず、昨年度に表土掘削・杭打ち測量・遺構確認まで済ませていた９トレンチより遺構掘り下げ・精査を行った。その後は、複数のトレンチを平行し、調査を進めた（Tab.２）。

５～８トレンチの表土掘削については、いずれの調査地も畑作地であるため、耕作土と遺構面の土とを分ける必要があった。トレンチにより土層の堆積状況はやや異なるが、おおよそ以下の手順で表土掘削を行った。まず、重機（バックフォー0.4㎥）にて約20～60㎝程堆積する現耕作土を掘削し一カ所に集めた。その後、更に約10～20㎝程掘り下げAs-B軽石混土層を取り除き、As-C・Hr-FP軽石を含む暗褐色土もしくは黄褐色土の面において遺構確認を行った。

本調査では、すべてのトレンチから奈良・平安時代の竪穴住居跡が検出された。５・６トレンチは遺構がやや濃密であり、プラン確認や遺構の新旧関係の把握に苦慮した。７・８・９トレンチは住居跡の検出が少なく、調査は比較的順調に進んだ。ただ、８トレンチは、地山が粘質土のため、台風などにより何度か水没に見舞われた。また、晴天が続くと土が固結して掘り下げが困難になるなど調査の進めにくい場所であったため、予想以上に調査期間を要した。また、住宅地に隣接するトレンチもあり、近隣住民の理解を得ながらの調査となった。

精査の結果、検出遺構の累計は Tab. 3 のとおりとなった。

５・６トレンチは７月下旬に、９トレンチは８月下旬にそれぞれ調査を終了し、埋め戻しを行った。７・８トレンチは、遺構精査・掘り下げ終了後、９月８日に高所作業車による全景写真撮影を行った。９月14日にはすべての調査を終了し、その後７・８トレンチの埋め戻しを行い、現地調査を終了した。

12月20日より文化財保護課庁舎において、整理作業を開始した。遺物の水洗い・注記・接合・復元・実測・写真撮影・収納、図面の修正・整理・収納、写真の整理・収納を行い、３月17日にすべての作業を終了した。

Tab. 2　元総社蒼海遺跡群（２）調査経過

トレンチ名（調査面積）	調査期間					
	５月	６月	７月	８月	９月	10月
５トレンチ（172㎡）						
６トレンチ（176㎡）						
７トレンチ（396㎡）						
８トレンチ（380㎡）						
９トレンチ（152㎡）						

Tab. 3　元総社蒼海遺跡群（２）検出遺構累計

トレンチ名	竪穴住居	竪穴状遺構	土　坑	溝	土坑墓	井戸跡	ピット
５トレンチ	8	0	2	8	0	0	3
６トレンチ	7	0	7	0	0	0	4
７トレンチ	3	1	7	8	3	0	4
８トレンチ	6	2	11	2	0	1	24
９トレンチ	5	0	5	4	0	0	1
合　計	29	3	32	22	3	1	36

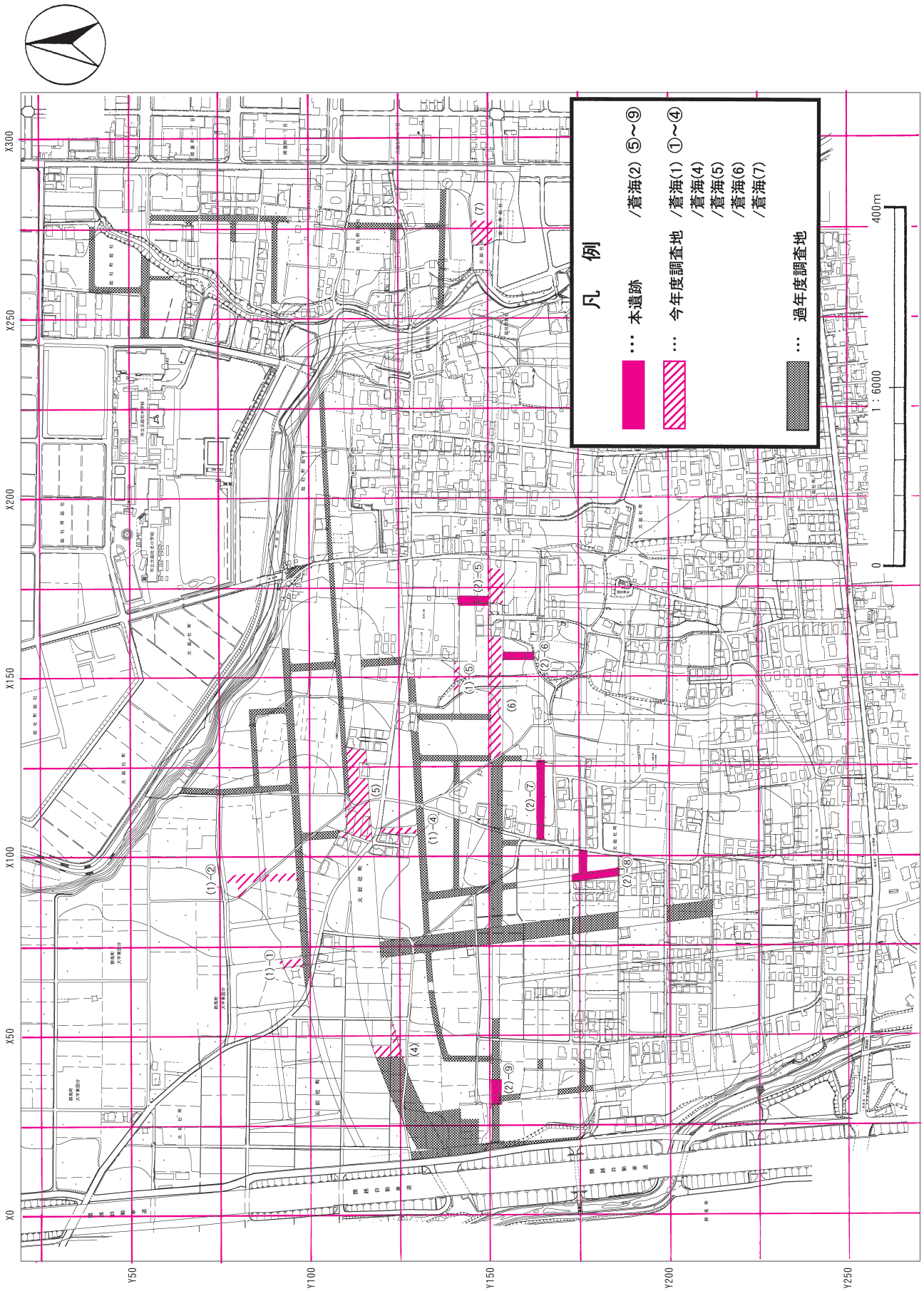


Fig. 3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

Ⅳ　遺構と遺物

5トレンチ

1　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.５・29、PL.１・11）

位置　X171・172、Y143・144グリッド　**主軸方向**　Ｎ－72°－Ｅ　**形状等**　方形。東西［3.78］ｍ、南北［3.82］ｍ、壁現高54.5㎝を測る。　**面積**　［13.6］㎡　**床面**　平坦な床面で、竈前のみ堅緻。　**竈**　東壁中央南より検出され、主軸方向Ｎ－73°－Ｅ、全長120㎝、最大幅86㎝、焚口部幅38㎝を測る。構築材として、粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－２・６と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－２→Ｈ－６の順である。　**出土遺物**　土師器208点・須恵器78点・灰釉陶器３点。そのうち、坏１点、甕１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から８世紀中葉と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.５）

位置　X171・172、Y143・144グリッド　**主軸方向**　Ｎ－97°－Ｅ　**形状等**　長方形。東西［2.73］ｍ、南北［3.27］ｍ、壁現高53.5㎝を測る。　**面積**　［8.49］㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　北側部分をＨ－３に壊されているが、東壁南より検出され、主軸方向Ｎ－97°－Ｅ、全長100㎝、最大幅［77］㎝、焚口部幅［37］㎝を測る。　**重複**　Ｈ－１・３・６と重複しており、新旧関係はＨ－１→本遺構→Ｈ－３・６の順である。　**出土遺物**　土師器108点・須恵器59点・瓦１点、石類３点・灰釉陶器２点。そのうち、臼玉１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や重複関係から８世紀中葉から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig.６・29、PL.11）

位置　X171・172、Y142・143グリッド　**主軸方向**　Ｎ－106°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（3.59）ｍ、南北（4.55）ｍ、壁現高49.5㎝を測る。　**面積**　（11.58）㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　Ｈ－２と重複しており、新旧関係はＨ－２→本遺構の順である。　**出土遺物**　土師器18点・須恵器44点・瓦２点・灰釉陶器２点。そのうち、坏１点、高台椀２点、甕１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig.６・29・30、PL.２・11・12・18）

位置　X170・171、Y143・144グリッド　**主軸方向**　Ｎ－104°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（2.75）ｍ、南北（3.90）ｍ、壁現高51.0㎝を測る。　**面積**　（8.52）㎡　**床面**　堅緻な床面で、北側部がやや高くなる。　**竈**　東壁中央より検出され、主軸方向Ｎ－101°－Ｅ、全長123㎝、最大幅96㎝、焚口部幅42㎝を測る。構築材として、粘土、両袖に川原石を使用している。　**重複**　Ｈ－６、Ｄ－３と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－６、Ｄ－３の順である。　**出土遺物**　土師器72点・須恵器224点・瓦１点・鉄製品１点・灰釉陶器４点。そのうち、坏４点、高台椀４点、羽釜３点、刀子１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－５号住居跡（Fig.７・29、PL.11・18）

位置　X171・172、Y144・145グリッド　**主軸方向**　Ｎ－100°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（2.40）ｍ、南北（3.92）ｍ、壁現高35.0㎝を測る。　**面積**　（7.39）㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　検出されず。　**出**

土遺物　縄文土器１点・土師器93点・須恵器36点・瓦１点・鉄製品２点・灰釉陶器１点・緑釉陶器１点。そのうち、高台椀１点、羽釜１点、緑釉陶器１点、刀子１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

Ｈ－６号住居跡（Fig. 7 ・31、PL. 2 ・12・13・18）

位置　X170･171、Y143･144グリッド　**主軸方向**　Ｎ－98°－Ｅ　**形状等**　長方形。東西2.78m、南北3.82m、壁現高54.0㎝を測る。　**面積**　9.39㎡　**床面**　平坦で堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向Ｎ－102°－Ｅ、全長78㎝、最大幅87㎝、焚口部幅41㎝を測る。構築材として、粘土、川原石、凝灰岩を使用している。　**重複**　Ｈ－１・２・４と重複しており、新旧関係はＨ－１→Ｈ－２、Ｈ－４→本遺構の順である。　**出土遺物**　土師器52点・須恵器72点・鉄製品２点・灰釉陶器１点。そのうち、坏２点、高台椀７点、羽釜１点、甑１点、紡錘車１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

Ｈ－７号住居跡（Fig. 7 ）

位置　X170、Y144･145グリッド　**主軸方向**　Ｎ－83°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（0.96）m、南北（3.65）m、壁現高76.0㎝を測る。　**面積**　（2.68）㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南より検出され、主軸方向Ｎ－86°－Ｅ、全長143㎝、最大幅89㎝、焚口部幅31㎝を測る。構築材として、粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－８と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－８の順である。　**出土遺物**　土師器77点・須恵器26点・瓦１点。　**備考**　時期は埋土や重複関係から Hr-FP 降下以降から10世紀代と考えられる。

Ｈ－８号住居跡（Fig. 7 ）

位置　X170、Y145グリッド　**主軸方向**　Ｎ－91°－Ｅ　**形状等**　方形と推測される。東西(0.39)m、南北(1.20)m、壁現高55.0㎝を測る。　**面積**　(0.45)㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　Ｈ－７と重複しており、新旧関係はＨ－７→本遺構の順である。　**出土遺物**　土師器６点・須恵器３点。　**備考**　時期は埋土や出土遺物（床直で羽釜破片出土）から10世紀代と考えられる。

２　溝　　跡

Ｗ－１号溝跡（Fig. 8 ）

位置　X171･172、Y145～146グリッド　**主軸方向**　Ｎ－89°－Ｗ　**形状等**　Ｕ字形。長さ3.25m、深さ27.5㎝、最大上幅190㎝、最大下幅124㎝を測る。　**出土遺物**　土師器12点・須恵器４点。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土から As-B 降下以降と考えられる。

Ｗ－２号溝跡（Fig. 8 、PL. 2 ）

位置　X171･172、Y148グリッド　**主軸方向**　Ｎ－88°－Ｗ　**形状等**　Ｕ字形。長さ4.34m、深さ16.5㎝、最大上幅68㎝、最大下幅50㎝を測る。　**重複**　Ｗ－３と重複しており、新旧関係はＷ－３→本遺構の順である。　**出土遺物**　土師器73点･須恵器41点･鉄製品１点、灰釉陶器３点。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土から As-B 降下以降と考えられる。

Ｗ－３号溝跡（Fig. 8 、PL. 2 ）

位置　X171・172、Y147～151グリッド　**主軸方向**　南北方向は北からＮ－４°－Ｅで4.75m、Ｎ－32°－Ｅで0.95

m、N－5°－Wで4.6m。東西方向はN－82°－E　**形状等**　U字形。南北方向の長さ10.3m、東西方向の長さ5.1m、深さ36.0cm、最大上幅112cm、最大下幅93cmを測る。　**重複**　W－2・5・6・7・8と重複しており、新旧関係はW－6・7・8→本遺構→W－2・5の順である。　**出土遺物**　土師器4点。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

W－4号溝跡（Fig.8、PL.2）

位置　X171・172、Y149グリッド　**主軸方向**　N－82°－E　**形状等**　U字形。長さ2.35m、深さ20.5cm、最大上幅53cm、最大下幅40cmを測る。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

W－5号溝跡（Fig.8、PL.2）

位置　X171・172、Y149・150グリッド　**主軸方向**　N－13°－W　**形状等**　U字形。長さ3.99m、深さ30.0cm、最大上幅73cm、最大下幅54cmを測る。　**重複**　W－3と重複しており、新旧関係はW－3→本遺構の順である。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

W－6号溝跡（Fig.8、PL.2）

位置　X171、Y147・148グリッド　**主軸方向**　N－66°－W　**形状等**　U字形。長さ4.15m、深さ29.0cm、最大上幅92cm、最大下幅80cmを測る。　**重複**　W－3と重複しており、新旧関係は本遺構→W－3の順である。　**出土遺物**　土師器1点。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

W－7号溝跡（Fig.8、PL.2）

位置　X171、Y149グリッド　**主軸方向**　N－86°－W　**形状等**　U字形。長さ2.50m、深さ38.0cm、最大上幅87cm、最大下幅64cmを測る。　**重複**　W－3と重複しており、新旧関係は本遺構→W－3の順である。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

W－8号溝跡（Fig.8、PL.2）

位置　X171、Y149グリッド　**主軸方向**　N－86°－E　**形状等**　U字形。長さ2.46m、深さ38.0cm、最大上幅106cm、最大下幅94cmを測る。　**重複**　W－3と重複しており、新旧関係は本遺構→W－3の順である。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

3　土坑・ピット（Fig.8）

土坑・ピットについては、Tab.6-1「土坑・ピット計測表」（p.21）を参照のこと。

4　グリッド等出土遺物

遺物は、縄文土器8点・土師器275点・須恵器75点・瓦10点・鉄製品1点・灰釉陶器9点・中世陶器2点が出土した。

6 トレンチ

1　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.10・32、PL.３・13・19）

位置　X155、Y156･157グリッド　**主軸方向**　Ｎ－108°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（2.05）m、南北（4.58）m、壁現高35.0㎝を測る。　**面積**　（6.39）㎡　**床面**　平坦で堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央南より検出され、主軸方向Ｎ－114°－Ｅ、全長100㎝、最大幅70㎝、焚口部幅30㎝を測る。構築材として、粘土、川原石、瓦を使用している。　**重複**　Ｈ－２と重複しており、新旧関係はＨ－２→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器１点・土師器172点・須恵器51点・鉄製品３点・石類１点・瓦29点。そのうち、かわらけ３点、瓦５点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から11世紀代と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.10・11・32、PL.４・13・14）

位置　X155・156、Y157・158グリッド　**主軸方向**　Ｎ－119°－Ｅ　**形状等**　長方形。東西4.24m、南北4.55m、壁現高39.5㎝を測る。　**面積**　17.37㎡　**床面**　平坦で堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向Ｎ－123°－Ｅ、全長97㎝、最大幅127㎝、焚口部幅47㎝を測る。構築材として、粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－１と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－１の順である。　**出土遺物**　土師器549点・須恵器62点・鉄製品４点・石類４点。そのうち、蓋１点、坏５点、甕１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から８世紀中葉と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig.11・32、PL.４・14）

位置　X155、Y158･159グリッド　**主軸方向**　Ｎ－114°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（3.30）m、南北（4.17）m、壁現高31.5㎝を測る。　**面積**　（9.63）㎡　**床面**　平坦で堅緻な貼り床。　**竈**　検出されず。　**重複**　Ｈ－６・８、Ｄ－４・５と重複しており、新旧関係はＨ－８→Ｄ－５→本遺構→Ｄ－４の順である。（Ｈ－６との新旧関係は不明。）　**出土遺物**　土師器235点・須恵器52点・鉄製品２点・石類１点・瓦１点。そのうち、かわらけ２点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から11世紀代と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig.11・32・33、PL.４・14・20）

位置　X155・156、Y154・155グリッド　**主軸方向**　Ｎ－106°－Ｅ　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.50）m、南北（3.62）m、壁現高50.0㎝を測る。　**面積**　（9.09）㎡　**床面**　平坦で堅緻な貼り床。　**竈**　東壁より検出され、主軸方向Ｎ－116°－Ｅ、全長（80）㎝、最大幅（72）㎝、焚口部幅44㎝を測る。構築材として、粘土、川原石、瓦を使用している。　**重複**　Ｈ－５と重複しており、新旧関係はＨ－５→本遺構の順である。　**出土遺物**　土師器211点・須恵器26点・鉄製品５点・石類２点・瓦16点。そのうち、かわらけ２点、土釜１点、瓦３点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から11世紀代と考えられる。

Ｈ－５号住居跡（Fig.11・32、PL.４・14）

位置　X155、Y154グリッド　**主軸方向**　Ｎ－97°－Ｅ　**形状等**　方形と推測される。東西(1.52)m、南北(2.08)m、壁現高23.0㎝を測る。　**面積**　(2.38)㎡　**床面**　平坦で堅緻な貼り床。　**竈**　検出されず。　**重複**　Ｈ－４と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－４の順である。　**出土遺物**　縄文土器７点･土師器157点･須恵器13点･石類４点･瓦４点。そのうち、坏１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や重複関係から Hr-FP 降下から 11世紀

代と考えられる。

Ｈ－６号住居跡（Fig.12・32・33、PL.４・５・14・18）

位置　X155･156、Y159～161グリッド　**主軸方向**　Ｎ－109°－Ｅ　**形状等**　長方形。東西4.00m、南北5.52m、壁現高39.0cmを測る。 **面積**　20.63m²　**床面**　平坦で堅緻な貼り床。 **竈**　東壁南隅より検出され､主軸方向Ｎ－123°－Ｅ、全長143cm、最大幅86cm、焚口部幅54cmを測る。構築材として、粘土、燃焼部両側にきれいに面取りした凝灰岩を使用している。　**重複**　Ｈ－３と重複しているが、新旧関係は不明。　**出土遺物**　縄文土器２点・土師器419点・須恵器67点・鉄製品２点・石類２点・瓦７点。そのうち、坏１点、高台椀２点、甕１点、鉄鏃１点、刀子１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

Ｈ－７号住居跡　欠　番

Ｈ－８号住居跡（Fig.13）

位置　X170、Y158･159グリッド　**主軸方向**　Ｎ－108°－Ｅ　**形状等**　方形と推測される。東西（1.28）m、南北（2.56）m、壁現高51.5cmを測る。　**面積**　（2.16）m²　**床面**　平坦な床面。　**竈**　Ｄ－４・５に壊されてるが、東壁より検出され、主軸方向Ｎ－108°－Ｅを測る。　**重複**　Ｈ－３、Ｄ－４・５と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｄ－５→Ｈ－３→Ｄ－４の順である。　**出土遺物**　土師器15点・須恵器３点・石類１点。　**備考**　時期は埋土や重複関係から Hr-FP 降下以降から11世紀代と考えられる。

2　土坑・ピット（Fig.13・32、PL.15）

土坑・ピットについては、Tab.6-２「土坑・ピット計測表」（p.22）を参照のこと。

なお、Ｄ－１の坏１点を図示した。

3　グリッド等出土遺物（Fig.33、PL.15）

遺物は、土師器547点・須恵器154点・鉄製品８点・石類４点・瓦20点・灰釉陶器５点が出土した。そのうち、蓋１点･高台椀２点を図示した。なお、１点の高台椀（⑥-22）の内面には銅滓が付着しており、坩堝に転用していると考えられる。

７トレンチ

1　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.15・34、PL.５・15）

位置　X109･110、Y164･165グリッド　**主軸方向**　Ｎ－94°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。西側に方形の張り出しを確認。東西（6.87）m、南北（3.37）m、壁現高104.5cmを測る。　**面積**　（17.94）m²　**床面**　平坦で全体的に堅緻な床面。周溝有。張り出しの床も同レベルで堅緻。周溝も連続して巡る。 **竈**　検出されず。 **重複**　Ｄ－１と重複しており、本遺構→Ｄ－１の順である。　**出土遺物**　土師器169点・須恵器13点・石類８点。そのうち、坏４点・壺１点・小型甕１点・甕１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から８世紀中葉と考えられる。

Ｈ－２号住居跡　欠　番

Ｈ－３号住居跡（Fig.16・34、PL.５・15）

位置　X114・115、Y163・164グリッド　**主軸方向**　Ｎ－98°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（3.25）m、南北（2.61）m、壁現高72cmを測る。　**面積**　（6.86）m²　**床面**　平坦で全体的に堅緻な床面。　**竈**　東壁より検出され、主軸方向Ｎ－103°－Ｅ、全長172cm、最大幅95cmを測る。構築材として粘土を使用している。　**重複**　Ｗ－３・５と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｗ－３・５の順である。　**出土遺物**　縄文土器２点・土師器94点・須恵器10点。そのうち、蓋１点・坏３点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から８世紀前半と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig.15・34、PL.５）

位置　X113・114、Y164・165グリッド　**主軸方向**　Ｎ－102°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（3.72）m、南北(3.10)m、壁現高54.5cmを測る。　**面積**　(9.10)m²　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　検出されず　**重複**　Ｄ－７と重複しており、新旧関係はＤ－７→本遺構の順である。　**出土遺物**　土師器303点・須恵器28点・石類１点・灰釉陶器３点。そのうち、坏１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から８世紀前半と考えられる。

２　竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.16）

位置　X125・126、Y164・165グリッド　**主軸方向**　Ｎ－79°－Ｅ　**形状等**　方形と推測される。東西（3.70）m、南北（0.74）m、壁現高34.5cmを測る。　**面積**　（3.71）m²　**床面**　凹凸のある床面。　**出土遺物**　土師器10点・須恵器８点。　**備考**　セクションでは、ほぼ平坦に堆積している土層が認められたが、堅緻ではなかったため住居跡との断定は避けた。時期は埋土から Hr-FP 降下以降から As-B 降下以前と考えられる。

３　溝　　跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.17、PL.６）

位置　X119・120、Y163～165グリッド　**主軸方向**　Ｎ－０°－Ｗ　**形状等**　Ｕ字形。長さ5.48m、深さ24.5cm、最大上幅120cm、最大下幅68cmを測る。　**出土遺物**　土師器５点・須恵器３点。　**備考**　流水の痕跡無し。溝の両側にピット列有。時期は埋土から As-B 降下以降と考えられる。

Ｗ－２号溝跡（Fig.17）

位置　X117、Y163～165グリッド　**主軸方向**　Ｎ－４°－Ｗ　**形状等**　Ｕ字形。長さ北側5.28m、深さ17.5cm、最大上幅86cm、最大下幅53cmを測る。底部に硬化面有。　**出土遺物**　土師器４点・須恵器１点。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土から As-B 降下以降と考えられる。

Ｗ－３号溝跡（Fig.17）

位置　X115・116、Y163～165グリッド　**主軸方向**　Ｎ－０°－Ｗ　**形状等**　Ｕ字形。長さ5.29m、深さ20.5cm、最大上幅149cm、最大下幅87cmを測る。　**重複**　Ｈ－３と重複しており、新旧関係はＨ－３→本遺構の順である。出土遺物　土師器35点・須恵器３点・瓦１点。　**備考**　流水の痕跡有。時期は埋土や重複関係から８世紀から As-B 降下以前と考えられる。

Ｗ－４号溝跡（Fig.17）

位置　X112、Y163～165グリッド　**主軸方向**　Ｎ－０°－Ｗ　**形状等**　Ｕ字形。長さ5.23m、深さ5.5㎝、最大上幅46㎝、最大下幅31㎝を測る。　**出土遺物**　土師器４点・須恵器１点。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土からHr-FP降下からAs-B降下以降と考えられる。

Ｗ－５号溝跡（Fig.17）

位置　X114･115、Y163～165グリッド　**主軸方向**　Ｎ－12°－Ｅ　**形状等**　Ｕ字形。長さ5.39m、深さ17.5㎝、最大上幅78㎝、最大下幅60㎝を測る。　**重複**　Ｈ－３、Ｄ－６と重複しており、新旧関係はＨ－３、Ｄ－６→本遺構の順である。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土や重複関係から８世紀からAs-B降下以前と考えられる。

Ｗ－６号溝跡（Fig.17）

位置　X106、Y163～165グリッド　**主軸方向**　Ｎ－15°－Ｅ　**形状等**　Ｕ字形。長さ4.37m、深さ22.5㎝、最大上幅136㎝、最大下幅106㎝を測る。　**出土遺物**　土師器５点・須恵器11点。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土からHr-FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。

Ｗ－７号溝跡（Fig.17）

位置　X118･119、Y163～165グリッド　**主軸方向**　南北方向はＮ－２°－Ｗ、東西方向はＮ－87°－Ｗ　**形状等**　Ｕ字形。南北方向の長さは5.38m・東西方向の長さは4.08m、深さ11.5㎝、最大上幅60㎝、最大下幅46㎝を測る。**備考**　溝上部が硬化しており、道路として利用した可能性が考えられる。時期は埋土からHr-FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。

Ｗ－８号溝跡（Fig.17）

位置　X124、Y164･165グリッド　**主軸方向**　Ｎ－１°－Ｗ　**形状等**　Ｕ字形。長さ2.82m、深さ10.5㎝、最大上幅48㎝、最大下幅26㎝を測る。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

４　土坑・土坑墓・ピット（Fig.18・34、PL.６・15）

土坑・土坑墓・ピットについては、Tab.6-３「土坑・土坑墓・ピット計測表」（p.22・23）を参照のこと。

DB－２号土坑墓からは、かわらけ１点・内黒高台椀２点・灰釉高台椀１点を出土した。かわらけは、やや器肉が厚く口縁端部が外反する。内黒高台椀は、酸化焔焼成で、腰部の張るやや深い体部で、高台部内側は回転撫で調整を行っている。灰釉高台椀は、腰部の張るやや深い体部で、口唇部内面・底部内面に沈線が巡る。搬入品の灰釉高台椀は、虎渓山１号窯式で10世紀後半と比定され、かわらけ及び内黒高台椀は11世紀前半のものと考えられる（中沢　悟：群馬県埋蔵文化財調査事業団「清里･陣場遺跡」より）。また、埋土にAs-B軽石を含まないことから、埋葬時期については、11世紀前半からAs-B降下以前の時期と考えられる。

なお、Ｄ－１の蓋２点、DB－１の高台椀１点、DB－２のかわらけ１点･高台椀３点、DB－３のかわらけ２点を図示した。

５　グリッド等出土遺物（Fig.38）

遺物は、縄文土器１点・土師器120点・須恵器34点・瓦７点・鉄製品１点・石類２点・古銭１点、灰釉陶器１点

が出土した。そのうち、土製円盤１点を図示した。

8 トレンチ

1　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.20）

位置　X94･95、Y177･178グリッド　**主軸方向**　Ｎ－84°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（1.34）m、南北(4.32)m、壁現高40.5cmを測る。　**面積**　(4.63)㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**出土遺物**　土師器61点・須恵器20点・瓦１点・石類３点。　**備考**　時期は埋土から Hr-FP 降下以降から As-B 降下以前と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.20・35、PL.７）

位置　X94、Y178･179グリッド　**主軸方向**　Ｎ－84°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西(0.95)m、南北(4.73) m、壁現高38.5cmを測る。　**面積**　(3.18) ㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁中央南より検出され、主軸方向Ｎ－84°－Ｅ、全長76cm、最大幅81cm、焚口部幅61cmを測る。構築材として粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－６と重複しており、新旧関係はＨ－６→本遺構の順である。　**出土遺物**　土師器37点・須恵器33点・瓦２点・鉄類３点・灰釉陶器１点。そのうち、高台椀１点・羽釜１点・瓦１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig.20・35、PL.７・８・16・18・19・20）

位置　X93･94、Y176･177グリッド　**主軸方向**　Ｎ－87°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（2.32）m、南北（4.18）m、壁現高37cmを測る。　**面積**　(7.83) ㎡　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**竈**　東壁中央南より検出され、主軸方向Ｎ－94°－Ｅ、全長87cm、最大幅92cm、焚口部幅38cmを測る。構築材として粘土、支脚に瓦を使用している。　**出土遺物**　土師器114点・須恵器128点・瓦４点・鉄類１点・石類１点・灰釉陶器１点。そのうち、坏３点・高台椀１点・甕１点・羽釜２点・鉄製紡錘車１点・瓦３点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig.21）

位置　X95、Y181･182グリッド　**主軸方向**　Ｎ－98°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西(2.23)m、南北(3.54) m、壁現高46.5cmを測る。　**面積**　(5.70) ㎡　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　Ｄ－11と重複しており、新旧関係はＤ－11→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器２点・土師器45点・須恵器８点・瓦10点。　**備考**　時期は埋土から Hr-FP 降下以降から As-B 降下以前と考えられる。

Ｈ－５号住居跡（Fig.21・36、PL.８・16・17）

位置　X94･95、Y185グリッド　**主軸方向**　Ｎ－85°－Ｅ　**形状等**　方形と推測される。東西（1.02）m、南北（2.34）m、壁現高38cmを測る。　**面積**　(1.98) ㎡　**床面**　平坦で全体的に堅緻な床面。　**竈**　東壁より検出され、主軸方向Ｎ－93°－Ｅ、全長（114）cm、最大幅（51）cm、焚口部幅（31）cmを測る。構築材として粘土を使用している。　**重複**　Ｗ－２と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｗ－２の順である。　**出土遺物**　縄文土器１点・土師器84点・瓦１点。そのうち、坏２点・甕１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から７世紀末から８

世紀前半と考えられる。

Ｈ－６号住居跡（Fig.21・36、PL.８・17・18）

位置　X94、Y178･179グリッド　**主軸方向**　Ｎ－89°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西(1.67)ｍ、南北(3.22)ｍ、壁現高41㎝を測る。　**面積**　(4.53)㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向Ｎ－102°－Ｅ、全長129㎝、最大幅110㎝、焚口部幅58㎝を測る。構築材として粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－２と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－２の順である。　**出土遺物**　土師器53点･須恵器20点･瓦５点･鉄類１点・灰釉陶器１点。そのうち、坏１点・高台椀１点・鉄製品１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物、重複関係からＨ－２よりやや古い９世紀後半から10世紀前半と考えられる。

２　竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.22、PL.８）

位置　X95･96、Y176グリッド　**主軸方向**　Ｎ－95°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西(2.87)ｍ、南北(1.11)ｍ、壁現高34㎝を測る。　**面積**　(2.51)㎡　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**出土遺物**　土師器18点･須恵器７点･鉄類１点･石類３点･灰釉陶器１点。　**備考**　東壁付近で川原石が集中して出土している。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

Ｔ－２号竪穴状遺構（Fig.22、PL.８）

位置　X94・95、Y175・176グリッド　**主軸方向**　Ｎ－92°－Ｅ　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.68）ｍ、南北（4.56）ｍ、壁現高74㎝を測る。　**面積**　(9.78)㎡　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**出土遺物**　土師器12点･須恵器８点・鉄類１点。　**備考**　時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

３　溝　　跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.23）

位置　X95、Y182･183グリッド　**主軸方向**　Ｎ－７°－Ｗ　**形状等**　Ｕ字形。北側は長さ0.91ｍ･南側は長さ3.32ｍ、深さ14.5㎝、最大上幅38㎝、最大下幅23㎝を測る。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土からHr-FP降下からAs-B降下以前と考えられる。

Ｗ－２号溝跡（Fig.23、PL.８）

位置　X94～96、Y183～185グリッド　**主軸方向**　Ｎ－76°－Ｗ　**形状等**　Ｕ字形。長さ7.99ｍ、深さ97.5㎝、最大上幅611㎝、最大下幅204㎝を測る。　**重複**　Ｈ－５と重複しており、新旧関係はＨ－５→本遺構の順である。　**出土遺物**　須恵器４点・瓦１点・石類４点。　**備考**　部分的に硬化面有。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

４　土坑・ピット・井戸跡（Fig.23・24）

土坑・ピット・井戸跡については、Tab.6-４「土坑・ピット・井戸跡計測表」(p.23・24）を参照のこと。

5　グリッド等出土遺物

遺物は、縄文土器３点・土師器182点・須恵器97点・瓦２点・石類１点・鉄製品１点・灰釉陶器１点が出土した。

9 トレンチ

1　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.26・36、PL.９・17）

位置　X33～35、Y150･151グリッド　**主軸方向**　Ｎ－75°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（5.15）m、南北（4.24）m、壁現高64cmを測る。　**面積**　（16.29）㎡　**床面**　ほぼ平坦で部分的に堅緻な床面。　**竈**　東壁より検出され、主軸方向Ｎ－76°－Ｅ、全長190cm、最大幅147cm、焚口部幅63cmを測る。構築材として粘土を使用しており、袖部も全体を粘土で構築している。支脚には、凝灰岩を使用。　**重複**　Ｈ－５と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－５の順である。　**出土遺物**　縄文土器55点・土師器278点・須恵器70点・瓦４点・鉄類３点・円筒埴輪３点。そのうち、坏３点・盤２点・高坏１点・小型甕１点・瓶１点・壺１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から８世紀中葉と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.27、PL.９）

位置　X34･35、Y152グリッド　**主軸方向**　Ｎ－70°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（3.68）m、南北（4.24）m、壁現高26.5cmを測る。　**面積**　（5.51）㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　Ｈ－３と重複しており、新旧関係はＨ－３→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器７点・土師器103点・須恵器 13点・瓦３点・鉄類１点。　**備考**　時期は埋土や重複関係から６世紀後半から As-B 降下以前と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig.27・37、PL.９・17）

位置　X35、Y152グリッド　**主軸方向**　Ｎ－88°－Ｅ　**形状等**　方形と推測される。東西（1.38）m、南北（1.80）m、壁現高28.5cmを測る。　**面積**　（1.85）㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　Ｈ－２と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－２の順である。　**出土遺物**　縄文土器２点・土師器15点・須恵器１点・瓦１点・鉄類１点・灰釉陶器１点。そのうち、坏１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から６世紀後半と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig.27・37）

位置　X32･33、Y152グリッド　**主軸方向**　Ｎ－76°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（3.54）m、南北（1.57）m、壁現高59.5cmを測る。　**面積**　（3.72）㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**出土遺物**　土師器17点・須恵器22点。そのうち、甕１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から９世紀代と考えられる。

Ｈ－５号住居跡（Fig.27・37、PL.10・18）

位置　X33・34、Y151・152グリッド　**主軸方向**　Ｎ－73°－Ｅ　**形状等**　正方形。東西（2.45）m、南北（2.70）m、壁現高34.5cmを測る。　**面積**　（5.88）㎡　**床面**　北側がやや低い。部分的に堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南より検出され、主軸方向Ｎ－96°－Ｅ、全長85cm、最大幅90cm、焚口部幅40cmを測る。構築材として粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－１と重複しており、新旧関係はＨ－１→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器３点・

土師器229点・瓦11点・円筒埴輪１点。そのうち、坏１点・高台椀１点・甕１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

２　溝　　跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.28、PL.10）

位置　X31・32、Y151・152グリッド　**主軸方向**　Ｎ－４°－Ｗ　**形状等**　逆台形。長さ7.41m、深さ116.5㎝、最大上幅（458）㎝、最大下幅（204）㎝を測る。　**出土遺物**　縄文土器29点・土師器150点・須恵器116点・瓦116点・石類13点・灰釉陶器３点・陶器16点。　**備考**　７枚の硬化面有。時期は埋土から As-B 降下以降と考えられる。

Ｗ－２号溝跡（Fig.28）

位置　X36、Y151・152グリッド　**主軸方向**　Ｎ－１°－Ｗ　**形状等**　Ｕ字形。長さ7.80m、深さ32.0㎝、最大上幅63㎝、最大下幅40㎝を測る。　**重複**　Ｗ－３、Ｄ－４と重複しており、新旧関係はＤ－４→Ｗ－３→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器４点・土師器８点・須恵器３点・灰釉陶器１点。　**備考**　時期は埋土から As-B 降下以降と考えられる。

Ｗ－３号溝跡（Fig.28、PL.10）

位置　X35・36、Y151・152グリッド　**主軸方向**　Ｎ－２°－Ｗ　**形状等**　逆台形。長さ7.80m、深さ24.0㎝、最大上幅（328）㎝、最大下幅（304）㎝を測る。　**重複**　Ｗ－２・４、Ｄ－１・２・３・４・５と重複しており、新旧関係はＤ－１・２・３・４・５→本遺構→Ｗ－２・４の順である。　**出土遺物**　縄文土器47点・土師器90点・須恵器21点・瓦７点・鉄製品１点。　**備考**　北に位置する過年度調査区で検出された溝跡の続きと思われる。基盤層の総社砂層を掘り込み、最下部に As-C・Hr-FP を含む暗褐色の非常に堅くしまった層がある。時期は埋土や重複関係から７世紀後半から As-B 降下以前と考えられる。詳細については「Ⅴまとめ」で記述する。

Ｗ－４号溝跡（Fig.28）

位置　X36、Y152グリッド　**主軸方向**　Ｎ－２°－Ｗ　**形状等**　Ｕ字形。長さ3.68m、深さ56.5㎝、最大上幅73㎝、最大下幅38㎝を測る。　**重複**　Ｗ－３と重複しており、新旧関係はＷ－３→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器15点・土師器50点・須恵器21点・瓦６点・石類１点。　**備考**　時期は埋土から As-B 降下以降と考えられる。

３　土坑・ピット（Fig.28・37、PL.18）

土坑・ピットについては、Tab.6-５「土坑・ピット計測表」（p.24）を参照のこと。
なお、Ｄ－４の坏１点を図示した。

４　グリッド等出土遺物（Fig.37・40、PL.18）

遺物は、縄文土器43点・土師器340点・須恵器183点・瓦60点・鉄製品１点・石類７点・灰釉陶器７点・陶器17点・埴輪３点が出土した。そのうち、坏１点・瓶１点・埴輪１点・瓦１点を図示した。

〈5トレンチ〉

Tab. 4 － 1　竪穴住居跡一覧表／5トレンチ

遺構名	位　置	規模（m）		壁現高（cm）	面積（m²）	主軸方向	炉・竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北				位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X171・172、Y143・144	[3.78]	[3.82]	54.5	[13.6]	N－72°－E	東壁中央南	粘土	—	坏・甕		
H－2	X171・172、Y143・144	[2.73]	[3.27]	53.5	[8.49]	N－97°－E	東壁南	—	—			臼玉
H－3	X171・172、Y142・143	(3.59)	(4.55)	49.5	(11.58)	N－106°－E	—	—	—		坏・高台椀	
H－4	X170・171、Y143・144	(2.75)	(3.90)	51.0	(8.52)	N－104°－E	東壁中央	粘土・川原石	—		坏・羽釜	刀子
H－5	X171・172、Y144・145	(2.40)	(3.92)	35.0	(7.39)	N－100°－E	—	—	—		高台椀・羽釜	緑釉
H－6	X170・171、Y143・144	2.78	3.82	54.0	9.39	N－98°－E	東壁中央やや南	粘土・石・凝灰岩	—		坏・高台椀・甑	紡錘車
H－7	X170、Y144・145	(0.96)	(3.65)	76.0	(2.68)	N－83°－E	東壁中央南	粘土	—			
H－8	X170、Y145	(0.39)	(1.20)	55.0	(0.45)	N－91°－E	—	—	—			

Tab. 5 － 1　溝跡計測表／5トレンチ

遺構名	位　置	長さ（m）	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方位	断面形	備　考（時　期）
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X171・172、Y145～146	3.25	27.5	21.0	190	139	124	58	N－89°－W	U字形	中世以降
W－2	X171・172、Y148	4.34	16.5	2.5	68	57	50	40	N－88°－W	U字形	中世以降
W－3	X171・172、Y147～151	10.3（南北） 5.1（東西）	36.0	21.0	112	52	93	34	南北方向は北からN－4°－Eで4.75m進み、そこからN－32°－Eで0.95m進み、さらにN－5°－Wで4.6m進み南壁にあたる。 東西方向はN－82°－E	U字形	中世以降
W－4	X171・172、Y149	2.35	20.5	16.0	53	33	40	16	N－82°－E	U字形	中世以降
W－5	X171・172、Y149・150	3.99	30.0	21.0	73	64	54	43	N－13°－W	U字形	中世以降
W－6	X171、Y147・148	4.15	29.0	15.5	92	82	80	65	N－66°－W	U字形	中世以降
W－7	X171、Y149	2.50	38.0	29.5	87	77	64	52	N－86°－W	U字形	中世以降
W－8	X171、Y149	2.46	38.0	34.5	106	96	94	81	N－86°－E	U字形	中世以降

Tab. 6 － 1　土坑・ピット計測表／5トレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	備　考（遺物）
D－1	X170・171、Y144	85	73	21.5	楕円形	土3・須2
D－2	X171、Y145	93	48	11.0	楕円形	
D－3	X171、Y143	113	93	66.0	楕円形	
P－1	X171、Y148	38	38	29.0	円　形	
P－2	X171、Y148	36	33	27.0	円　形	
P－3	X171、Y150	67	(56)	61.5	楕円形	

※縄…縄文土器、土…土師器、須…須恵器（かわらけを含む）、灰…灰釉陶器、鉄…鉄製品、石…石類（黒曜石を含む）

〈6トレンチ〉

Tab. 4 － 2　竪穴住居跡一覧表／6トレンチ

遺構名	位　置	規模（m）		壁現高（cm）	面積（m²）	主軸方向	炉・竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北				位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X155、Y156・157	(2.05)	(4.58)	35.0	(6.39)	N－108°－E	東壁中央南	粘土・瓦・石	—			かわらけ
H－2	X155・156、Y157・158	4.24	4.55	39.5	17.37	N－119°－E	東壁中央やや南	粘土	—	蓋・坏・甕		
H－3	X155、Y158・159	(3.30)	(4.17)	31.5	(9.63)	N－114°－E	—	—	—			かわらけ
H－4	X155・156、Y154・155	(3.50)	(3.62)	50.0	(9.09)	N－106°－E	東壁	粘土・瓦・石	—		土釜	かわらけ
H－5	X155、Y154	(1.52)	(2.08)	23.0	(2.38)	N－97°－E	—	—	—		坏	
H－6	X155・156、Y159～161	4.00	5.52	39.0	20.63	N－109°－E	東壁南隅	粘土・凝灰岩	—		坏・高台椀・甕	鉄鏃
H－7	欠　番											
H－8	X155、Y158・159	(1.28)	(2.56)	51.5	(2.16)	N－108°－E	東壁	—	—			

Tab. 6 － 2　土坑・ピット計測表／6 トレンチ

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	備　考（遺物）
D－1	X155、Y155・156	100	62	29.0	楕円形	土10・須1
D－2	X155、Y156	150	60	27.0	楕円形	土15・須2
D－3	X155・156、Y155	119	102	24.0	円形	
D－4	X155、Y159	140	(70)	37.5	半円形	
D－5	X155、Y159	108	(55)	29.0	半円形	
D－6	X155・156、Y156	233	167	46.0	楕円形	土11・瓦3
D－7	X156、Y160	126	(122)	59.0	円形	土42・須9
P－1	X155、Y154	50	46	62.0	円形	
P－2	X156、Y154	65	36	14.0	楕円形	
P－3	X155、Y156	60	54	58.0	円形	
P－4	X155、Y157	66	56	37.0	楕円形	

※縄…縄文土器、土…土師器、須…須恵器（かわらけを含む）、灰…灰釉陶器、鉄…鉄製品、石…石類（黒曜石を含む）

〈7 トレンチ〉

Tab. 4 － 3　竪穴住居跡一覧表／7 トレンチ

遺構名	位　　置	規模（m）		壁現高(cm)	面積(m²)	主軸方向	炉・竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北				位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X109・110、Y164・165	(6.87)	(3.37)	104.5	(17.94)	N－94°－E	—	—	○	坏・甕	壺	—
H－2	欠　　番											
H－3	X114・115、Y163・164	(3.25)	(2.61)	72.0	(6.86)	N－98°－E	東壁	粘土	○	坏	蓋	—
H－4	X113・114、Y164・165	(3.72)	(3.10)	54.5	(9.10)	N－102°－E	—	—	—	坏	—	—
T－1	X125・126、Y164・165	(3.70)	(0.74)	34.5	(3.71)	N－79°－E	—	—	—	—	—	—

Tab. 5 － 3　溝跡計測表／7 トレンチ

遺構名	位　　置	長さ（m）	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方位	断面形	備　考（時　期）
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X119・120、Y163～165	5.48	24.5	17.5	120	90	68	46	N－0°－W	U字形	中世以降
W－2	X117、Y163～165	5.28	17.5	11.5	86	58	53	38	N－4°－W	U字形	中世以降（底部硬化面有）
W－3	X115・116、Y163～165	5.29	20.5	11.5	149	117	87	52	N－0°－W	U字形	古　代
W－4	X112、Y163～165	5.23	5.5	2.5	46	34	31	18	N－0°－W	U字形	古　代
W－5	X114・115、Y163～165	5.39	17.5	7.5	78	51	60	29	N－12°－E	U字形	古　代
W－6	X106、Y163～165	4.37	22.5	10.0	136	130	106	94	N－15°－E	U字形	古　代
W－7	X118・119、Y163～165	5.38（南北） 4.08（東西）	11.5	1.5	60	47	46	32	N－2°－W（南北） N－87°－W（東西）	U字形	古　代（上部硬化面）
W－8	X124、Y164・165	2.82	10.5	5.0	48	30	26	18	N－1°－W	U字形	中世以降

Tab. 6 － 3　土坑・土坑墓・ピット計測表／7 トレンチ

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	備　考（遺物）
D－1	X109、Y164	100	90	19.5	円形	須2
D－2	X114・115、Y165	(90)	73	35.0	楕円形	
D－3	X105、Y163・164	110	(48)	61.0	半円形	鉄1
D－4	X118、Y164・165	114	67	46.5	楕円形	
D－5	X118、Y164	107	98	38.5	円形	
D－6	X114、Y165	100	(57)	43.0	半円形	
D－7	X114、Y165	(113)	(75)	44.5	不整形	土12・須2
DB－1	X111、Y164	163	89	20.5	楕円形	土7・須1
DB－2	X123、Y163・164	256	121	50.0	楕円形	縄2・土5・須4・灰3
DB－3	X122・123、Y164・165	259	67	57.0	楕円形	縄1・土8・須12

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	備　考（遺物）
P－1	X113、Y164	60	55	28	円形	
P－2	X112、Y164	76	63	27.5	楕円形	土3・須2
P－3	X111、Y164	72	56	12.5	楕円形	
P－4	X111、Y164	54	44	20.0	楕円形	

※縄…縄文土器、土…土師器、須…須恵器（かわらけを含む）、灰…灰釉陶器、鉄…鉄製品、石…石類（黒曜石を含む）

〈8トレンチ〉

Tab. 4－4　竪穴住居跡一覧表／8トレンチ

遺構名	位　　置	規模（m）		壁現高(cm)	面積(m²)	主軸方向	炉・竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北				位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X94・95、Y177・178	(1.34)	(4.32)	40.5	(4.63)	N－84°－E	—	—	—	—	—	—
H－2	X94、Y178・179	(95)	(4.73)	38.5	(3.18)	N－79°－E	東壁中央南	粘土	—	—	高台椀・羽釜	瓦
H－3	X93・94、Y176・177	(2.32)	(4.18)	37.0	(7.83)	N－87°－E	東壁中央南	粘土・瓦	—	甕	坏・高台椀・羽釜	瓦
H－4	X95、Y181・182	(2.23)	(3.54)	46.5	(5.70)	N－98°－E	—	—	—	—	—	—
H－5	X94・95、Y185	(1.02)	(2.34)	38.0	(1.98)	N－85°－E	東壁	粘土	—	坏・甕	—	—
H－6	X94、Y178・179	(1.67)	(3.22)	41.0	(4.53)	N－89°－E	東壁中央やや南	粘土	—	—	坏・高台椀	鉄製品
T－1	X95・96、Y176	(2.87)	(1.11)	34.0	(2.51)	N－95°－E	—	—	—	—	—	—
T－2	X94・95、Y175・176	(3.68)	(4.56)	74	(9.78)	N－92°－E	—	—	—	—	—	—

Tab. 5－4　溝跡計測表／8トレンチ

遺構名	位　　置	長さ（m）	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方位	断面形	備　考（時　期）
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X95、Y182・183	0.91（北側） 3.32（南側）	14.5	3.0	38	26	23	12	N－7°－W	U字形	古　代
W－2	X94～96、Y183～185	7.99	97.5	88.0	611	570	204	173	N－76°－W	U字形	中世以降

Tab. 6－4　土坑・ピット・井戸跡計測表／8トレンチ

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	備　考（遺物）
D－1	X94、Y178	77	75	12.0	円形	
D－2	X94、Y178・179	107	64	12.5	楕円形	土6
D－3	X94、Y177	70	69	22.0	円形	
D－4	X94・95、Y177	74	74	15.0	方形	
D－5	X94、Y179・180	90	28	9.0	楕円形	
D－6	X94、Y174	160	142	25.0	円形	土3・須1・瓦1
D－7	X94、Y177	148	55	17.0	楕円形	土6・須3・石1
D－8	X93・94、Y177	81	52	22.5	半円形	土1・須2
D－9	X95、Y183	95	89	21.0	円形	須2
D－10	X95、Y182・183	102	58	12.5	楕円形	
D－11	X95、Y180・181	251	127	58.0	半円形	土8・須3・石1
P－1	X94、Y177	34	30	30.5	円形	
P－2	X94、Y176・177	32	28	35.5	円形	
P－3	X94、Y178	31	25	23.5	楕円形	
P－4	X94、Y178	35	25	26.0	楕円形	
P－5	X94・95、Y178	27	19	18.5	楕円形	
P－6	X94、Y179	27	22	14.0	楕円形	
P－7	X94、Y178	26	20	12.5	楕円形	
P－8	X94、Y179	32	24	22.5	楕円形	
P－9	X94、Y178	29	25	19.5	円形	
P－10	X94、Y178	23	23	23.5	円形	

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	備　考（遺物）
P－11	X93、Y177	31	31	19.5	円形	
P－12	X94、Y177	53	45	20.5	楕円形	
P－13	X95、Y182・183	68	60	41.0	楕円形	
P－14	X94、Y183	41	41	48.5	円形	
P－15	X95、Y183	51	42	45.0	不整形	
P－16	X94、Y183	46	42	37.0	円形	
P－17	X95、Y183	53	50	49.5	円形	土３
P－18	X95、Y183	50	42	50.0	楕円形	
P－19	X95、Y183	56	37	35.5	楕円形	
P－20	X94、Y182・183	88	50	50.5	楕円形	土６
P－21	X94、Y181・182	55	43	41.5	楕円形	土４
P－22	X94、Y181	49	44	40.5	円形	
P－23	X94、Y181	52	46	33.0	円形	
P－24	X94、Y182	80	50	41.0	楕円形	土７
I－1	X96、Y176	87	83	―	円形	土５・鉄１

※縄…縄文土器、土…土師器、須…須恵器（かわらけを含む）、灰…灰釉陶器、鉄…鉄製品、石…石類（黒曜石を含む）

〈９トレンチ〉

Tab. 4 － 5　竪穴住居跡一覧表／９トレンチ

遺構名	位　　置	規模（m）		壁現高 (cm)	面積 (m²)	主軸方向	炉・竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北				位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X33～35、Y150・151	(5.15)	(4.24)	64	(16.29)	N－75°－E	東壁	粘土・凝灰岩	―	坏・甕	盤・高坏・瓶・壺	
H－2	X34・35、Y152	(3.68)	(2.48)	26.5	(5.51)	N－70°－E	―	―	―	―	―	―
H－3	X35、Y152	(1.38)	(1.80)	28.5	(1.85)	N－88°－E	―	―	―	坏	―	―
H－4	X32・33、Y152	(3.54)	(1.57)	59.5	(3.72)	N－76°－E	―	―	―	甕	―	―
H－5	X33・34、Y151・152	2.45	2.70	34.5	5.88	N－73°－E	東壁中央南	粘土	―	甕	坏・高台椀	―

Tab. 5 － 5　溝跡計測表／９トレンチ

遺構名	位　　置	長さ（m）	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方位	断面形	備　考（時　期）
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X31・32、Y151・152	7.41	116.5	99.0	(458)	(404)	(204)	172	N－4°－W	逆台形	中世以降
W－2	X36、Y151・152	7.80	32.0	20.0	63	43	40	27	N－1°－W	U字形	中世以降
W－3	X35・36、Y151・152	7.80	24.0	7.0	(328)	(274)	(304)	(253)	N－2°－W	逆台形	古　代
W－4	X36、Y152	3.68	56.5	46.5	73	54	38	18	N－2°－W	U字形	中世以降

Tab. 6 － 5　土坑・ピット計測表／９トレンチ

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	備　考（遺物）
D－1	X35、Y151・152	237	170	54.5	楕円形	縄６・土20・須11・瓦１・石１
D－2	X35、Y151	232	168	58.5	楕円形	縄３・土３・須７
D－3	X35・36、Y151	(214)	(46)	52.0	不整形	
D－4	X36、Y151	(96)	(58)	52.0	半円形	土９
D－5	X35、Y151	130	(123)	38.0	円形	
P－1	X26、Y151	73	(40)	19.5	半円形	

※縄…縄文土器、土…土師器、須…須恵器（かわらけを含む）、灰…灰釉陶器、鉄…鉄製品、石…石類（黒曜石を含む）

Tab. 7 － 1　奈良・平安時代出土土器観察表／５トレンチ

番号	遺構番号 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
1	H－1 埋土	坏 土師器	①[12.2] ②　3.8	①細粒②良好 ③にぶい橙色④3/5	口縁部：短く内彎、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	45ほか	
2	H－1 床直	甕 土師器	①[15.0] ②(14.7)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④破片	口縁部：外傾、内・外面横撫で。胴部：下半を欠損。やや膨らみ中位が口径とほぼ同型で器最大径。内面撫で、外面斜め篦削り。	10	
3	H－3 埋土	坏 須恵器	① 12.1 ②　4.6	①細粒②良好 ③灰白色④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：径5.8cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	H－2－2	酸化焔焼成
4	H－3 床直	高台椀 須恵器	① 12.4 ②　4.9	①細粒②良好 ③灰色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	H－2－1	いぶし焼成
5	H－3 床直	高台椀 須恵器	① 12.0 ②　5.1	①細粒②良好 ③灰白色④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	５ほか	
6	H－3 床直	土　釜 須恵器	①[26.7] ②(15.7)	①細粒②良好 ③褐灰色④破片	轆轤整形。全体的に器肉が厚い。口縁部：直立気味から短く外反、内・外面撫で。胴部：下位を欠損。内面撫で、外面縦篦削り。	６ほか	
7	H－4 床直	坏 須恵器	① 12.4 ②　3.9	①細粒②良好 ③明黄褐色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部外反、内・外面撫で。底部：径5.5cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	28ほか	
8	H－4 床直	坏 須恵器	① 12.6 ②　3.9	①細粒②良好 ③灰黄色④ほぼ完形	轆轤整形。全体的に器肉が厚い。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。轆轤痕顕著。底部：径6.0cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	10	体部外面墨書
9	H－4 埋土	坏 須恵器	① 12.6 ②　4.1	①細粒②良好 ③にぶい灰橙色④完形	轆轤整形。全体的に器肉が厚い。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。轆轤痕顕著。底部：径5.7cmの平底、内面撫で、外面手持ち篦削り。	60	
10	H－4 床直	坏 須恵器	①[11.8] ②　3.5	①細粒②良好 ③浅黄色④3/4	轆轤整形。全体的に器肉が厚い。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。轆轤痕顕著。底部：径5.8cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	30	
11	H－4 床直	高台椀 須恵器	① 13.1 ②　5.2	①細粒②良好 ③灰黄色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	11	体部外面墨書
12	H－4 床直	高台椀 須恵器	① 14.4 ②　5.3	①細粒②良好③オリーブ黒色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	20	いぶし焼成
13	H－4 床直	高台椀 須恵器	①[13.3] ②　5.2	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④2/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	40	
14	H－4 床直	高台椀 須恵器	①[12.6] ②　5.1	①細粒②良好 ③灰白色④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	33	
15	H－4 竈内	羽　釜 須恵器	①[22.0] ②(24.7)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/3	轆轤整形。口縁部：内傾。内・外面撫で。鍔部：断面三角形でやや上向きに付く。胴部：内・外面撫で。外面下位斜め篦削り。底部：欠損。	51ほか	酸化焔焼成
16	H－4 竈内	羽　釜 須恵器	①[18.2] ②(24.1)	①粒②良好 ③浅黄色④1/3	轆轤整形。口縁部：内傾。内・外面撫で。鍔部：断面三角形でほぼ水平に付く。胴部：内・外面撫で。外面下位斜め篦削り。底部：欠損。	36ほか	酸化焔焼成
17	H－4 床直	羽　釜 須恵器	①[23.4] ②(25.4)	①細粒②良好 ③灰白色④1/4	轆轤整形。口縁部：内傾。内・外面撫で。鍔部：断面三角形でやや上向きに付く。胴部：内・外面撫で。外面下位斜め篦削り。外面煤付着。底部：欠損。	29ほか	
18	H－5 P_6	緑　釉	①　— ②　—	①細粒②良好 ③オリーブ灰色④破片	内面模様か。		
19	H－5 床直	高台椀 須恵器	①　— ②　—	①細粒②良好 ③橙色	轆轤整形。高台椀の高台部を逆にして転用。径5.0cm、高さ2.9cm。内面に漆付着。	22	転用
20	H－5 床直	羽　釜 須恵器	①[22.0] ②(12.6)	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④破片	轆轤整形。口縁部：やや内傾。内・外面撫で。鍔部：断面三角形で水平に付く。胴部：内・外面撫で。底部：欠損。	17	
21	H－6 床直	坏 須恵器	① 10.5 ②　4.3	①細粒②良好 ③黒褐色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部外反、内・外面撫で。底部：径5.0cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	H－1－12	小型・いぶし焼成
22	H－6 床直	坏 須恵器	① 10.5 ②　3.5	①細粒②良好 ③橙色④完形	轆轤整形。全体的に器肉が厚い。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。轆轤痕顕著。底部：径4.6cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	14	小型・煤
23	H－6 床直	高台椀 須恵器	① 11.7 ②　5.1	①細粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	轆轤整形。全体的に器肉が厚い。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。轆轤痕顕著。底部：内面撫で、外面回転糸切り後角形の高台を付す。	12	酸化焔焼成・漆
24	H－6 床直	高台椀 須恵器	① 11.5 ②　5.0	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後細くやや高い高台を付す。	49	酸化焔焼成・煤
25	H－6 竈内	高台椀 須恵器	①[12.2] ②　4.8	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。轆轤痕顕著。底部：内面撫で、外面回転糸切り後角形の高台を付す。	16ほか	
26	H－6 床直	高台椀 須恵器	①[15.4] ②　7.2	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④3/4	轆轤整形。全体的に器肉が厚い。口縁・体部：外傾から口縁端部外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後細く高い高台を付す。	4	酸化焔焼成・煤
27	H－6 床直	高台椀 須恵器	① 14.6 ②　6.7	①細粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	轆轤整形。全体的に器肉が厚い。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後高い高台を付す。	2	酸化焔焼成・煤
28	H－6 床直	高台椀 須恵器	①[15.8] ②　6.7	①細粒②良好 ③にぶい橙色④3/4	轆轤整形。全体的に器肉が厚い。口縁・体部：外傾から口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後細く高い高台を付す。	1	酸化焔焼成
29	H－6 床直	高台椀 灰　釉	①[14.7] ②　4.9	①細粒②良好 ③灰白色④3/5	轆轤整形。釉薬は漬けがけ。口縁・体部：腰部がやや張り、内・外面撫で。底部：内・外面撫で。高台部：角形の高台。	H－1－4	

番号	遺構番号 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
30	H－6 床直	羽　釜 須恵器	①[19.2] ②(22.5)	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④2/5	轆轤整形。口縁部：内傾。内・外面撫で。鍔部：断面三角形でほぼ水平に付く。胴部：内・外面撫で。外面下位斜め篦削り。底部：欠損。	38ほか	酸化焔焼成
31	H－6 床直	甑 須恵器	①　— ②(20.9)	①細粒②良好 ③浅黄色④脚部	轆轤整形。口縁部：欠損。胴部下位：上位に向かって大きく膨らむ。内面撫で、外面篦削り。脚部：水平方向に大きく外反。	H-1-43 ほか	煤

Tab. 8 － 1　鉄製品観察表／ 5 トレンチ

番号	遺構・層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	遺存度	登録番号	備　　考
1	H－4・埋　土	刀　子	(12.0)	1.5	(0.6)	18.0	1/2	8	両関平造。
2	H－5・埋　土	刀　子	(8.5)	(1.2)	(0.4)	8.0	破片	10	方関平造。
3	H－6・埋　土	紡錘車	(21.4)	(1.4)	(1.0)	28.0	4/5	39	紡茎部のみ。

Tab. 9 － 1　石製品観察表／ 5 トレンチ

番号	遺構・層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	石　材	遺存度	登録番号	備　　考
1	H－2・埋　土	臼　玉	1.3	1.1	0.8	2.3	滑石	完形		

Tab. 7 － 2　奈良・平安時代出土土器観察表／ 6 トレンチ

番号	遺構番号 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
1	H－1 床直	かわらけ	①　8.0 ②　1.7	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。全体的に器肉が厚い。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径5.0cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	18	煤
2	H－1 床直	かわらけ	①　8.1 ②　1.7	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。全体的に器肉が厚い。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径5.2cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	19	煤
3	H－1 埋土	かわらけ	①［8.2］ ②　1.7	①細粒②良好 ③にぶい褐色④1/3	轆轤整形。全体的に器肉が厚い。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径5.2cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。		
4	H－2 床直	蓋 須恵器	① 10.9 ②　3.5	①細粒②良好 ③灰色④3/4	轆轤整形。摘み：宝珠摘み。天井部：緩やかな外傾から口縁端部水平気味。端部：僅かな返り有。内面撫で、外面回転篦削り。	20ほか	
5	H－2 床直	坏 土師器	① 10.1 ②　3.1	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部：短く内彎、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	1	小型
6	H－2 床直	坏 土師器	①　9.8 ②　3.4	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部：短く内彎、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	133	小型
7	H－2 床直	坏 土師器	① 10.6 ②　3.0	①細粒②良好 ③橙色④２/３	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	123ほか	小型
8	H－2 床直	坏 土師器	① 10.7 ②　3.2	①細粒②良好 ③橙色④２/３	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	71	小型
9	H－2 床直	坏 土師器	① 10.7 ②（3.4）	①細粒②良好 ③橙色④１/２	口縁部：短く内湾気味、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	67ほか	小型
10	H－2 床直	甕 土師器	① 23.2 ②(33.3)	①細粒②良好 ③橙色④3/4	口縁部：器最大径。大きく外湾気味、内・外面横撫で。胴部：やや膨らみを持ち、内面撫で、外面斜め篦削り。底部：欠損。	58ほか	
11	H－3 床直	かわらけ	① 10.2 ②　2.0	①細粒②良好 ③褐灰色④完形	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾、内・外面撫で。底部：径4.7cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	3	煤
12	H－3 竈内	かわらけ	① 10.2 ②　2.0	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾、内・外面撫で。底部：径5.7cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。		
13	H－4 竈内	かわらけ	①［8.7］ ②　1.7	①細粒②良好 ③褐灰色④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径5.0cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。		
14	H－4 竈内	かわらけ	①［8.8］ ②　1.8	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径4.7cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。		
15	H－4 床直	土　釜 須恵器	①[28.8] ②　—	①中粒②良好 ③にぶい橙色④破片	轆轤整形。口縁部：直立から短く外反、内・外面撫で。胴部：内面撫で、外面篦削り。	1	
16	H－5 床直	坏 須恵器	①［4.1］ ②　2.3	①細粒②良好 ③オリーブ色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反気味、内・外面撫で。底部：径2.5cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。		ミニチュア・黒色処理
17	H－6 床直	坏 須恵器	①　— ②（3.8）	①細粒②良好 ③灰黄色④破片	轆轤整形。口縁部：欠損。体部：やや膨らみ外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、回転糸切り。		酸化焔焼成・煤
18	H－6 竈内	高台椀 須恵器	① 17.2 ②　5.7	①中粒②良好 ③にぶい橙色④2/3	轆轤整形。全体的に器肉が厚い。口縁・体部：大きく外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後高い高台を付す。	34ほか	酸化焔焼成
19	H－6 竈内	高台椀 須恵器	① 15.3 ②　4.7	①細粒②良好 ③にぶい橙色④2/3	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾から口縁端部外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後やや高い高台を付す。	24ほか	酸化焔焼成
20	H－6 竈内	甕 須恵器	①[23.4] ②(21.4)	①細粒②良好 ③橙色④破片	轆轤整形。口縁部：内傾気味から外傾、内・外面撫で。胴部：下位を欠損。内面撫で、外面篦削り。	25ほか	酸化焔焼成

番号	遺構番号 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
21	D－1	坏 須恵器	① 10.0 ② 3.2	①細粒②良好 ③黄灰色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径5.5cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。		
22	X156 Y157	高台椀 須恵器	① — ② —	①細粒②良好 ③明赤褐色④2/3	酸化焔焼成の高台椀を坩堝に転用。内面に銅滓付着。		転用坩堝
23	X156 Y157	高台椀 灰　釉	①[15.9] ② 5.3	①細粒②良好 ③灰色④1/2	轆轤整形。釉薬は漬けがけ。口縁・体部：腰部がやや張り、内・外面撫で。底部：内・外面撫で。高台部：角形の高台。		
24	表採	蓋 須恵器	①[11.6] ② 2.0	①細粒②良好 ③橙色④1/2	轆轤整形。摘み：無。天井部：水平から緩やかに外傾、口縁端部垂下。端部：返り無。内面撫で、外面回転篦削り。		

Tab. 8 － 2　鉄器・鉄製品観察表／6トレンチ

番号	遺構・層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	遺存度	登録番号	備　　考
1	H－6・床　直	刀子	(18.6)	1.8	0.4	32.2	4/5	169	両関平造。
2	H－6・床　直	鉄鏃	15.4	1.5	0.5	18.4	ほぼ完形	7・23	長頸関篦被両丸造長三角形式。

Tab. 7 － 3　奈良・平安時代出土土器観察表／7トレンチ

番号	遺構番号 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
1	H－1 床直	坏 土師器	① 10.8 ② 3.4	①細粒②良好 ③橙色④3/4	口縁部：短く直立。内・外面横撫で。底部：丸底。内面撫で、外面篦削り。	23	
2	H－1 床直	坏 土師器	① 10.3 ② 3.4	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部：短くやや内傾。内・外面横撫で。底部：丸底。内面撫で、外面篦削り。	24	
3	H－1 床直	坏 土師器	①[18.2] ②(4.9)	①中粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：短くやや内彎。内・外面横撫で。底部：下半を欠損。丸底。内面撫で、外面篦削り。	36ほか	
4	H－1 床直	坏 土師器	①[18.2] ② 7.5	①細粒②良好 ③橙色④1/2	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底。内面撫で、外面篦削り。	9ほか	
5	H－1 床直	壺 須恵器	① — ②(11.1)	①細粒②良好 ③灰白色④1/3	轆轤整形。口頸部：欠損。体部：厚みのあるそろばん珠形、上位に器最大径。内面撫で、外面上位撫で・下位篦削り。底部：欠損。	32ほか	
6	H－1 埋土	小型甕 土師器	①[10.6] ②(8.7)	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：やや外彎。内・外面横撫で。体部：中位が膨らみ器最大径。内面撫で、外面篦削り。底部：欠損。	39ほか	
7	H－1 床直	甕 土師器	①[17.2] ②(9.4)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④破片	口縁部：外傾。内・外面横撫で。胴部：下半を欠損。内面撫で、外面斜め篦削り。	16	
8	H－3 床直	蓋 須恵器	① 19.0 ② 3.7	①細粒②良好 ③灰白色④ほぼ完形	轆轤整形。摘み：扁平な宝珠摘み。天井部：内面撫で、外面手持ち篦削り。端部：返り有。内・外面撫で。	28	
9	H－3 埋土	坏 土師器	①[14.4] ② 4.4	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	口縁部：短くわずかに内彎。内・外面横撫で。底部：丸底。内面撫で、外面篦削り。	29	
10	H－3 床直	坏 土師器	① 15.3 ② 5.5	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部：短くやや内彎。内・外面横撫で。底部：丸底。内面撫で、外面篦削り。	37ほか	
11	H－3 床直	坏 土師器	①[17.8] ② 4.3	①細粒②良好 ③橙色④4/5	口縁部：やや外彎。内・外面横撫で。底部：浅い丸底。内面撫で、外面篦削り。	40	
12	H－4 床直	坏 土師器	①[15.2] ②(4.1)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④破片	口縁部：やや外彎。内・外面横撫で。底部：下位を欠損。浅い丸底。内面撫で、外面篦削り	17	
13	D－1 床直	蓋 須恵器	① 10.2 ② 2.2	①細粒②良好 ③灰色④ほぼ完形	轆轤整形。摘み：無。天井部：内面撫で、外面篦削り。端部：返り有。内・外面撫で。	1	炭付着
14	D－1 床直	蓋 須恵器	①[27.0] ②(2.1)	①細粒②良好 ③灰色④1/5	轆轤整形。摘み：欠損。天井部：内面撫で、外面篦削り。端部：返り無。内・外面撫で。	2	
15	DB-1 床直	高台椀 須恵器	① 9.8 ② 4.5	①中粒②良好 ③橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内・外面撫で。底部：内・外面撫で。高台部：外彎しながら開く高高台。	1	酸化焔焼成
16	DB-2 床直	かわらけ	① 9.7 ② 3.2	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部外反。内・外面撫で。底部：径4.7cmの平底。内面撫で、外面回転糸切り。	4	酸化焔焼成
17	DB-2 床直	高台椀 須恵器	① 15.6 ② 5.8	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	轆轤整形。口辺部外面および内面を黒色処理。口縁・体部：腰部が張るやや深い体部から口縁部やや外反。内面篦磨き、外面上位篦磨き・下位撫で。底部：内・外面撫で。高台部：下半を欠損。	3	内黒、酸化焔焼成
18	DB-2 床直	高台椀 須恵器	① 15.7 ② 6.9	①中粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	轆轤整形。口辺部外面および内面を黒色処理。口縁・体部：腰部が張るやや深い体部。内面篦磨き、外面上位篦磨き・下位撫で。底部：内外面撫で。高台部：直線的に開くやや高い高台。	8	内黒、酸化焔焼成
19	DB-2 床直	高台椀 灰　釉	① 15.8 ② 6.9	①細粒②良好 ③灰色④完形	轆轤整形。釉薬は漬けがけ。口縁・体部：腰部が張るやや深い体部。口唇部内面に沈線。内・外面撫で。底部：内・外面撫で。高台部：直線的に開くやや高い高台。	1	虎渓山1号窯式
20	DB-3 床直	かわらけ	① 10.0 ② 2.8	①細粒②良好 ③浅黄褐④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内・外面撫で。底部：径5.3cmの平底。内面撫で、外面静止糸切り。		
21	DB-3 床直	かわらけ	① 9.6 ② 3.0	①細粒②良好 ③明黄褐④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内・外面撫で。底部：径4.9cmの平底。内面撫で、外面回転糸切り。		

Tab. 9 － 2　土製品観察表／ 7 トレンチ

番号	遺構・層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	石　材	遺存度	登録番号	備　　考
1	X115・Y164	土製円盤	3.4	3.2	0.8	13.4	須恵器	不　明		

Tab. 7 － 4　奈良・平安時代出土土器観察表／ 8 トレンチ

番号	遺構番号 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
1	H－2 埋土	高台椀 須恵器	①[15.1] ②　5.5	①細粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	8・13	
2	H－2 竈内	羽　釜 須恵器	①[11.8] ②　4.0	①細粒②良好 ③灰白色④1/3	轆轤整形。口縁部：内傾。内・外面撫で。鍔部：断面三角形で上向きに付く。胴部：下位を欠損。内・外面撫で。	48ほか	酸化焔焼成
3	H－3 床直	坏 須恵器	① 12.8 ②　4.3	①中粒②良好 ③灰黄褐色④	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁部外反。内・外面撫で。底部：径5.1cmの平底。内面撫で、外面回転糸切り。	39	
4	H－3 床直	坏 須恵器	① 13.5 ②　4.3	①中粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁部外反。内・外面撫で。底部：径5.4cmの平底。内面撫で、外面回転糸切り。	127	
5	H－3 床直	坏 須恵器	① 14.3 ②　4.8	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁部外反・やや肥厚。内・外面撫で。底部：径6.3cmの平底。内面撫で、外面回転糸切り。	52	
6	H－3 床直	高台椀 須恵器	① 13.5 ②　3.7	①細粒②良好 ③灰白色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：緩やかに外傾する浅い体部から口縁部強く外反。内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	1・2	
7	H－3 床直	甕 土師器	①[18.4] ②(24.9)	①中粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/2	口縁部：直立から外反。内・外面横撫で、指圧痕有。胴部：上位に膨らみを持ち器最大径。内面撫で、外面篦削り。	107ほか	
8	H－3 竈内	羽　釜 須恵器	①[20.6] ②(27.0)	①中粒②良好 ③灰褐色④1/2	轆轤整形。口縁部：内傾。内・外面撫で。鍔部：断面三角形でほぼ水平に付く。胴部：内面撫で、外面上位撫で・下位篦削り。	110ほか	酸化焔焼成
9	H－3 竈内	羽　釜 須恵器	① 17.6 ②(16.0)	①中粒②良好 ③灰白色④2/5	轆轤整形。全体的に歪む。口縁部：内傾。内・外面撫で。鍔部：断面三角形でやや上向きに付く。胴部：下位を欠損。上位が膨らみ器最大径。内・外面撫で。	84ほか	酸化焔焼成
10	H－5 床直	坏 土師器	①[13.8] ②　3.8	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	口縁部：直立。内・外面横撫で。底部：丸底。内面撫で、外面篦削り。	9ほか	
11	H－5 床直	坏 土師器	① 15.9 ②　4.1	①中粒②良好 ③にぶい褐色④4/5	口縁部：やや外彎。内・外面横撫で。底部：丸底。内面撫で、外面篦削り。	13ほか	
12	H－5 竈内	長胴甕 土師器	①[25.0] ②(27.0)	①中粒②良好 ③浅黄色④1/2	石英を多量に含む胎土。口縁部：器最大径。外反。内・外面横撫で。胴部：下半を欠損。内面撫で、外面斜め篦削り。	43ほか	
13	H－6 床直	坏 須恵器	①[13.3] ②　4.1	①中粒②良好 ③灰白色④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内・外面撫で。底部：径6.1cmの平底。内面撫で、外面回転糸切り。	39	
14	H－6 床直	高台椀 須恵器	①[14.1] ②　5.0	①細粒②良好 ③灰白色④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁部外反。内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	34	

Tab. 8 － 3　鉄製品観察表／ 8 トレンチ

番号	遺構・層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	遺存度	登録番号	備　　考
1	H－3・床　直	紡錘車	5.5	―	0.3	23.2	ほぼ完形	31-1	
2	H－3・床　直	不　明	(4.4)	(1.1)	(0.9)	5.5	破片	31-2	
3	H－6・床　直	不　明	(4.1)	(1.8)	(0.7)	6.2	破片	19	

Tab. 7 － 5　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表／ 9 トレンチ

番号	遺構番号 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
1	H－1 床直	坏 土師器	①[10.0] ②　3.4	①細粒②良好 ③橙色④1/2	口縁部：短くやや内彎。内・外面横撫で。底部：丸底。内面撫で、外面篦削り。	104	
2	H－1 埋土	坏 土師器	①[13.8] ②　4.5	①細粒②良好 ③にぶい赤褐色④破片	口縁部：短くやや内傾。内・外面横撫で。底部：丸底。内面撫で、外面篦削り。	76ほか	
3	H－1 貯蔵穴	坏 土師器	①[12.1] ②　4.8	①細粒②良好 ③橙色④4/5	口縁部：短く内傾。内・外面横撫で。底部：丸底。内面撫で、外面篦削り。	29	
4	H－1 床直	蓋 須恵器	①[21.0] ②(3.7)	①細粒②良好 ③灰色④1/5	轆轤整形。摘み：欠損。天井部：内面撫で、外面篦削り。端部：返り無。内・外面撫で。	73ほか	
5	H－1 床直	蓋 須恵器	①[29.6] ②　4.4	①中粒②良好 ③灰白色④破片	轆轤整形。天井部：上半を欠損。内面撫で、外面篦削り。端部：返り無。内・外面撫で。	103	
6	H－1 床直	小型甕 土師器	①[10.5] ②　9.6	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	口縁部：外彎。内・外面横撫で。体部：中位が膨らみ器最大径。内面撫で、外面篦削り。底部：丸底。外面篦削り。	74ほか	
7	H－1 床直	平　瓶 須恵器	①　― ②(8.9)	①細粒②良好 ③暗灰色④4/5	轆轤整形。口頸部：欠損。体部：扁平なそろばん珠形。内面上位に粘土接合痕有。内面撫で、外面上位撫で・下位手持ち篦削り。底部：径7.8cmの平底。外面手持ち篦削り。	79	

番号	遺構番号 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
8	H－1 床直	壺 須恵器	①[20.0] ② 21.1	①細粒②良好 ③灰色④1/6	轆轤整形。口頸部：やや外彎。内・外面撫で。体部：中位が膨らみ器最大径。内面上位撫で・下位青海波状叩き目文、外面串状工具による調整後、下位に平行叩き目文。	54ほか	
9	H－3 床直	坏 土師器	①[11.0] ② 3.8	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/5	口縁部：やや外彎。内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底。内面撫で、外面篦削り。	22	
10	H－4 床直	甕 土師器	①[19.0] ②（7.4）	①細粒②良好 ③にぶい橙色④破片	口縁部：直立から弱く外反。内・外面横撫で。胴部：下半を欠損。内面撫で、外面篦削り。	11	
11	H－5 床直	坏 須恵器	① 13.0 ② 4.0	①細粒②良好 ③灰黄色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁部やや外反。内・外面撫で。底部：径5.7cmの平底。内面撫で、外面回転糸切り。	50	
12	H－5 竈内	高台椀 須恵器	① 14.6 ② 5.4	①中粒②良好 ③橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：腰部が張る体部から口縁部外反。内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	40	炭付着
13	H－5 床直	甕 土師器	①[19.6] ②（9.2）	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：直立から弱く外反。内・外面横撫で。胴部：下半を欠損。内面撫で、外面篦削り。	17ほか	
14	D－4 床直	坏 土師器	① 11.0 ② 4.5	①細粒②良好 ③橙色④3/4	口縁部：ほぼ直立。内・外面横撫で。底部：浅い丸底。内面撫で、外面篦削り。		
15	X32 Y151	円　筒 埴　輪	① — ②(10.7)	①中粒②良好 ③橙色④破片	外面：縦方向の刷毛目後、断面台形の突帯貼付。内面：縦方向の刷毛目後、縦方向の撫で。		
16	X32 Y151	坏 須恵器	① [9.9] ② 3.5	①細粒②良好 ③灰色④1/6	轆轤整形。口縁•体部：外傾。底部：径6.8cmの平底気味。内面撫で、外面手持ち篦削り。		
17	X32 Y151	長頸瓶 須恵器	① 8.0 ②(21.7)	①細粒②良好 ③灰色④3/4	轆轤整形。口頸部：狭い頸部から口縁部に向かって広がるラッパ形。下位に２条の沈線有。内・外面撫で。体部：肩部が丸いそろばん珠形。内面撫で、外面上位撫で・下位篦削り。底部：欠損。	O－1－1	

Tab.10　瓦観察表

トレンチ	番号	遺構番号 層位	器種	①長さ ②厚さ	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
6	1	H－1 竈内	丸　瓦	① 37.5 ② 1.3	①細粒②良好 ③灰白色④2/3	行基式。広端部上弦幅19.9cm。黒色の微粒子がわずかに混じる細かい胎土。凹面：布目。凸面：縄叩き後篦状工具による横撫で。篦書き文字「大」。側面：面取り３回。	カマドほか	篦書き文字
	2	H－1 竈内	丸　瓦	①(16.0) ② 1.8	①中粒②良好 ③灰色④破片	行基式。凹面：布目。凸面：横位削り、撫で。側面：面取り２回。	27	竈左袖に使用
	3	H－1 竈内	丸　瓦	①(16.5) ② 1.4	①中粒②良好 ③灰色④破片	行基式。凹面：布目。凸面：撫で。側面：面取り３回。	カマド	
	4	H－1 床直	平　瓦	①(16.3) ② 2.5	①中粒②良好 ③灰黄色④破片	一枚作り。凹面：布目。凸面：撫で。篦書き文字「真(？)」有。	22	篦書き文字
	5	H－1 埋土	丸瓦？	①(14.0) ② 2.9	①中粒②良好 ③灰色④破片	軒瓦か。凹面：布目。押印文字「方」。凸面：撫で。側面：複数回の面取りにより、やや丸みを帯びる。	24	押印文字
	6	H－4 竈内	平　瓦	①(24.0) ② 2.2	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④破片	一枚作り。凹面：布目。凸面：撫で。側面：面取り２回。	カマド	
	7	H－4 竈内	平　瓦	①(25.4) ② 2.3	①中粒②良好 ③黄灰色④破片	一枚作り。凹面：布目。凸面：撫で。側面：面取り３回。	カマド	粘土付着
	8	H－4 床直	平　瓦	①(19.8) ② 1.8	①中粒②良好 ③黄灰色④破片	一枚作り。凹面：布目。凸面：撫で。側面：面取り２回。	8	粘土付着
8	9	H－2 床直	平　瓦	① — ② 1.3	①細粒②良好 ③灰色④破片	凹面：布目。凸面：削り・撫で。篦書き文字有（３文字？）。	57	篦書き文字
	10	H－3 竈内	平　瓦	①(21.6) ② 2.6	①中粒②良好 ③灰色④破片	一枚作り。凹面：布目。凸面：撫で。側面：複数回の面取りにより、やや丸みを帯びる。	132	支脚として使用
	11	H－3 床直	丸　瓦	① 40.6 ② 2.1	①中粒②良好 ③灰白色④完形	行基式。広端部上弦幅19.2cm、重量3,620g。凹面：布目。凸面：縄叩き後撫で。側面：部分的に面取り３回。	63・64	
	12	H－3 床直	平　瓦	①(18.0) ② 1.8	①中粒②良好 ③灰色④破片	凹面：布目。凸面：撫で。側面：面取り１回。	38	
9	13	表採	平　瓦	① — ② 2.8	①中粒②良好 ③明赤褐色④破片	凹面：布目。凸面：平行叩き。篦書き文字有。		篦書き文字

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。竈内の検出については「竈内」と記載した。
②口径、器高の単位はcmであり、重さの単位はｇである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。
⑥最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はｇである。現存値を（　）で示した。

Ⅴ　ま　と　め

1　集落の広がりと変遷

本遺跡の調査区（５～９トレンチ）は、推定上野国府域（木津1998）の西側、東西約600m・南北200mの範囲に分散する。５～７トレンチは推定国府域北西部縁辺に位置し、８・９トレンチは、国府域西側線からそれぞれ100mおよび350mほど西に位置する。９トレンチは染谷川河岸に近い微高地上に立地する。各トレンチはいずれも調査面積が狭く、検出した遺構も限定的であるため、それぞれのトレンチ内だけで集落跡を概観することは難しい。そのためここでは、各トレンチ周辺の状況と照らし合わせながら、国府域西側の集落の広がりと変遷を概観してみたい。なお時代区分については、元総社蒼海遺跡群で従来行われているものを踏襲し、Ⅰ期（～７世紀前半：律令期以前）、Ⅱ期（７世紀後半～10世紀初頭：律令期）、Ⅲ期（10世紀前半～：律令期以後）の３期に大別する。

⑴　本遺跡で検出された竪穴住居跡

本調査で検出された竪穴住居跡の検出数を時期別に分類し、表１にまとめた。

表１　時期別竪穴住居跡検出数

時期区分	Ⅰ期		Ⅱ期					Ⅲ期			不明
調査区域（調査面積）	６世紀	７世紀		８世紀		９世紀		10世紀		11世紀	
	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半		
５トレ（172㎡）	—	—	—	—	1	—	—	2	3	—	2
６トレ（176㎡）	—	—	—	—	1	—	—	—	—	5	1
７トレ（396㎡）	—	—	—	2	1	—	—	—	—	—	—
８トレ（380㎡）	—	—	1	—	—	—	1	2	—	—	2
９トレ（152㎡）	1	—	—	—	1	—	2	—	—	—	1

個々のトレンチ内での時期的傾向としては、５・６トレンチでは、Ⅲ期に属する住居跡が比較的密に検出された。７・８トレンチは、遺構自体が薄い調査区であったが、７トレンチではⅡ期、８トレンチではⅡ・Ⅲ期の所産と思われる住居跡が検出された。９トレンチではⅡ期のものとともにⅠ期の住居跡が検出された。

以上のことから今回の調査に限っていえば、国府域西側の集落分布および変遷について、Ⅰ期は国府域からやや離れた染谷川河岸近くに分布し、Ⅱ期になると全体的に増加傾向となり、Ⅲ期では国府域縁辺でも集落形成がなされたことが看取できる。ただ、これは非常に狭い限定された調査区の中での傾向であり、もう少し全体を見ていく必要がある。

⑵　過年度調査の分析

近年、元総社蒼海地区では土地区画整理事業に伴う調査が継続的に行われており、新たな知見が蓄積されつつある。そこで、集落の分布や変遷について、過年度調査のデータと今回の調査のデータとを比較・対照し、国府域西側での様相を概観してみたい。

対象としたのは、小見遺跡（2000年）・小見Ⅱ遺跡（2002年）・小見Ⅲ遺跡（2002年）・草作Ⅴ遺跡（2002年）・小見内Ⅳ遺跡（2002年）・小見Ⅴ遺跡（2003年）・小見Ⅵ遺跡（2003年）・小見内Ⅷ遺跡Ａ区（2003年）・小見Ⅵ遺跡（2005年）・小見Ⅶ遺跡（2005年）・小見内Ⅸ遺跡（2005年）・小見内Ⅹ遺跡（2005年）の計12遺跡である（括弧内は報告書発刊年）。いずれも元総社蒼海地区土地区画整理事業に伴うもので、当調査団が主体となり調査を行ったものである。

分析方法は以下の通りである。

○遺跡別・調査区別の竪穴住居跡の集計。

○調査区面積の計測（200分の１全体図、プラニメーター使用）。

○報告書の記述により竪穴住居跡の年代をⅠ～Ⅲ期に分類。

○遺跡毎・調査区毎に時期別竪穴住居跡の密度（100㎡あたり）を算出。

○今回の調査区の密度（表２）を基準に４段階に区分。

→０軒：無、～１軒未満：薄い、１軒以上～２軒未満：やや濃い、２軒以上～：濃い。

表２　時期別竪穴住居跡の密度

調査区域	調査面積（㎡）	時期別検出数と密度（軒／100㎡）					
		Ⅰ期		Ⅱ期		Ⅲ期	
		検出数	密　度	検出数	密　度	検出数	密　度
５トレンチ	172	0	—	1	0.58	5	2.91
６トレンチ	176	0	—	1	0.57	5	2.84
７トレンチ東	197	0	—	0	—	0	—
７トレンチ西	205	0	—	3	1.47	0	—
８トレンチ	380	0	—	2	0.53	2	0.53
９トレンチ	152	1	0.65	3	1.97	0	—

なお、年代が不明確な住居跡については時期区分を行わなかった。また、調査区がおおよそ50ｍを超えるものについては、２分割し調査面積・密度を計測・算出した。

以上の方法を用いて分析を行った結果、図１のようになった。

⑶　国府域西側の集落分布と変遷

ここまでの分析をふまえ、国府域西側の集落分布・変遷について概観してみたい。

Ⅰ期（４～７世紀前半）

古墳時代の遺構は、国府域からやや離れた場所で多く検出されており、とくに染谷川河岸の微高地上に立地する小見Ⅱ・Ⅵ遺跡や小見遺跡２～７区で顕著である。中心となるのは古墳時代後期の集落跡であるが、小見Ⅵ遺跡では、石田川式土器を伴う住居跡が検出されており、古墳時代初頭の集落の広がりも考えられる。今回の調査でも、これらの調査区に隣接する９トレンチで６世紀後半の住居跡（Ｈ－６号住）が検出されている。

また、国府域隣接地では当期の住居跡は希薄であり、集落の形成は見られない。５～７トレンチでも当期の住居跡は検出されていない。このように国府設置前の時期には、後に国府が置かれる場所からはやや離れた河岸沿いに集落が形成されていたことが看取される。

Ⅱ期（７世紀後半～10世紀初頭）

この時期は、国府が成立し機能していた時期である。Ⅰ期と比べ住居跡は全体的に増加傾向にある。今回は、時期を細分して集計していないが、おそらく８世紀頃を画期とし増加するものと思われる。国府域隣接地では、小見内Ⅳ遺跡や小見内Ⅷ遺跡Ａ区などでそのような傾向が見られるが、なお希薄な場所もある。染谷川河岸沿いではⅠ期に引き続き濃密な分布が認められる。今回の調査でも、５～８トレンチでは希薄で、９トレンチでは濃密という、これまでの調査と同様の傾向が見られた。

Ⅲ期（10世紀前半～11世紀）

この時期は、国府衰退・廃絶の時期に当たる。国府域隣接地ではⅠ・Ⅱ期は希薄であった場所で増加傾向にあり、染谷川河岸沿いではⅠ・Ⅱ期と比べるとやや減少傾向にある。今回の調査で特筆すべきは、国府域縁辺部の５・６トレンチで当期の住居跡が主体を占めることである。このことは、国府縁辺部の土地利用に関する規制と関係があると思われるが、不確定な部分が多いため、ここではこれ以上言及せず今後の課題としたい。

図1　集落変遷図（1：6,000）

(4)　まとめと今後の課題

このように、国府西側縁辺部から染谷川河岸にかけての地域においては、Ⅰ期で河岸沿いを中心に集落が広がり、Ⅱ期で住居跡が全体的に増加し、Ⅲ期で河岸沿いの集落の減少と国府縁辺部での新たな集落形成という傾向が看取できよう。これは、今回の調査結果ともほぼ符合するものである。

ただ今回は、国府域西側という非常に限られた地域を対象にしたため、「国府のマチの広がり」という点では、不十分である。例えば、国府東側の元総社明神遺跡や南西の鳥羽・中尾遺跡、国府北西に位置する国分尼寺・僧寺中間地域や北側の牛池河岸の調査、さらに北側の山王廃寺周辺まで広げて、国府のマチがどのように広がり、変遷していったのかを検討していく必要がある。また、今回は国府成立から衰退・廃絶に至る時期をⅡ期・Ⅲ期に区分したが、この地域においてどこに時代の画期があり、どのような時期区分とするかは、今後さらなる資料の集積とその分析をもとに検討していく必要があろう。今後も元総社蒼海地区では発掘調査が継続して行われる予定であり、「国府のマチ」だけでなく国府中枢部についても新たな知見が得られるであろう。そのような資料を加えながら、さらに上野国府の全体像が明らかになっていくことを期待したい。

2　凝灰質砂岩製の竈構築材について

6トレンチは、推定上野国府域北西部縁辺に位置する調査地である。本調査地からは11世紀代の所産と推測されるものを中心にして、竪穴住居跡が7軒検出された。そのうちH－6号住居跡では、焚口部から燃焼部にかけて壁全面に凝灰質砂岩を用いて竈を構築していた。そこでここでは、周辺の「竈構築材採掘地」を概観することにより、当住居跡の竈に用いられた構築材について若干の分析を行いたい。

(1)　6トレンチH－6号住居跡および竈の概要

H－6号住居跡は調査区南側から検出され、住居の規模は東西辺4.00m、南北辺5.52mを測る。時期については、埋土や出土遺物から11世紀前半頃と考えられる。竈は東壁南隅に付設され、全長143cm・最大幅86cm・焚口部幅54cmを測る。焚口部から燃焼部壁まで全面に凝灰質砂岩を組んでおり（図2、口絵1・2）、その周りを粘土で被覆して構築していたものと思われる。崩壊して原形をとどめないものもあったが、全部で10個体の構築材を確認できた。構築材はすべて直方体に加工されており、残存状況のよいもので長辺20～25cm、短辺10～11cm、高さ30cm～35cmとある程度の規格性を認めることができた(表3)。また、表面には鑿状工具で加工したと見られる工具痕が看取できた。

表3　H－6号住居跡竈構築材のサイズ

No.	長辺	短辺	高さ
1	22	10	36
2	22	11	30
3	25	11	35
4	17	11	35
5	20	10	37
6	24	10	35
7	24	10	34
8	20	10	36
9	15	11	(14)
10	24	9	33

注）①単位はすべてcmである。
②原形を留めないものについては、現存値を（　）で示した。

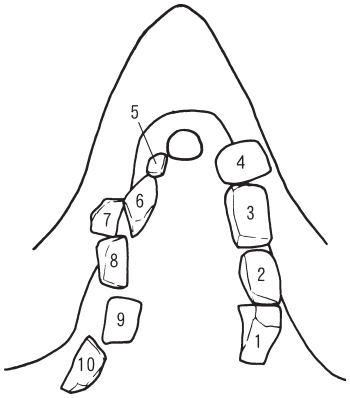


図2　H－6号住居跡竈掘り方平面図（1：30）

(2) 凝灰質砂岩採掘地について

管見によれば、凝灰質砂岩採掘地は現在のところ県内７ヵ所で発見されている（表４・図３）。大規模な採掘坑群は、①鳥羽遺跡Ｏ・Ｌ区（群馬県埋文事業団1990）、②大屋敷遺跡（大山・坂口編1995）、③稲荷塚道東遺跡（群馬県埋文事業団2003）で検出されており、④上野国分僧寺・尼寺中間地域Ｉ区（群馬県埋文事業団1992）、⑤元総社小見内VI遺跡Ａ区（高橋・高坂編2003）でも小規模の採掘坑検出例がある。いずれの遺跡においても採掘坑とともに、その石材を用いて構築されたと思われる竈を伴う住居跡が検出されている。また今年度、本調査団が実施した⑥６トレンチの東側に隣接する場所での調査（元総社蒼海遺跡群（６））や⑦元総社公民館建設に伴う調査（元総社蒼海遺跡群（７））でも採掘坑が検出されており、⑦では古代の大溝の溝縁部から検出されている。

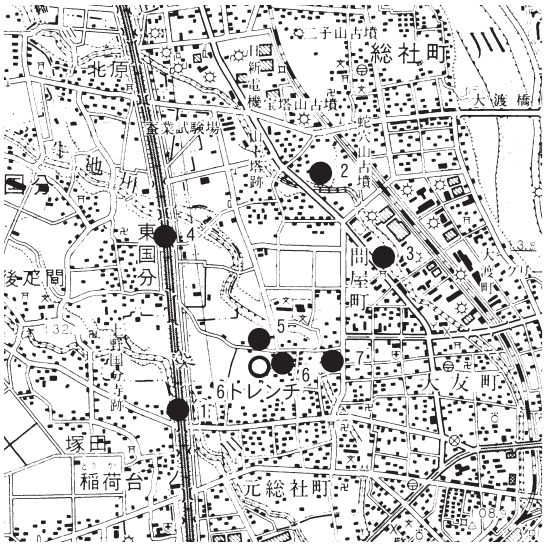


図３　凝灰質砂岩採掘地位置図
（１：50,000地形図「前橋」）
注）図中の番号は、文章中の丸番号および表４の№と対応。

表４　凝灰質砂岩採掘坑の概要

№	遺跡名	検出数（基）	面積（㎡）	規模（単位：m、平均値）	採掘場所
1	鳥羽遺跡Ｏ・Ｌ区	315	211	長軸：0.61、短軸：0.17	台地縁辺部
2	大屋敷遺跡	42	35	長軸：0.64、短軸：0.19	溝縁
3	稲荷塚道東遺跡	130	93	長軸：0.88、短軸：0.36	溝縁
4	中間地域Ｉ区	3	—	—	—
5	小見内VI遺跡Ａ区	97	14	長軸：0.55、短軸：0.23	溝縁
6	元総社蒼海遺跡群（６）	—	—	—	—
7	元総社蒼海遺跡群（７）	35	—	—	溝縁

いずれも本調査区周辺の遺跡で、榛名山南東麓に広がる相馬ヶ原扇状地の東縁に立地しており、河川の段丘上に位置していることや、標高が120～125mであることなど、共通点が多い。ここでは、調査報告書により詳細が確認できた鳥羽遺跡・大屋敷III遺跡・稲荷塚道東遺跡・小見内VI遺跡を取り上げ比較したい。

４遺跡を比較すると、鳥羽の検出数・面積が突出しており、大規模な採掘坑群であること、また採掘坑の規模においては稲荷塚道東が0.88×0.36mと他の３遺跡と比べやや大きいことが分かる。また、鳥羽では台地縁辺部の凝灰岩質層の露出している場所を中心に大規模な採掘を行っているのに対して、他の３遺跡ではいずれも溝の縁辺部を利用して採掘している。さらに鳥羽では、採掘に従事した人々の仮設的炉跡と考えられる遺構も検出されており（群馬県埋文事業団1990：358-９）、他の遺跡と比べると計画的に採掘され、採掘された石材は周辺集落へ供給されていた可能性も考えられる。

採掘方法に関しては、いずれも同じ方法で採掘されており、まず平面に対し垂直方向に切り込み、次に水平方向に切り出して採掘を行っている。同じ竈構築材として使用される川原石などと比較すると、採掘に手間や時間を要することが指摘されていたが、採掘実験により採掘はそれほど難しくなく、時間も要さないことが分かっている（群馬県埋文事業団2003：146）。

採掘時期については、鳥羽遺跡では、同遺跡内で検出された竈構築材に凝灰質砂岩を用いている住居跡の年代から奈良・平安時代に採掘が行われたと推測している。また、大屋敷III・稲荷塚道東・小見内VI遺跡では、住居跡の年代および溝跡の埋没時期からそれぞれ、大屋敷：６世紀代～12世紀、稲荷塚道東：７世紀前半～12世紀・小見内：８世紀後半～10世紀中頃と推測している。

(3)　まとめと今後の課題

奈良・平安時代においては、竪穴住居跡の竈に構築材や補強材として、粘土・土器・瓦・川原石などとともに凝灰質砂岩も一般的に使用される。凝灰質砂岩を竈構築材に利用する利点としては、川原石などに比べて自由に加工できることや耐熱性に優れていることなどが指摘されている。先に述べたように採掘時間を要するという欠点については、それほど時間を要しないということも分かっており、凝灰岩質層が露出するような場所（河岸段丘沿いや溝縁部）では、容易に入手することができたであろう。今回の調査でも、凝灰質砂岩を竈に使用している住居跡が６トレンチＨ－６号住の他に２例確認できた。５トレンチＨ－６号住では天井部に、９トレンチＨ－１号住では支脚に、それぞれ凝灰質砂岩を構築材として使用している。ただ、これらの構築材がどこの採掘地からもたらされたものなのかを明らかにするのは難しい。

これまでも指摘されてきているように、いずれの遺跡でも採掘坑から切り出された石材が竈構築材として使用されたという直接の証明は得られていない。すなわち含有鉱物の鑑定等の理化学的分析により、石材が同一のものであるという確証は得られていないというのが現状であろう。採掘時期についても、採掘された石材と竈構築材とが同一のものという前提のうえで、供給先の住居跡の年代と関連づけて導き出しているが、やはりそのためには、まず前提についてある程度の客観的証拠が求められるのではなかろうか。

稲荷塚道東では採掘された石材の用途について、他遺跡との比較のなかで採掘坑の規模や採掘時期の相違から、「初めは（竈構築材以外の）他の目的で採掘した」可能性や「周辺遺跡への竈構築材の供給地であった」可能性など新たな問題提起を行っている（群馬県埋文事業団2003：147）。このような視点からも採掘された石材の用途については検討していく必要があろう。上野国分寺の調査では金堂周辺から「凝灰岩切石」が出土している。原位置を保っているものは確認されていないが、その出土状況から金堂基壇の化粧石の部材として使用されていた可能性が指摘されている（群馬県教委1988：63･300）。この石材については、「凝灰岩切石」ということ以外に詳細は不明であるが、採掘された凝灰質砂岩が竈構築材以外にも使用されていた可能性は十分にあると言えよう。このようなことから従来用いられてきた「竈構築材採掘坑」という用語については、用途について直接の証明が得られない以上、「凝灰質砂岩採掘坑」等の用語を用いるのが適当ではなかろうか。

今後の調査においては、竈構築材や採掘地の石材について、ある程度客観的な基準から岩質等を見ていく必要性があると思われる。岩石の分類については門外漢のためここで詳しく述べることはできないが、当地域において竈構築材に使用されるいわゆる「凝灰岩」は、粒子の大きさなどにより分類することが可能であると思われる。６トレンチＨ－６号住で使用されたものは粒子がおおよそ２㎜以下であることから凝灰質砂岩に分類できよう。鳥羽遺跡調査報告書では検出した石材について可視分析を試みており、岩質や鉱物組成について言及している（群馬県埋文事業団1990：356）。このような分類・分析により、採掘地についてある程度限定できたり、石材同士の類似性や、竈構築材として良質な石材か否かということについても、ある程度の判断材料を得られるのではないかと思われる。

採掘地については、凝灰岩質層が広がる地域ではどこでも採掘は可能なため、現在確認されている遺跡以外にも多数存在した可能性があり、今後調査事例は増加するであろう。竈構築材および凝灰質砂岩採掘地について、今後の調査・研究の進展に期待したい。

３　９トレンチＷ－３号溝跡について

９トレンチ西側で検出されたＷ－３号溝跡は、X35･36グリッド付近を主軸方向Ｎ－２°－Ｅで南北に走行する。部分的な検出のため形状・規模については確定的ではないが、確認できた部分で、断面の形状は逆台形、確認面からの深さ７～24㎝、上幅（2.74）～（3.28）ｍ、下幅（2.53）～（3.04）ｍである。埋土は、As-Ｃ・Hr-FP 軽石

を含む暗褐色土が主体で、As-B軽石は含まない。掘削時期については、この溝が７世紀末と思われる土坑(D－４号土坑)を切っていることからこの時期を遡らないものと推測でき、As-B軽石降下以前に埋没したものと思われる。埋土中層から下層にかけて、硬化面が３層確認でき、最下面でも、非常に堅く締まった層が確認できた。

９トレンチ北側で行われた過年度調査で、当溝跡と形状や埋土が類似し、走行方向から続きになるものと思われる溝跡が検出されている。

平成14年度に調査された小見II遺跡は、本遺跡９トレンチからおよそ100m北に位置する遺跡である。調査区東側から検出されたW－４号溝跡は、主軸方向N－０°－Eで南北に走行する。形状は逆台形、規模は深さ70㎝、上幅4.43m、下幅3.48mを測り、底面で0.42～0.62m幅の両側溝（路面幅2.26m）が確認されている。黒褐色土を主体とした埋土で、底面から中層にかけて数面の硬化面が確認されている（山武考古学研究所編2002)。

平成16年度には、小見II遺跡の北側に隣接する場所で調査が行われている（小見VII遺跡)。この調査でもX35・36グリッド付近を南北に走行する溝（W－１号溝）が検出されており、小見II遺跡のW－４号溝の続きであることが確認されている(スナガ環境測設編2005)。この溝は、断面逆台形で、上幅4.50m～6.25m、下幅3.20～4.80m、深さ75～82㎝を測り、底面では、溝状の掘り込みが４条確認されている。埋土中層に複数の硬化面があるが、底面では硬化面は確認されていない。この溝は、７世紀前半の住居（H－２号住）を切っていることから、掘削時期はそれ以降と推測される。また、上層がAs-B軽石層に覆われていることから、As-B降下以前には埋没したと考えられる。

以上のことを勘案すると、今回の調査で検出された溝と小見II遺跡・小見VII遺跡で確認された溝は走行方向・形状・埋土などから同一のものと見てよいだろう。この溝跡の共通する特徴としては、掘り方が比較的浅いこと（最深部で80㎝ほど)、中層から底面にかけて何枚かの硬化面を有すことが挙げられる。時期については、８世紀以降に掘削され、12世紀前半には埋没したと考えられる。

小見II遺跡では、底面に硬化部が認められ、開削当初から道路として使用されていた可能性も考えられる。調査報告書では、この溝が側溝や轍状の小溝を有することから道路状遺構とみなし、国分僧寺東限線から３町の位置にあたること、国分尼寺の西側線にあたることを指摘している(山武考古学研究所編2002：18)。一方、小見VII遺跡では、中層には複数の硬化面を有するものの、底面では硬化部が認められず人の歩いた形跡はない。そのため、開削当初は溝として使用され、その後洪水等による埋没過程において道路として使用された可能性が指摘されている（スナガ環境測設編2005：28)。

以上のように、この溝状遺構の性格は定まっていないのが現状である。今回の調査でも、最下部に硬化面が確認できたものの側溝や轍状の小溝は認められず、開削当初から道路としての機能を持っていたかどうかについては疑問が残る。しかし、中層で硬化面が複数認められたことから、埋没する過程において幾度か道路として使用された可能性は高い。この溝跡がさらに北側の国分尼寺周辺まで続くのかどうかを含め、今後の調査により、この遺構の性格が明らかになることを期待したい。

〈引用参考文献〉

㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　『清里・陣場遺跡』　1981年

㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　『中尾』　1984年

坂口　一　「奈良・平安時代の土器の編年」　群馬県史編さん委員会編『群馬県史研究24』　1986年

㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　『上野国分僧寺・尼寺中間地域(1)～(8)』　1986年～

群馬県教育委員会　『史跡上野国分寺跡』　1988年

群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　『鳥羽遺跡　L・M・N・O区』　1990年

東京都埋蔵文化財センター　『資料目録６』　㈶東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター　1991年

大山知久・坂口好孝編　『大屋敷遺跡Ⅲ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1995年

木津博明　「上野国」『東国の国府 in WAYO』　1998年

山武考古学研究所編　『総社閑泉明神北遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1999年

真塩明男・飯田祐二編　『上野国分尼寺寺域確認調査』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年

鈴木雅浩・高橋一彦編　『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年

山武考古学研究所編　『元総社蒼海遺跡群　元総社小見遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年

山武考古学研究所編　『元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ⅲ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年

齊木一敏・近藤雅順編　『元総社蒼海遺跡群　総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北Ⅱ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年

齊木一敏・高坂麻子編　『元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ⅳ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年

高橋一彦・近藤薫編　『元総社蒼海遺跡群　総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡・総社閑泉明神北Ⅲ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年

山武考古学研究所編　『元総社蒼海遺跡群　元総社小見Ⅱ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年

山武考古学研究所編　『元総社蒼海遺跡群　元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年

高橋一彦・高坂麻子編　『元総社蒼海遺跡群　元総社小見Ⅴ遺跡・元総社小見内Ⅵ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年

高橋一彦・高坂麻子編　『元総社蒼海遺跡群　元総社小見Ⅳ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年

近藤雅順・稲垣慎太郎編　『元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ⅶ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年

近藤雅順・稲垣慎太郎編　『元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ⅷ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年

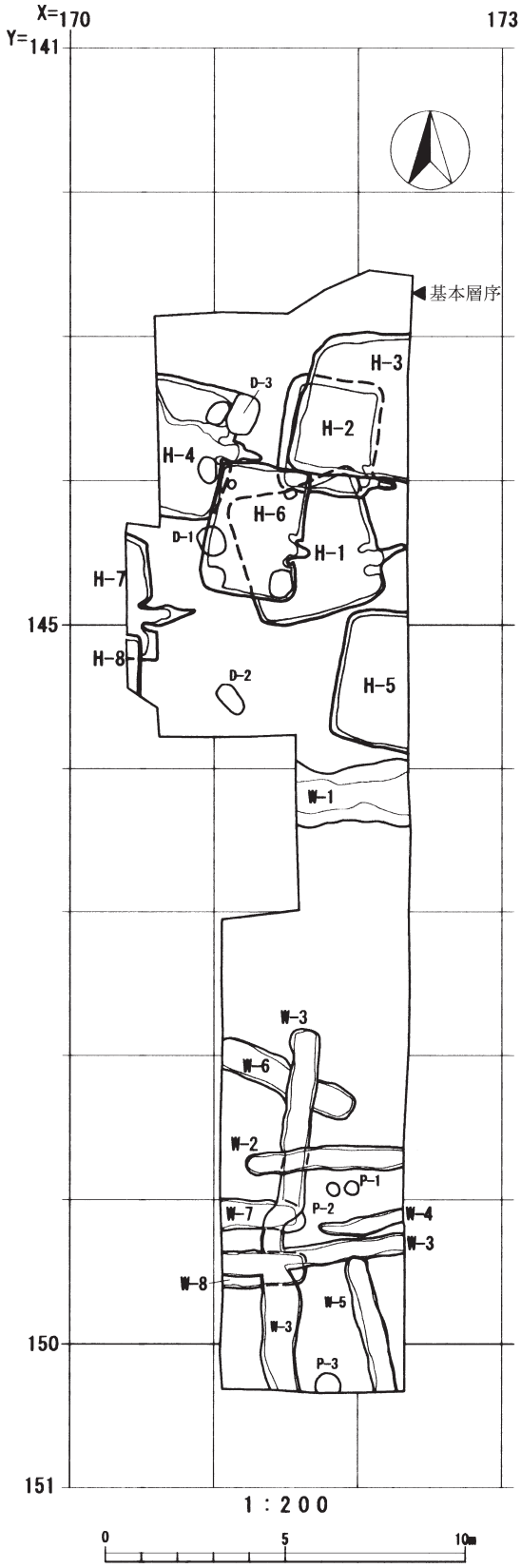
㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　『稲荷塚道東遺跡』　2003年

岩崎琢郎・高坂麻子編　『元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ⅸ遺跡・総社閑泉明神北Ⅴ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005年

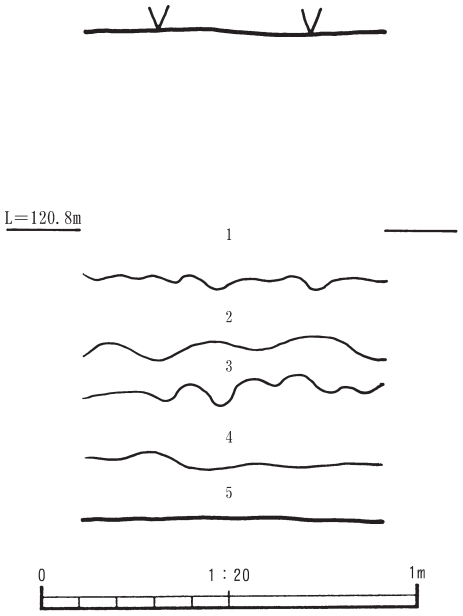
山武考古学研究所編　『元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ⅹ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005年

スナガ環境測設株式会社編　『元総社蒼海遺跡群（３）　元総社小見Ⅶ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005年

5トレンチ

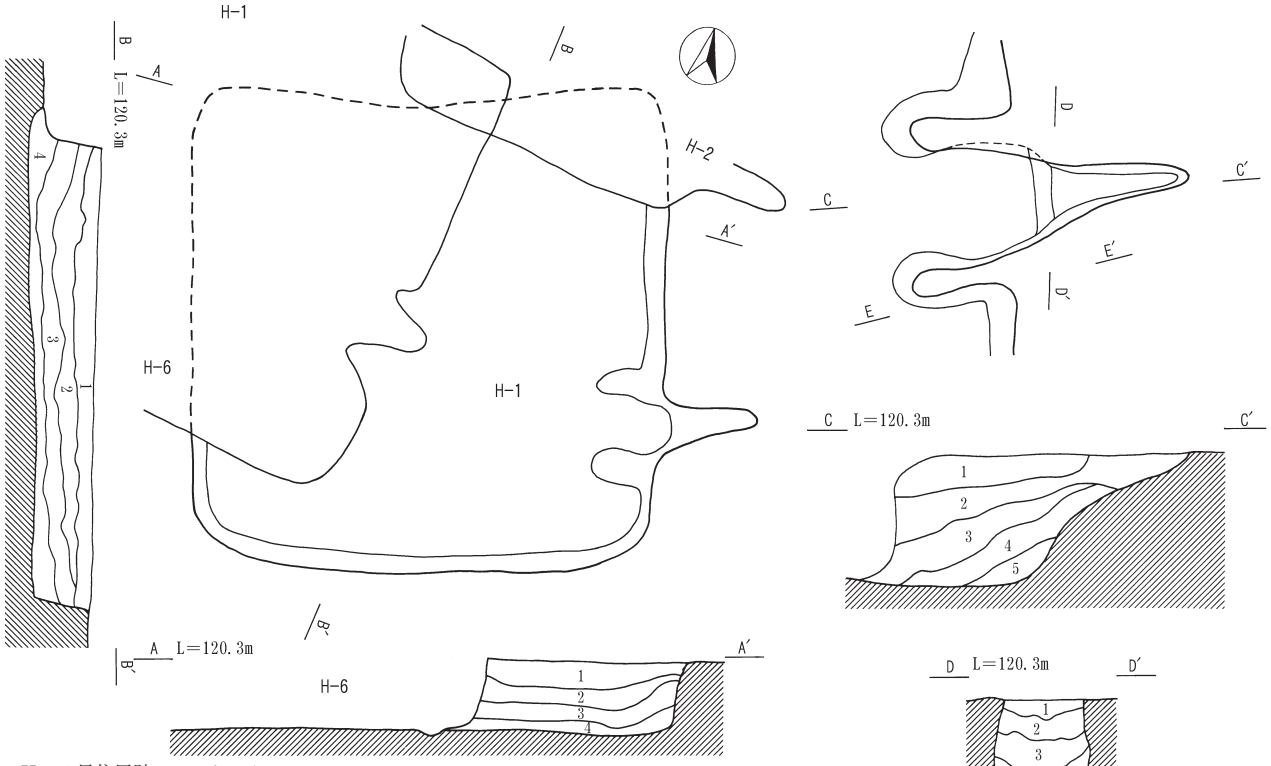


基 本 層 序



1	にぶい黄褐色細砂層（10YR5/3）	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層（10YR4/2）	締まり○　粘性△ As-B 混土層
3	にぶい黄褐色細砂層（10YR4/3）	締まり○　粘性○ As-C・Hr-FP　5％
4	にぶい黄褐色微砂層（10YR5/4）	締まり○　粘性◎ （総社砂層漸移層）
5	黒褐色細砂層（10YR3/１）	締まり○　粘性◎ 黄橙色ブロック10％ （総社砂層）

Fig. 4　5トレンチ全体図と基本層序

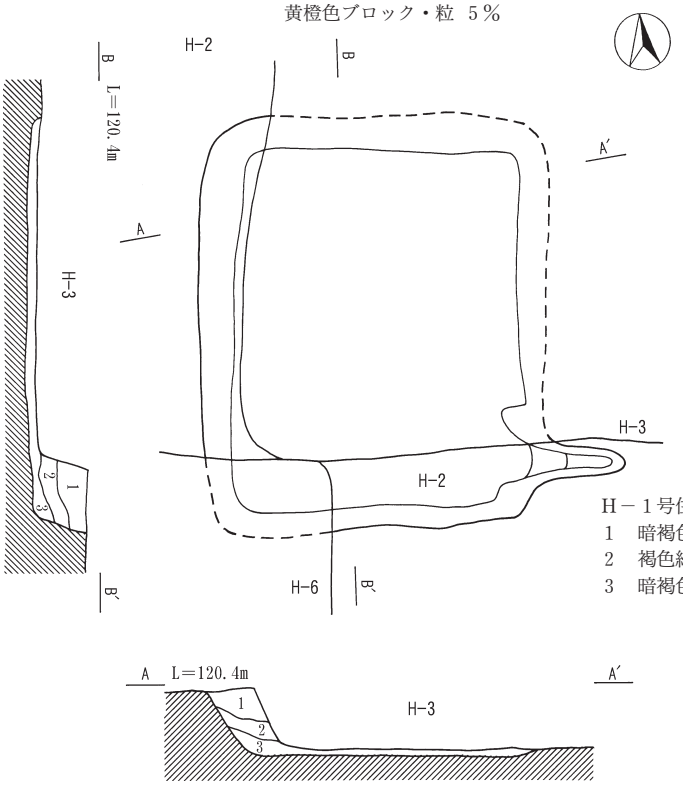


H－１号住居跡　ベルトセクション

1　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％
2　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　2％、黄橙色ブロック（φ10mm）2％
3　褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　1％、炭化物1％、黄橙色粒5％
4　にぶい黄橙色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　1％、炭化物2％、黄橙色ブロック・粒　5％

H－１号住居跡　竈セクション

1　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％、焼土粒1％
2　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％、焼土粒・黄橙色ブロック1％
3　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％、焼土粒5％、黄橙色ブロック2％
4　褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物・黄橙色ブロッ5％
5　灰褐色微砂層　△△　灰層



H－１号住居跡　竈袖裁割セクション

1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％、焼土粒2％
2　褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP　1％、黄橙色ブロック5％
3　暗褐色微砂層　◎◎　粘土主体

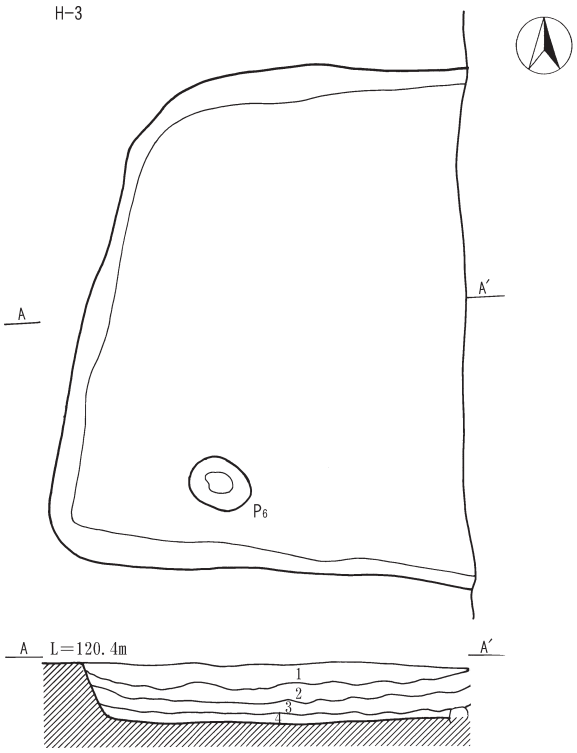
0　1：30　1m

H－２号住居跡　ベルトセクション

1　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％、黄橙色粒1％
2　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　1％、黒褐色土混じる
3　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　1％、黄橙色ブロック・粒5％

0　1：60　2m

Fig. 5　5トレンチ／H－１・２号住居跡

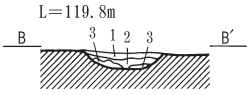


H－３号住居跡　ベルトセクション

1　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　５％、黄橙色ブロック５％
2　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP　５％、黄橙色ブロック５％
3　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　１％、黄橙色ブロック１％
4　褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　１％、黄橙色ブロック１％

H－３号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_6	楕円形	50	37	26.0	

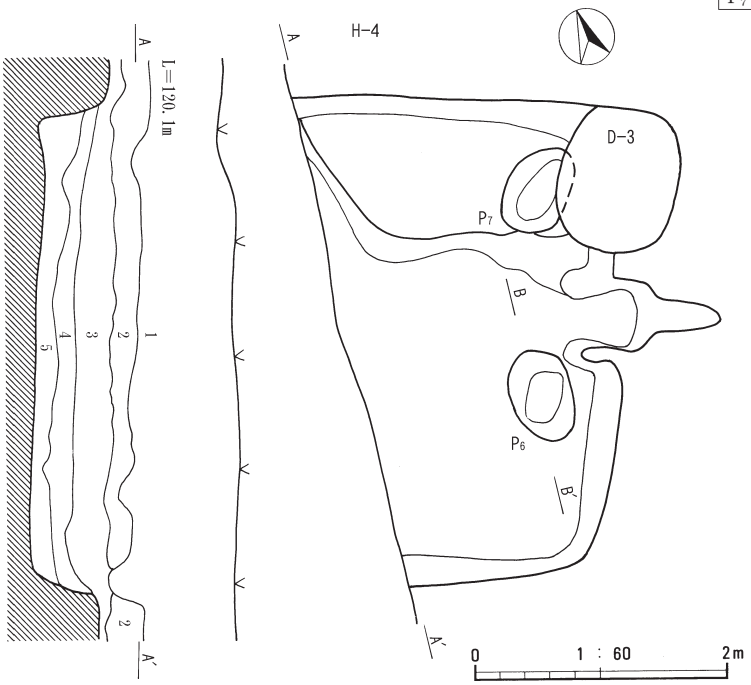


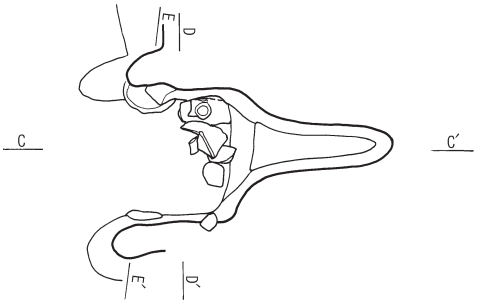
H－４号住居跡　P_6号柱穴セクション

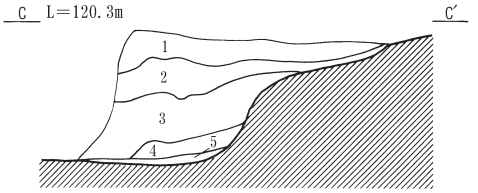
1　黒褐色微砂層　○△　灰層、焼土粒５％
2　暗赤褐色微砂層　○○　粘土ブロック10％、炭化物５％
3　黒褐色微砂層　△△　灰層

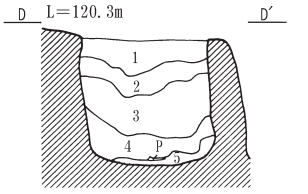
H－４号住居跡柱穴計測表

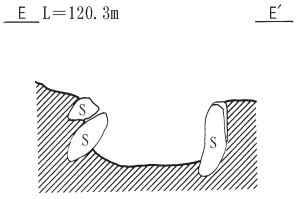
No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_6	楕円形	75	49	12.5	灰掻き穴
P_7	楕円形	74	50	21.0	











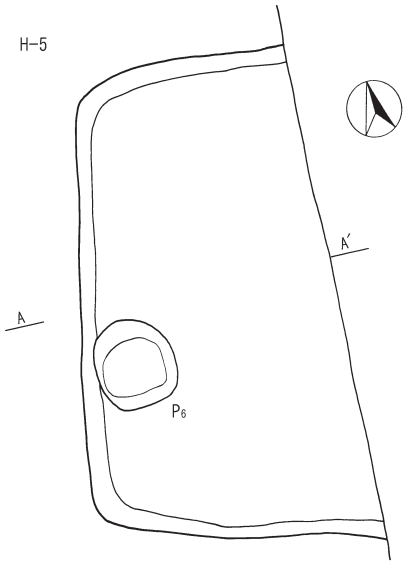
H－４号住居跡　ベルトセクション

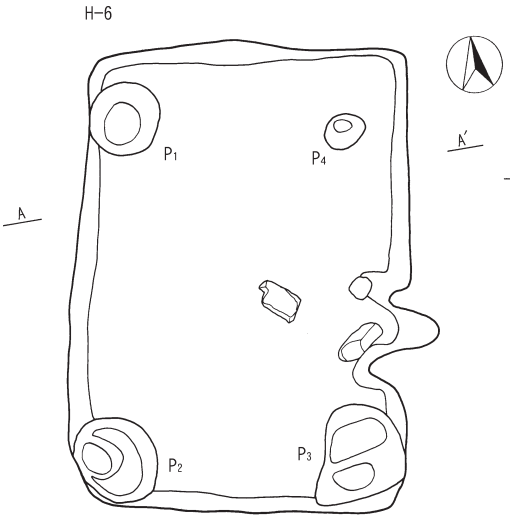
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　現耕作土
2　灰黄褐色粗砂層　○○　As-B混土層
3　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　５％
4　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　２％、黄橙色粒１％
5　暗褐色微砂層　△◎　As-C・Hr-FP　１％、黄橙色ブロック・粒１％

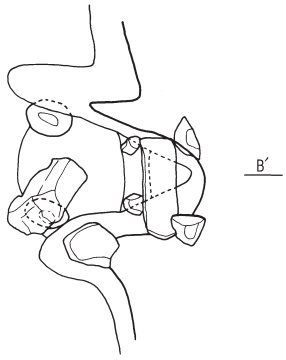
H－４号住居跡　竈セクション

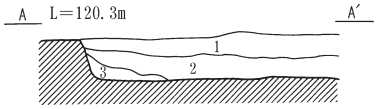
1　灰黄褐色粗砂層　○○　As-C・Hr-FP　５％
2　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　５％、黄橙色ブロック２％
3　褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　５％、焼土ブロック・粒・黄橙色ブロック２％
4　暗褐色微砂層　○○　焼土ブロック・粘土ブロック５％
5　黒褐色微砂層　○△　灰層

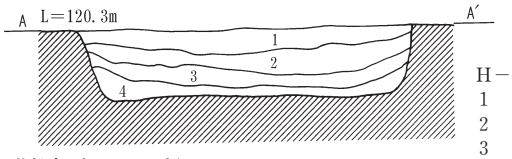
Fig. 6　５トレンチ／H－３・４号住居跡

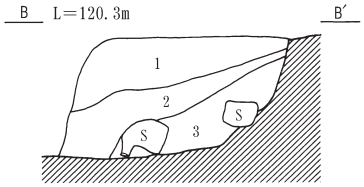












H－5号住居跡　ベルトセクション

1　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％、黄橙色ブロック2％
2　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％、黄橙色ブロック5％
3　褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP　2％、黄橙色ブロック2％

H－5号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_6	円　形	70	62	45.0	

H－6号住居跡　ベルトセクション

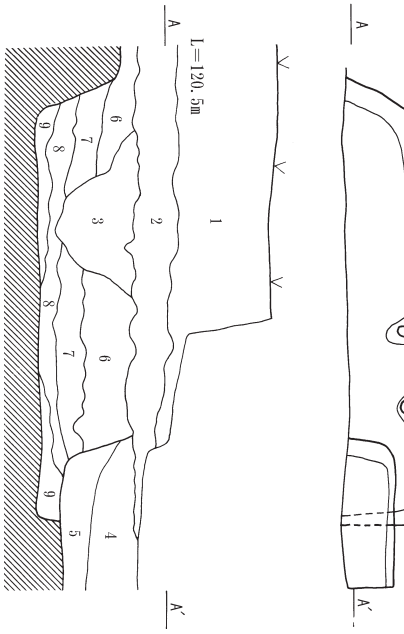
1　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％
2　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　2％、黄橙色粒1％
3　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　2％、黄橙色粒1％
4　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　2％、黄橙色ブロック2％

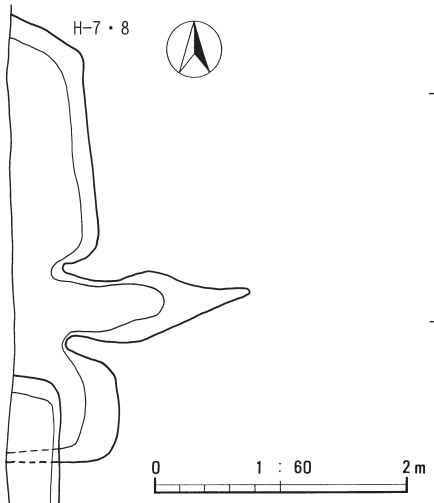
H－6号住居跡　竈セクション

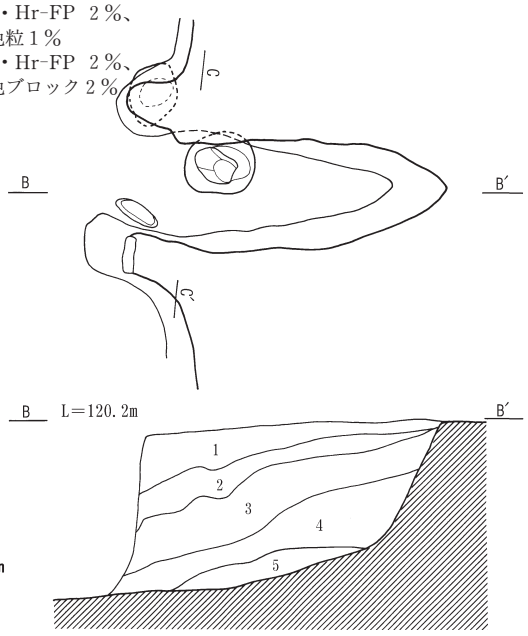
1　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP　5％
2　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　2％
3　にぶい褐色細砂層　○◎　焼土ブロック・粒20％

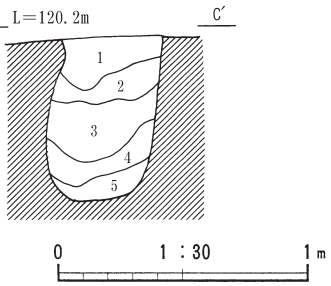
H－6号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_1	円　形	24	20	11.5	
P_2	楕円形	74	62	19.5	
P_3	楕円形	75	64	20.0	
P_4	楕円形	31	26	8.0	









H－7号住居跡　竈セクション

1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP　10％
2　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％
3　灰褐色微砂層　○◎　粘土主体
4　暗褐色細砂層　○○　焼土ブロック5％
5　明褐灰色微砂層　△◎　灰層

H－7・8号住居跡　ベルトセクション

1　にぶい黄褐色細砂層　○△　現耕作土
2　灰黄褐色粗砂層　○○　As-B混土層
3　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％、炭化物1％、黄橙色ブロック5％
4　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％
5　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％
6　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　2％
7　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　2％、炭化物1％
8　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　2％、粘土ブロック5％、炭化物1％
9　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　1％、黄橙色粒2％

Fig. 7　5トレンチ／H－5～8号住居跡

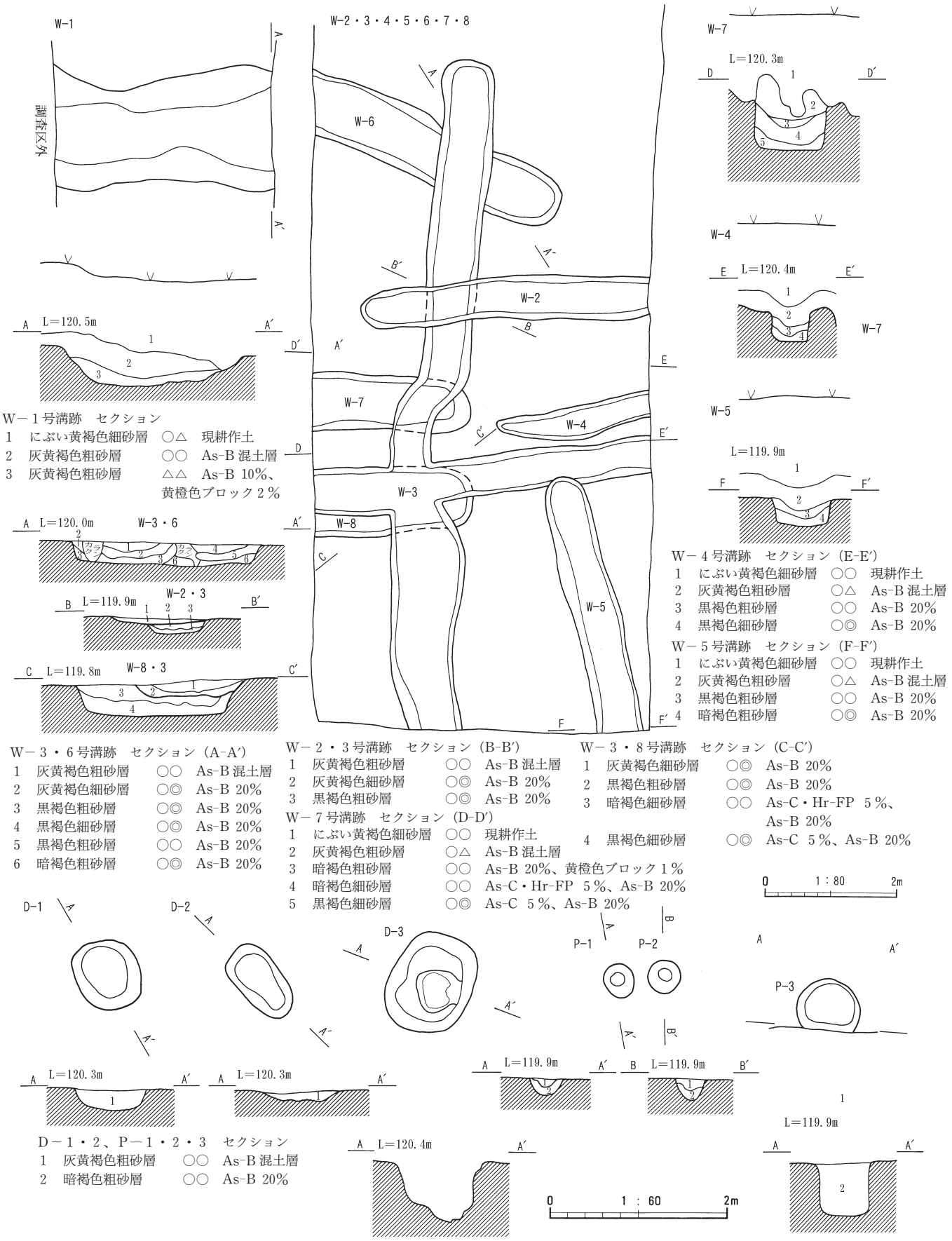
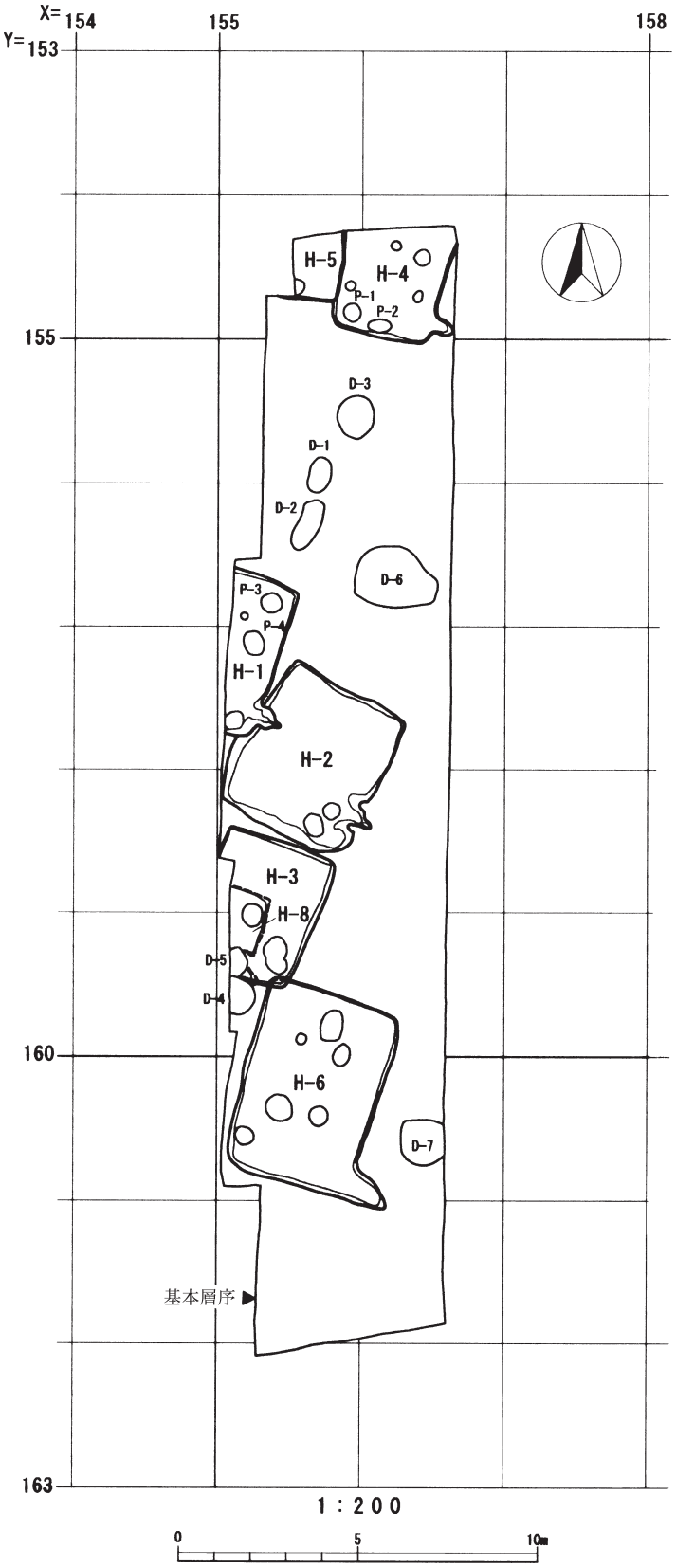
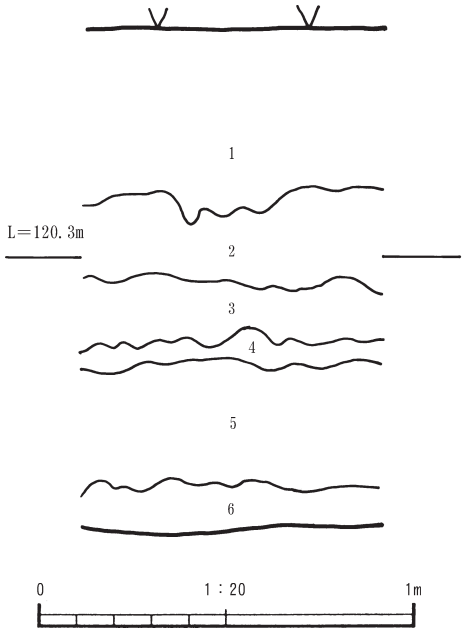


Fig. 8　５トレンチ／溝跡、土坑、ピット

6トレンチ

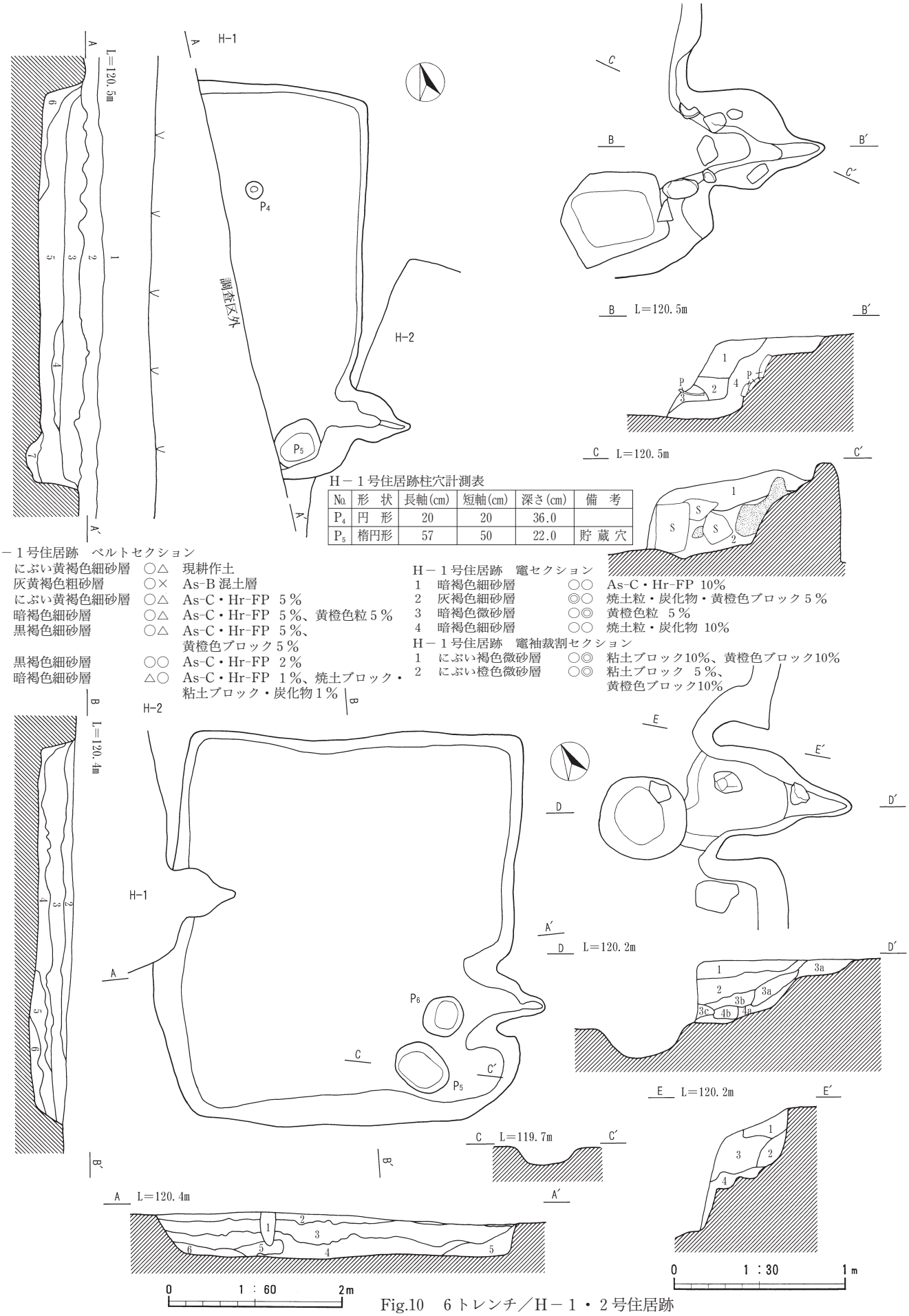


基 本 層 序



1	暗褐色細砂層（10YR3/4）	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層（10YR4/2）	締まり○　粘性△ As-B 混土層
3	暗褐色細砂層（10YR3/4）	締まり△　粘性○ As-C・Hr-FP　2％
4	黒褐色細砂層（10YR3/1）	締まり△　粘性○ As-C　2％
5	暗褐色細砂層（10YR3/3）	締まり○　粘性○ 黄色軽石1％ （総社砂層漸移層）
6	にぶい黄色微砂層（10YR6/3）	締まり◎　粘性× （総社砂層）

Fig. 9　6トレンチ全体図と基本層序



H－１号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_4	円　形	20	20	36.0	
P_5	楕円形	57	50	22.0	貯 蔵 穴

H－１号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○×	As-B 混土層
3	にぶい黄褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP　5％
4	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP　5％、黄橙色粒５％
5	黒褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP　5％、黄橙色ブロック５％
6	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　2％
7	暗褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP　1％、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物１％

H－１号住居跡　竈セクション

1	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 10％
2	灰褐色細砂層	◎○	焼土粒・炭化物・黄橙色ブロック５％
3	暗褐色微砂層	○◎	黄橙色粒　5％
4	暗褐色細砂層	○○	焼土粒・炭化物 10％

H－１号住居跡　竈袖裁割セクション

1	にぶい褐色微砂層	○◎	粘土ブロック10％、黄橙色ブロック10％
2	にぶい橙色微砂層	○◎	粘土ブロック　5％、黄橙色ブロック10％

Fig.10　6トレンチ／H－１・２号住居跡

H－２号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色細砂層	◎△	As-C・Hr-FP　５％
2	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP　２％、黄橙色粒１％
3	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP 10％、黄橙色ブロック５％
4	黒褐色細砂層	◎△	As-C・Hr-FP　２％、黄橙色ブロック２％
5	暗褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP　１％、黄橙色ブロック１％

H－２号住居跡柱穴計測表

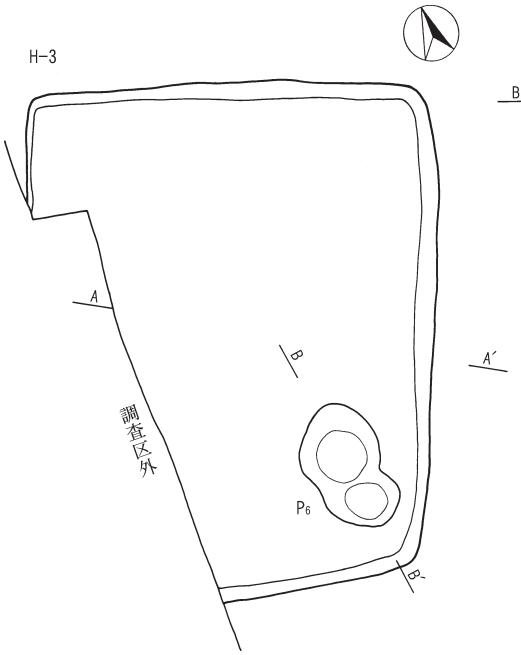
No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_5	楕円形	66	49	25.0	貯 蔵 穴
P_6	円　形	47	44	36.5	灰掻き穴

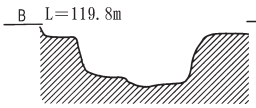
H－２号住居跡　竈セクション

1	灰黄褐色細砂層	◎△	As-C・Hr-FP 10％、焼土粒１％
2	灰黄褐色細砂層	◎△	As-C・Hr-FP　５％、焼土粒・粘土ブロック・黄橙色粒５％
3a	灰褐色微砂層	△○	焼土ブロック主体
3b	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　５％、黄橙色粒　２％
3c	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　５％、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物２％
4a	灰褐色微砂層	△○	焼土ブロック２％、灰混じる
4b	灰褐色微砂層	○○	焼土ブロック・粒 10％、粘土粒・灰５％

H－２号住居跡　竈袖裁割セクション

1	黒褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP　２％、黄橙色粒２％
2	オリーブ褐色細砂層	△△	黄橙色ブロック２％
3	灰黄褐色細砂層	○◎	粘土主体、黄橙色粒２％
4	黒褐色細砂層	○○	黄橙色粒５％





H－３号住居跡　ベルトセクション

1	灰黄褐色粗砂層	○△	As-C・Hr-FP　２％、As-B　５％
2	にぶい黄褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP　５％、黄橙色粒１％
3	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP 10％、焼土ブロック１％

H－３号住居跡柱穴計測表

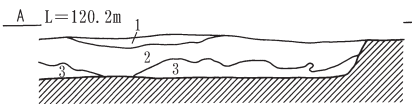
No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_6	不整形	104	64	40.5	柱痕２つ

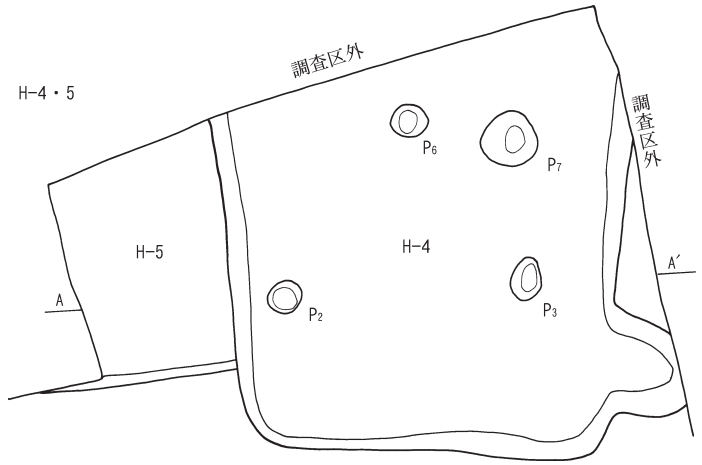
H－４・５号住居跡　ベルトセクション

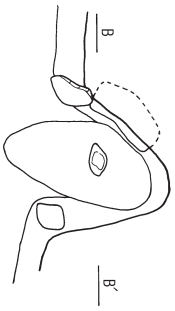
1	にぶい黄褐色細砂層	◎△	As-C・Hr-FP　５％、As-B　５％
2	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP　２％、黄橙色粒１％
3	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP 10％、黄橙色ブロック５％
4	暗褐色細砂層	◎△	As-C・Hr-FP　２％、焼土粒２％
5	黒褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP　１％、焼土粒・炭化物５％、黄橙色ブロック１％
6	明黄褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP　１％、黄橙色ブロック１％
7	明黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　１％、黄橙色ブロック５％
8	にぶい黄褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP　１％、黄橙色粒２％
9	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　５％
10	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　５％、黄橙色ブロック１％
11	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　２％
12	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　１％

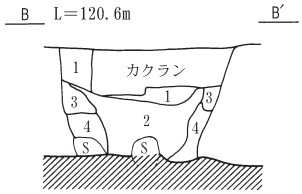
H－４号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_2	円　形	28	26	27.0	
P_3	楕円形	34	24	22.0	
P_6	円　形	46	45	15.0	
P_7	円　形	28	26	33.0	



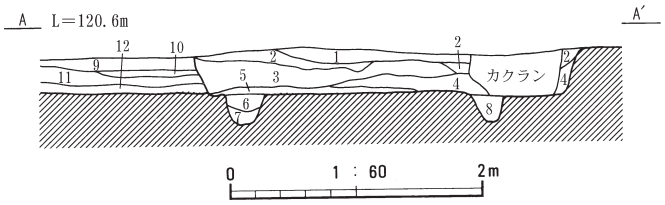






H－４号住居跡　竈セクション

1	暗褐色細砂層	◎△	As-C・Hr-FP　１％
2	にぶい褐色細砂層	○○	焼土粒 10％
3	暗褐色細砂層	◎◎	As-C・Hr-FP　５％、焼土粒・粘土ブロック５％
4	明褐色細砂層	◎○	焼土ブロック・粒10％



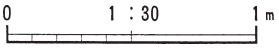
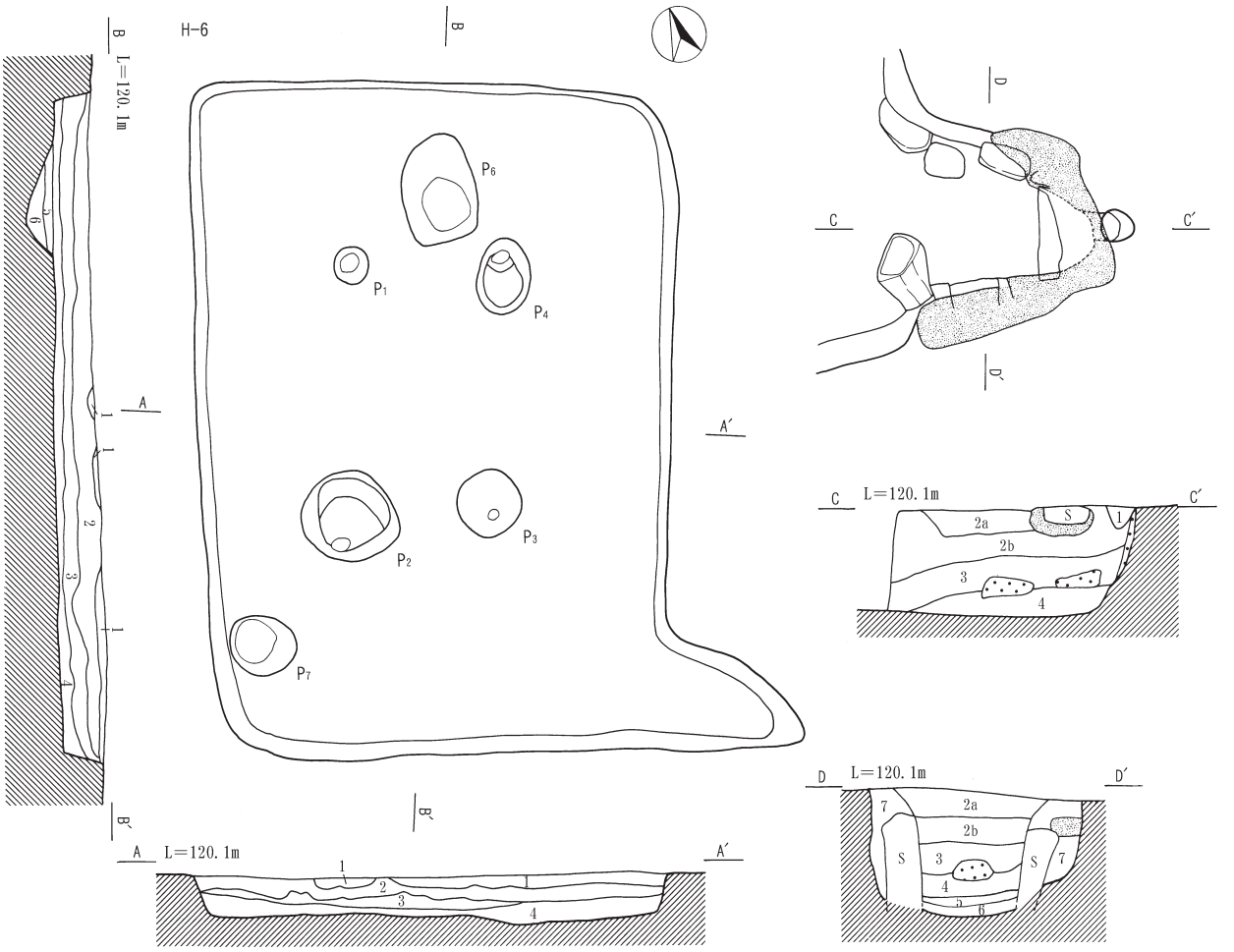


Fig.11　６トレンチ／H－３～５号住居跡



H－６号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP 10%
2	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒５%
3	にぶい黄褐色細砂層	◎△	As-C・Hr-FP ５%、黄橙色ブロック・粒５%
4	暗褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP １%、黄橙色粒１%
5	暗褐色細砂層	◎○	As-C・Hr-FP １%、黄橙色粒１%
6	暗褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP １%、焼土粒・黄橙色粒１%

H－６号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_1	円　形	30	30	19.0	
P_2	楕円形	80	70	54.0	
P_3	円　形	52	52	66.0	
P_4	楕円形	62	43	50.0	
P_6	楕円形	86	60	26.0	
P_7	円　形	53	48	57.0	

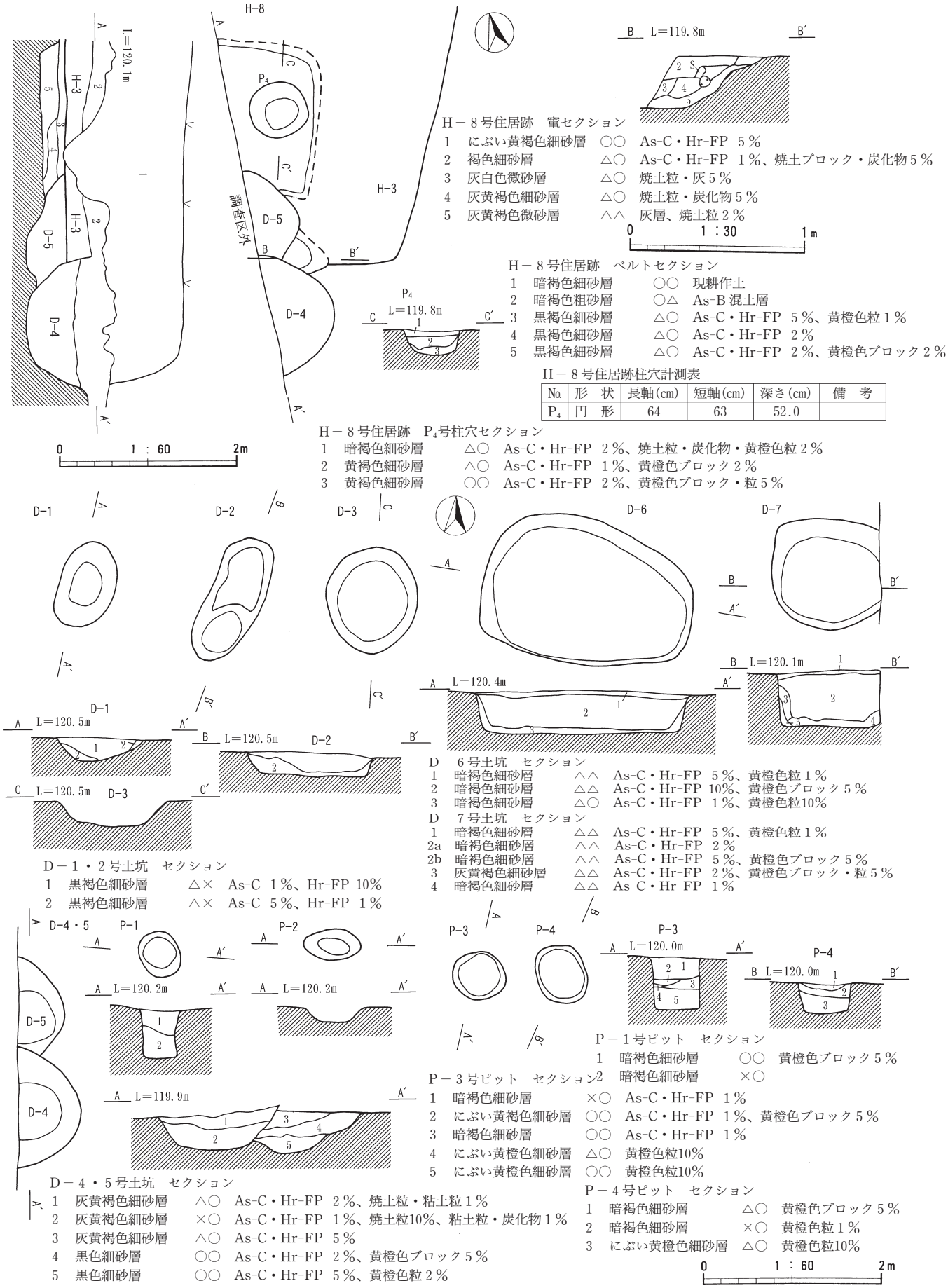
0　1：60　2m

H－６号住居跡　竈・竈袖裁割セクション

1	灰黄褐色粗砂層	△△	As-B 20%
2a	暗赤褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP ５%、焼土ブロック・灰20%
2b	暗褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP １%
3	にぶい黄褐色微砂層	△△	灰20%
4	暗褐色細砂層	×△	焼土粒・灰10%
5	灰褐色微砂層	×○	灰層
6	褐色細砂層	◎△	黄橙色粒20%
7	黒褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP １%

0　1：30　1m

Fig.12　６トレンチ／H－６号住居跡



H－８号住居跡　竈セクション

1　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　５％
2　褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP　１％、焼土ブロック・炭化物５％
3　灰白色微砂層　△○　焼土粒・灰５％
4　灰黄褐色細砂層　△○　焼土粒・炭化物５％
5　灰黄褐色微砂層　△△　灰層、焼土粒２％

H－８号住居跡　ベルトセクション

1　暗褐色細砂層　○○　現耕作土
2　暗褐色粗砂層　○△　As-B 混土層
3　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP　５％、黄橙色粒１％
4　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP　２％
5　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP　２％、黄橙色ブロック２％

H－８号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_4	円　形	64	63	52.0	

H－８号住居跡　P_4号柱穴セクション

1　暗褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP　２％、焼土粒・炭化物・黄橙色粒２％
2　黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP　１％、黄橙色ブロック２％
3　黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　２％、黄橙色ブロック・粒５％

D－６号土坑　セクション

1　暗褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP　５％、黄橙色粒１％
2　暗褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP　10％、黄橙色ブロック５％
3　暗褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP　１％、黄橙色粒10％

D－７号土坑　セクション

1　暗褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP　５％、黄橙色粒１％
2a　暗褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP　２％
2b　暗褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP　５％、黄橙色ブロック５％
3　灰黄褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP　２％、黄橙色ブロック・粒５％
4　暗褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP　１％

D－１・２号土坑　セクション

1　黒褐色細砂層　△×　As-C　１％、Hr-FP　10％
2　黒褐色細砂層　△×　As-C　５％、Hr-FP　１％

P－１号ピット　セクション

1　暗褐色細砂層　○○　黄橙色ブロック５％
2　暗褐色細砂層　×○

P－３号ピット　セクション

1　暗褐色細砂層　×○　As-C・Hr-FP　１％
2　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　１％、黄橙色ブロック５％
3　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　１％
4　にぶい黄橙色細砂層　△○　黄橙色粒10％
5　にぶい黄橙色細砂層　○○　黄橙色粒10％

D－４・５号土坑　セクション

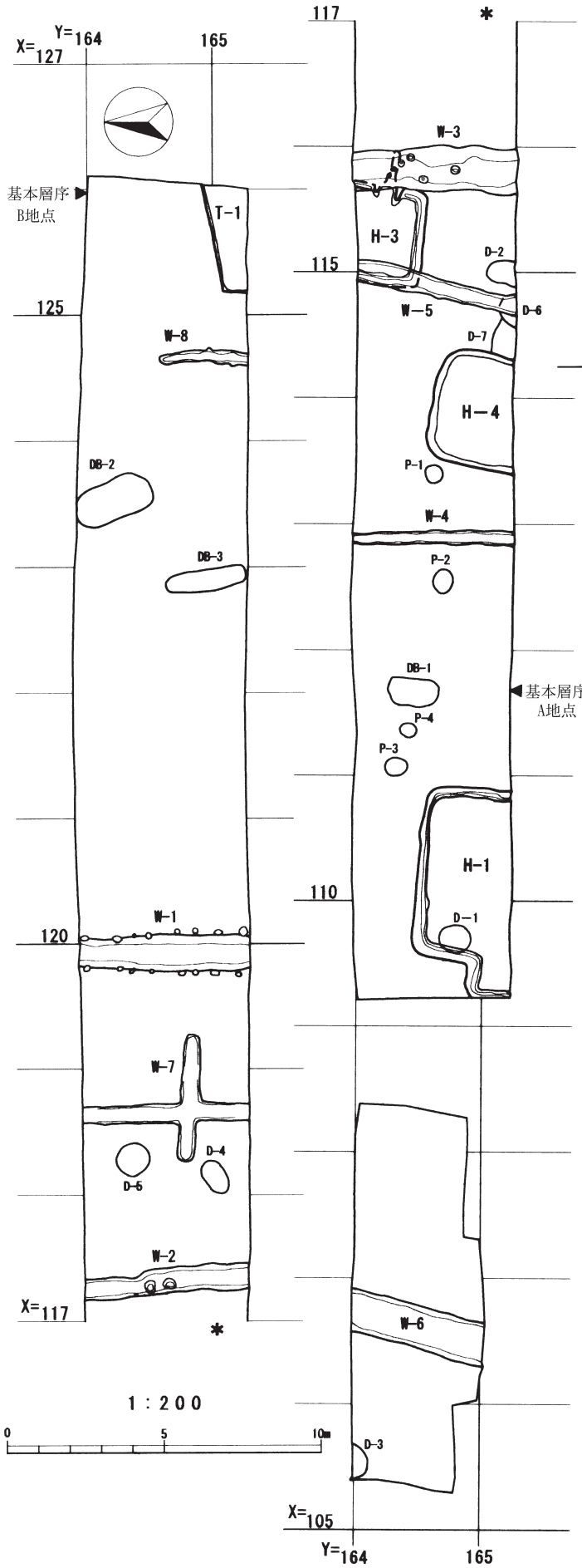
1　灰黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP　２％、焼土粒・粘土粒１％
2　灰黄褐色細砂層　×○　As-C・Hr-FP　１％、焼土粒10％、粘土粒・炭化物１％
3　灰黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP　５％
4　黒色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　２％、黄橙色ブロック５％
5　黒色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　５％、黄橙色粒２％

P－４号ピット　セクション

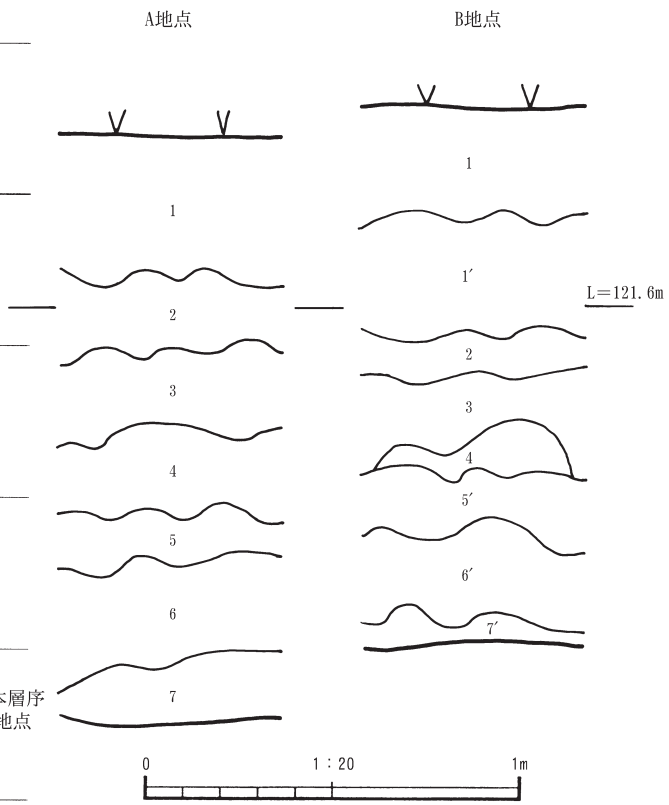
1　暗褐色細砂層　△○　黄橙色ブロック５％
2　暗褐色細砂層　×○　黄橙色粒１％
3　にぶい黄橙色細砂層　△○　黄橙色粒10％

Fig.13　６トレンチ／H－８号住居跡、土坑、ピット

7トレンチ

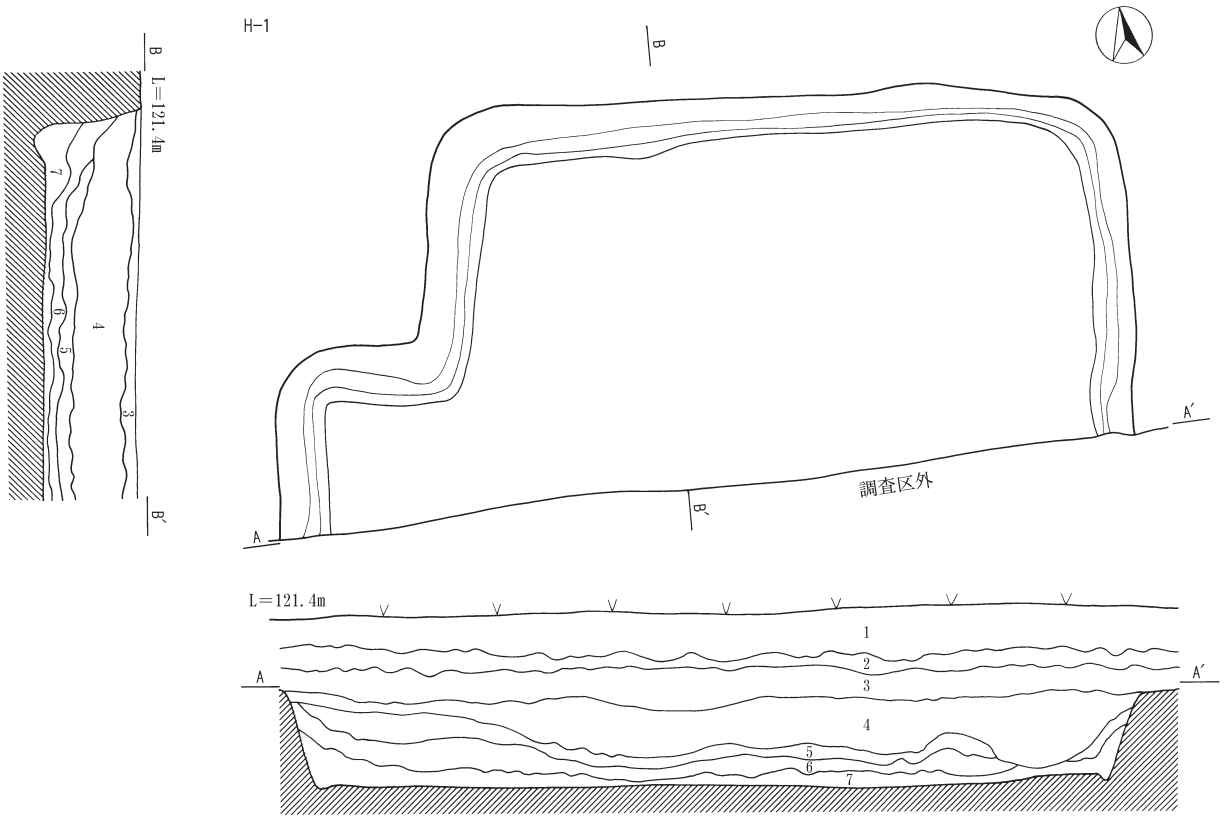


基本層序



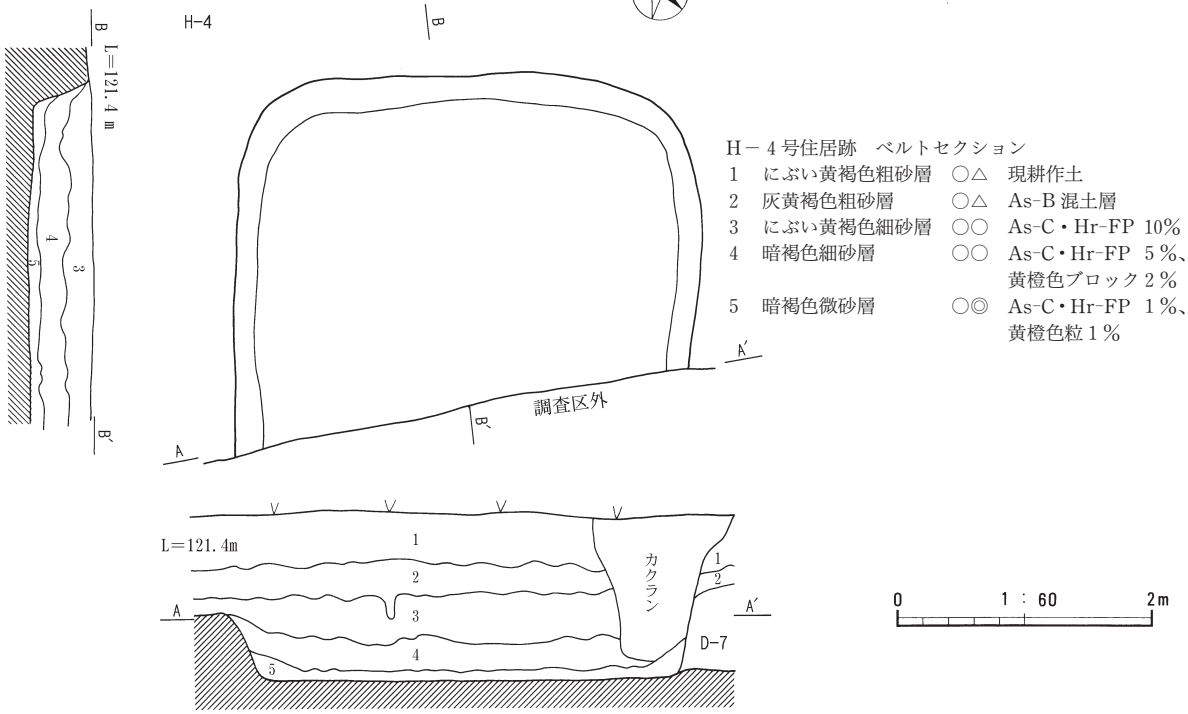
1	にぶい黄褐色細砂層（10YR4/3）	現耕作土
1’	にぶい黄褐色細砂層（10YR4/3）	盛土（締まりあり）
2	灰黄褐色粗砂層（10YR4/2）	締まり○　粘性△ As-B 混土層
3	暗褐色細砂層（10YR3/3）	締まり○　粘性○ As-C・Hr-FP 10%
4	黒褐色細砂層（10YR2/2）	締まり○　粘性○ As-C 20%
5	褐色微砂層（7.5YR4/4）	締まり○　粘性◎
（5’	暗褐色微砂層（10YR3/4）	締まり△　粘性◎） 赤褐色軽石１％ （総社砂層漸移層）
6	暗褐色微砂層（7.5YR3/4）	締まり○　粘性◎
（6’	にぶい黄褐色微砂層（10YR4/3）	締まり△　粘性◎） 赤褐色軽石１％ （総社砂層漸移層）
7	明褐色微砂層（7.5YR5/6）	締まり◎　粘性◎
（7’	明黄褐色微砂層（10YR6/6）	締まり◎　粘性△） 赤褐色軽石１％ （総社砂層）

Fig.14　7トレンチ全体図と基本層序



H－１号住居跡　ベルトセクション

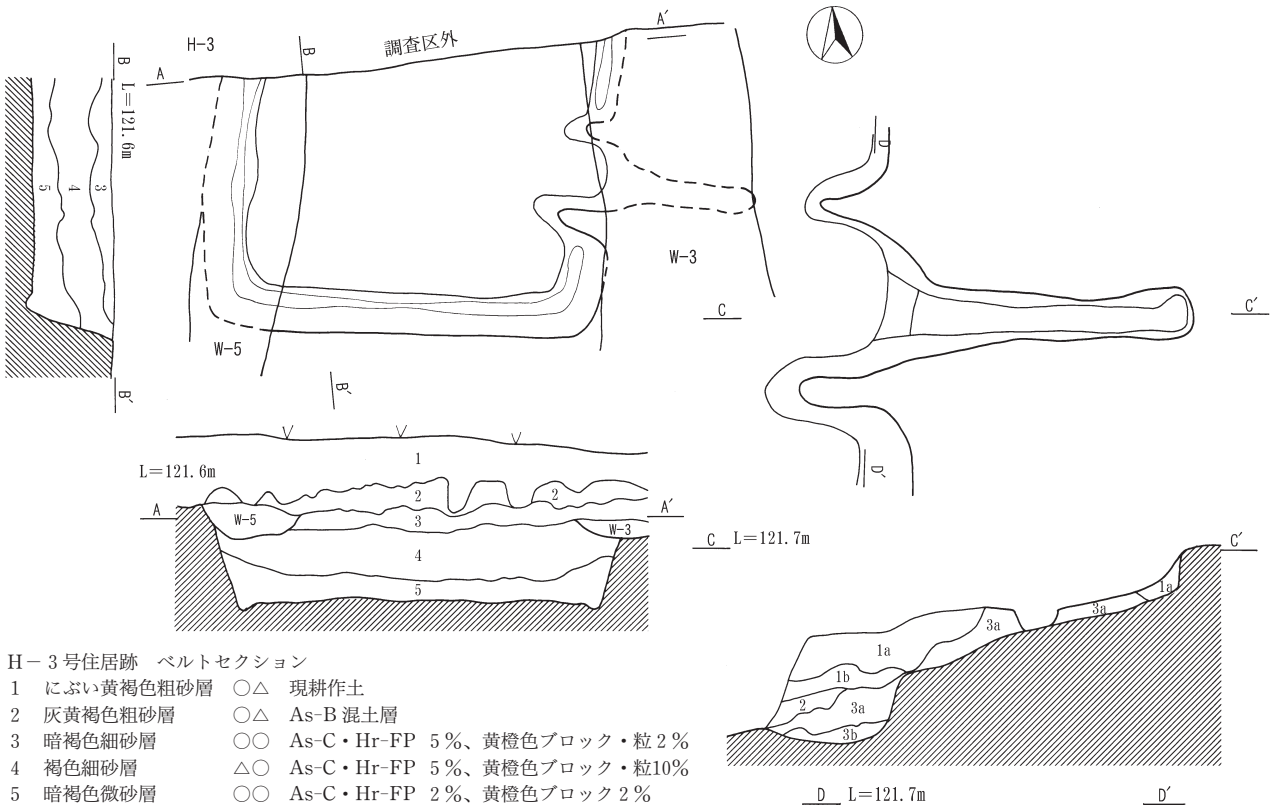
1	にぶい黄褐色粗砂層	○△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
3	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　5％
4	褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色ブロック・粒５％
5	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　5％、黄橙色ブロック・粘土ブロック２％
6	褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　5％、黄橙色ブロック・粒５％
7	暗褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FP　2％、黄橙色ブロック・粒２％、焼土粒・炭化物１％



H－４号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色粗砂層	○△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
3	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 10%
4	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　5％、黄橙色ブロック２％
5	暗褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP　1％、黄橙色粒１％

Fig.15　７トレンチ／Ｈ－１・４号住居跡

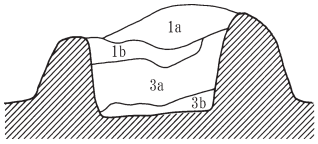


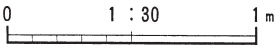
H－３号住居跡　ベルトセクション

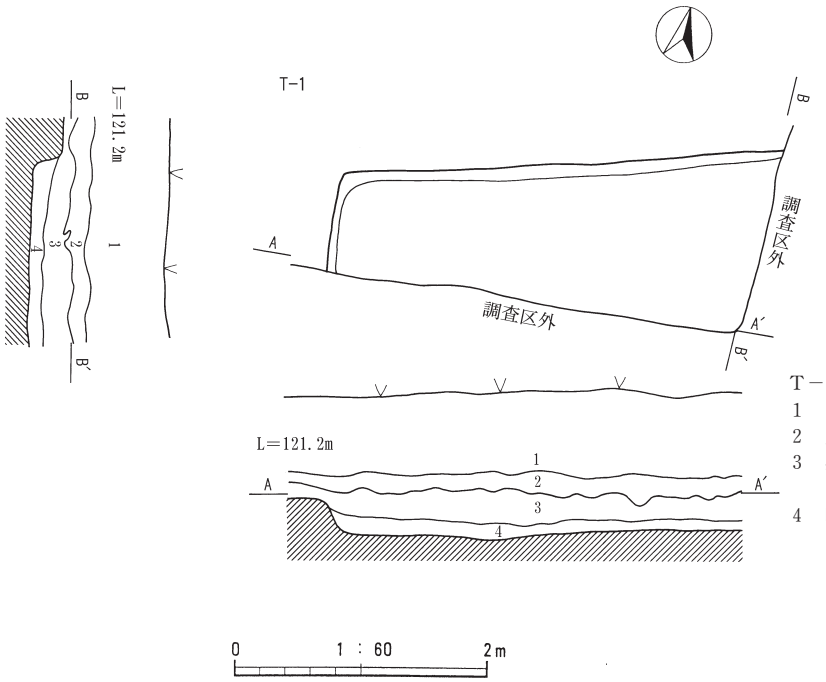
1	にぶい黄褐色粗砂層	○△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
3	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　5％、黄橙色ブロック・粒２％
4	褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP　5％、黄橙色ブロック・粒10％
5	暗褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FP　2％、黄橙色ブロック２％

H－３号住居跡　竈セクション

1a	褐色細砂層	○○	粘土粒５％、黄橙色ブロック５％
1b	にぶい黄橙色細砂層	○○	粘土主体
2	暗褐色細砂層	○○	As-C 20％
3a	灰褐色微砂層	○△	粘土主体、焼土ブロック20％
3b	黒褐色微砂層	○△	灰層、粘土ブロック20％



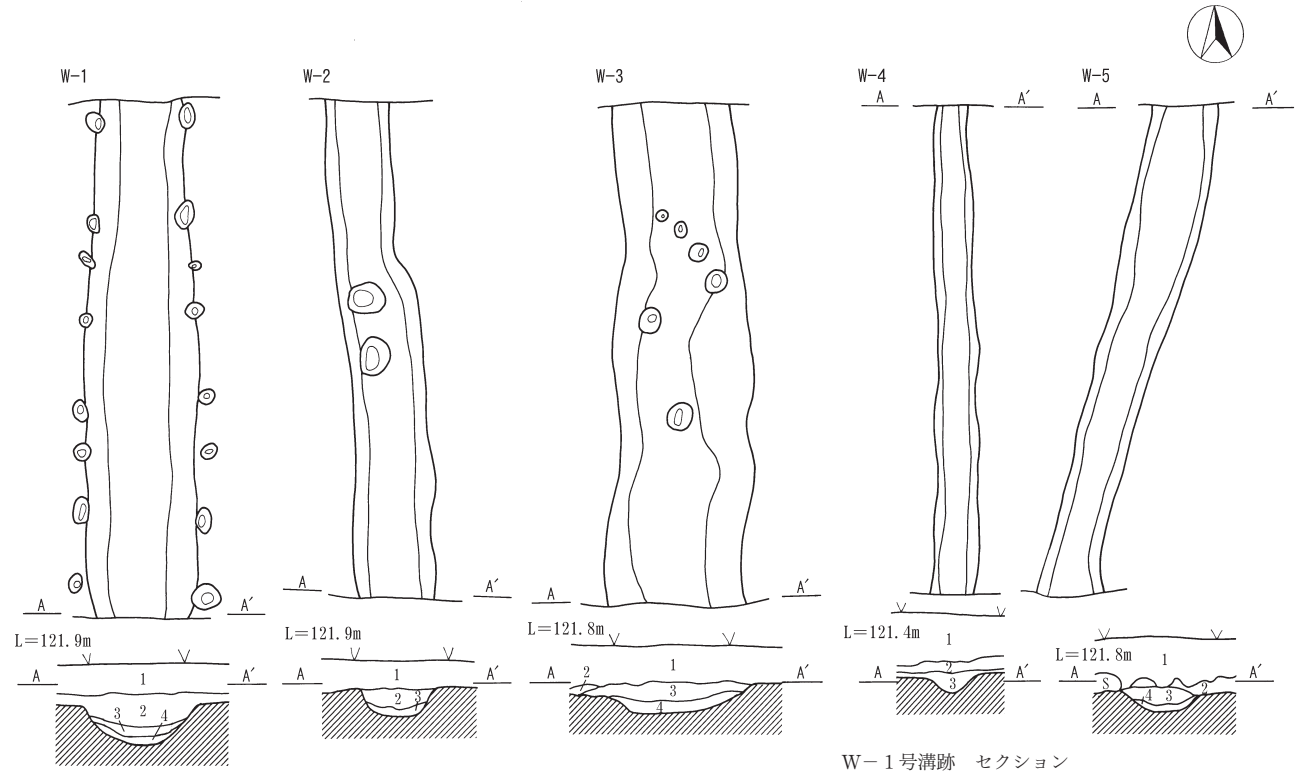


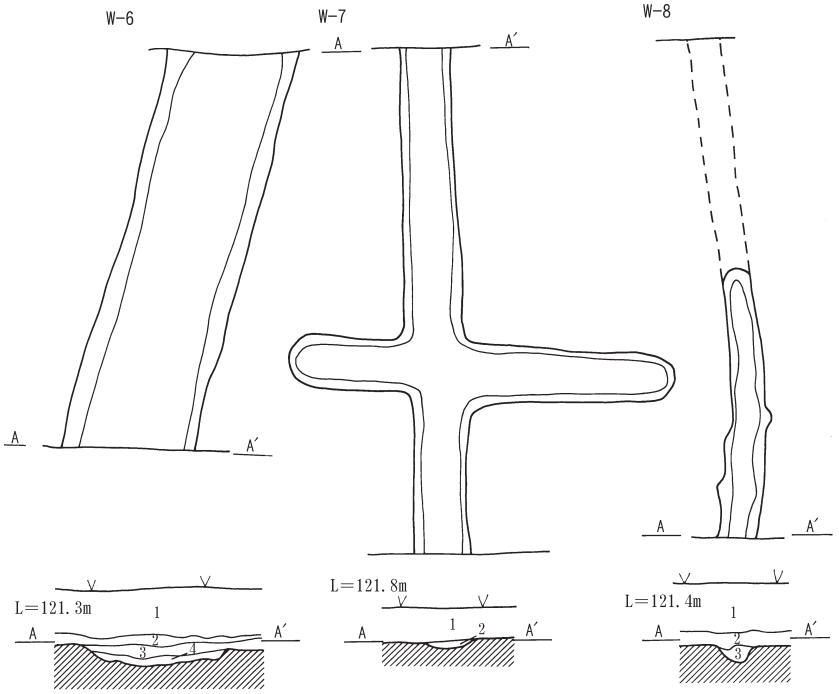


T－１号竪穴状遺構　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色粗砂層	○△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
3	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　2％、炭化物２％
4	暗褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FP　5％

Fig.16　7トレンチ／H－３号住居跡、T－１号竪穴状遺構





W－１号溝跡　セクション

1	にぶい黄褐色粗砂層	○△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
3	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 10%
4	にぶい黄褐色粗砂層	○△	As-B ５%

W－２号溝跡　セクション

1	にぶい黄褐色粗砂層	○△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
3	灰黄褐色粗砂層	△×	As-B 10%

W－３号溝跡　セクション

1	にぶい黄褐色粗砂層	○△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
3	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP ５%
4	暗褐色細砂層	◎◎	As-C ５%、Hr-FP １%

W－４号溝跡　セクション

1	にぶい黄褐色粗砂層	○△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
3	暗褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FP ２%、黄橙色ブロック２%

W－５号溝跡　セクション

1	にぶい黄褐色粗砂層	○△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
3	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP ５%
4	にぶい黄褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP １%、黄橙色粒１%

W－６号溝跡　セクション

1	にぶい黄褐色粗砂層	○△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
3	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP ２%
4	暗褐色細砂層	○◎	As-C １%、炭化物１%

W－７号溝跡　セクション

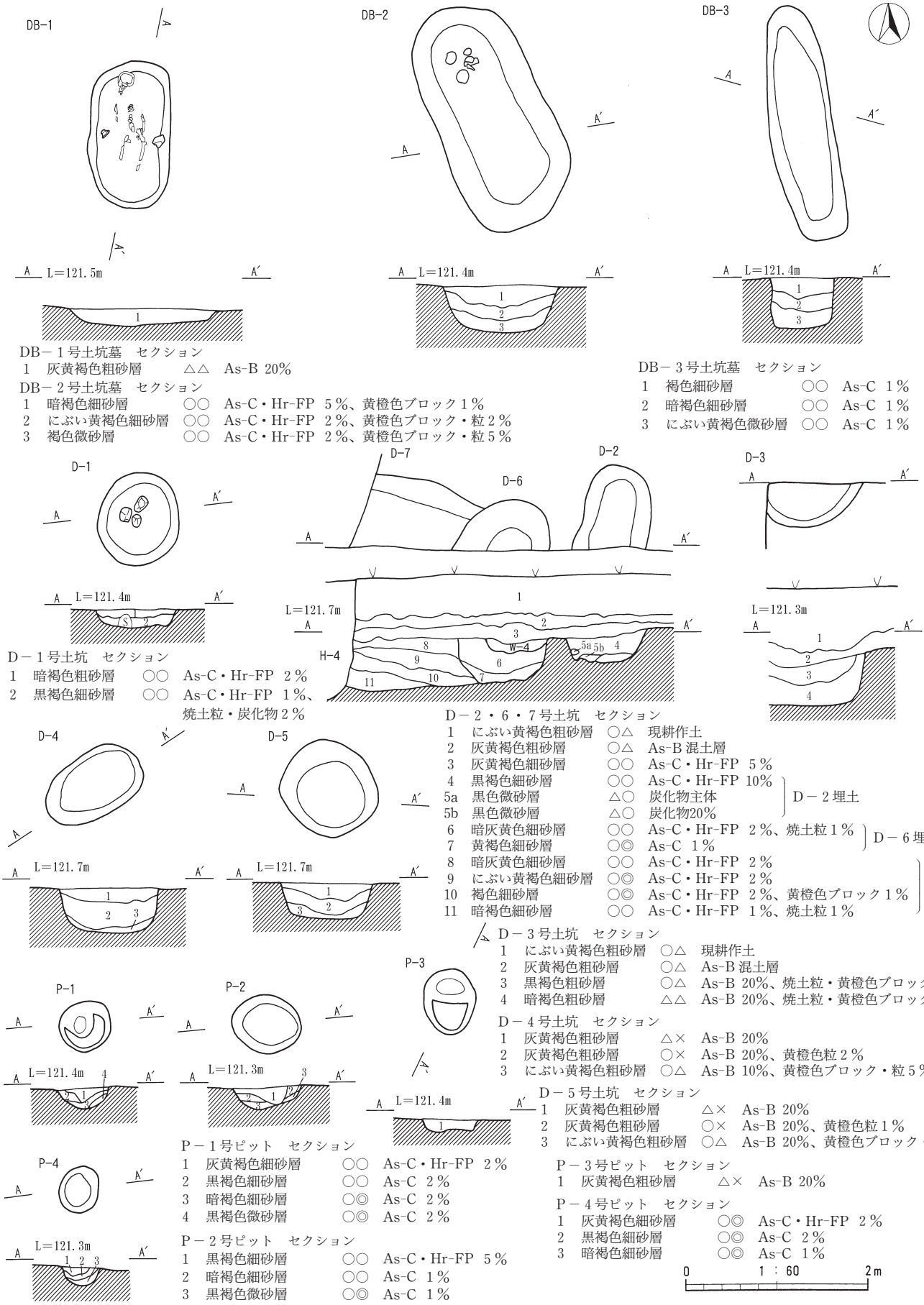
1	にぶい黄褐色粗砂層	○△	現耕作土
2	黒褐色細砂層	◎○	As-C・Hr-FP ２%（硬化面）

W－８号溝跡　セクション

1	にぶい黄褐色粗砂層	○△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
3	暗褐色細砂層	○○	As-B 10%

0　1：80　2m

Fig.17　７トレンチ／W－１～８号溝跡



DB－１号土坑墓　セクション

1　灰黄褐色粗砂層　△△　As-B 20%

DB－２号土坑墓　セクション

1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　５％、黄橙色ブロック１％
2　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　２％、黄橙色ブロック・粒２％
3　褐色微砂層　○○　As-C・Hr-FP　２％、黄橙色ブロック・粒５％

DB－３号土坑墓　セクション

1　褐色細砂層　○○　As-C　１％
2　暗褐色細砂層　○○　As-C　１％
3　にぶい黄褐色微砂層　○○　As-C　１％

D－１号土坑　セクション

1　暗褐色粗砂層　○○　As-C・Hr-FP　２％
2　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　１％、焼土粒・炭化物２％

D－２・６・７号土坑　セクション

1　にぶい黄褐色粗砂層　○△　現耕作土
2　灰黄褐色粗砂層　○△　As-B 混土層
3　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　５％
4　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　10%　D－２埋土
5a　黒色微砂層　△○　炭化物主体　D－２埋土
5b　黒色微砂層　△○　炭化物20%　D－２埋土
6　暗灰黄色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　２％、焼土粒１％　D－６埋土
7　黄褐色細砂層　○◎　As-C　１％　D－６埋土
8　暗灰黄色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　２％　D－７埋土
9　にぶい黄褐色細砂層　○◎　As-C・Hr-FP　２％　D－７埋土
10　褐色細砂層　○◎　As-C・Hr-FP　２％、黄橙色ブロック１％　D－７埋土
11　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　１％、焼土粒１％　D－７埋土

D－３号土坑　セクション

1　にぶい黄褐色粗砂層　○△　現耕作土
2　灰黄褐色粗砂層　○△　As-B 混土層
3　黒褐色粗砂層　○△　As-B 20%、焼土粒・黄橙色ブロック１％
4　暗褐色粗砂層　△△　As-B 20%、焼土粒・黄橙色ブロック１％

D－４号土坑　セクション

1　灰黄褐色粗砂層　△×　As-B 20%
2　灰黄褐色粗砂層　○×　As-B 20%、黄橙色粒２％
3　にぶい黄褐色粗砂層　○△　As-B 10%、黄橙色ブロック・粒５％

D－５号土坑　セクション

1　灰黄褐色粗砂層　△×　As-B 20%
2　灰黄褐色粗砂層　○×　As-B 20%、黄橙色粒１％
3　にぶい黄褐色粗砂層　○△　As-B 20%、黄橙色ブロック・粒２％

P－１号ピット　セクション

1　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　２％
2　黒褐色細砂層　○○　As-C　２％
3　暗褐色細砂層　○◎　As-C　２％
4　黒褐色微砂層　○◎　As-C　２％

P－２号ピット　セクション

1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　５％
2　暗褐色細砂層　○○　As-C　１％
3　黒褐色微砂層　○◎　As-C　１％

P－３号ピット　セクション

1　灰黄褐色粗砂層　△×　As-B 20%

P－４号ピット　セクション

1　灰黄褐色細砂層　○◎　As-C・Hr-FP　２％
2　黒褐色細砂層　○◎　As-C　２％
3　暗褐色細砂層　○◎　As-C　１％

Fig.18　７トレンチ／土坑墓、土坑、ピット

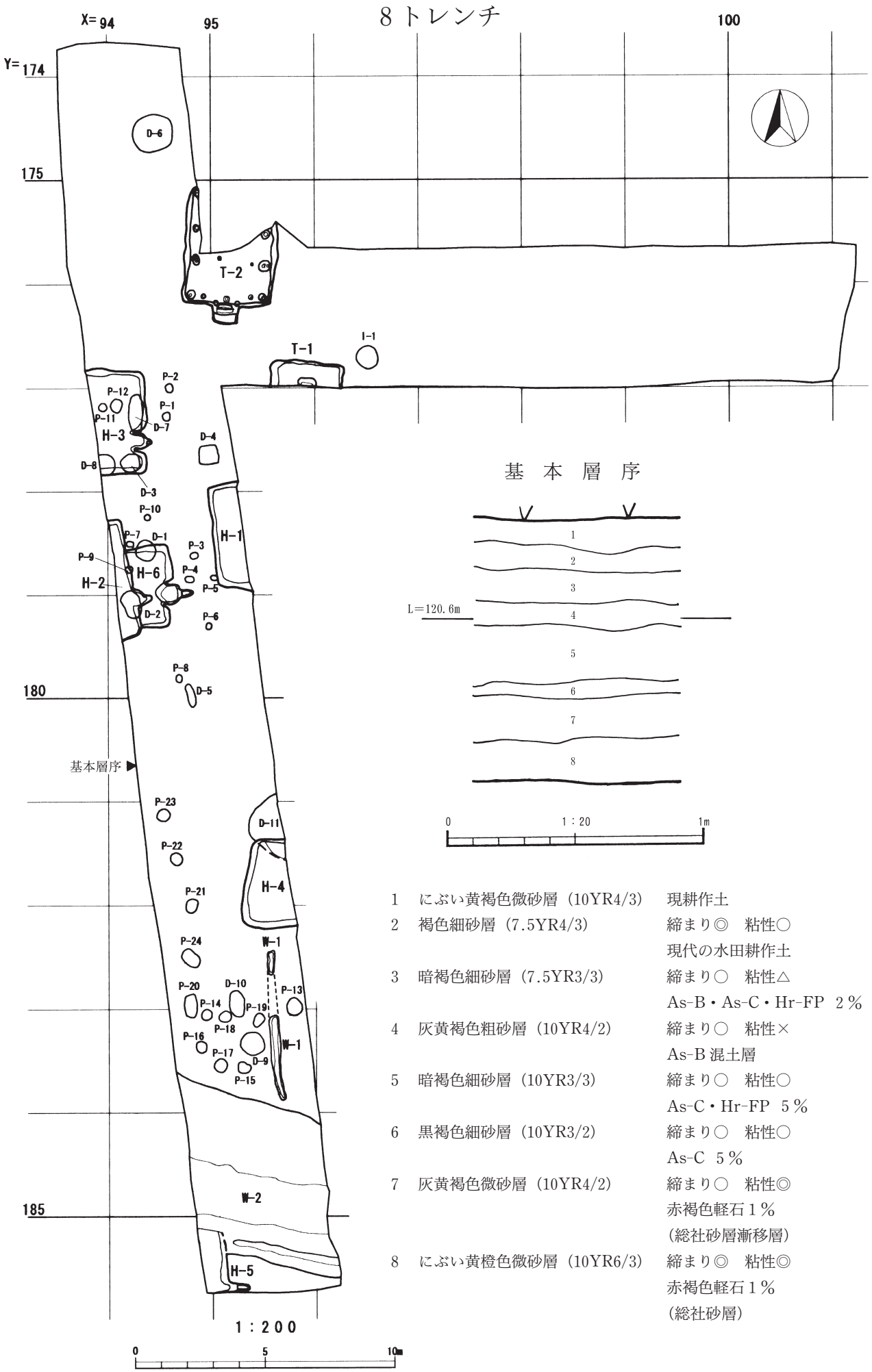
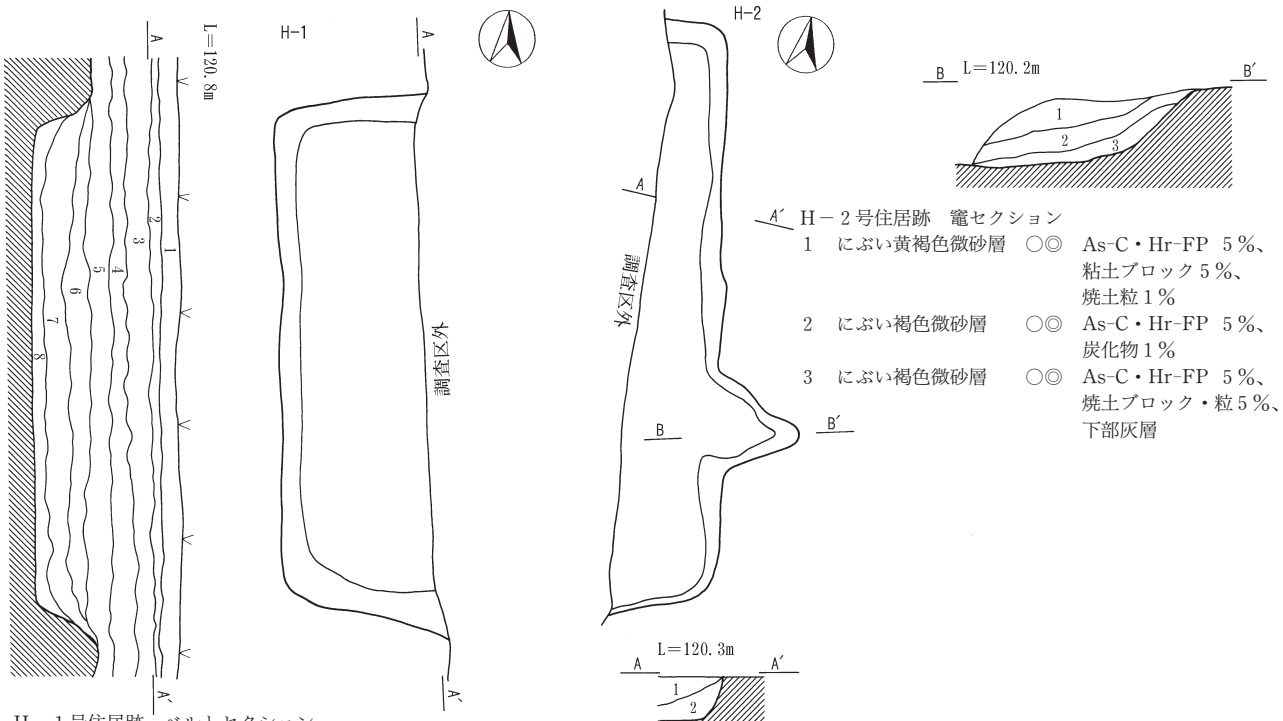


Fig.19　8トレンチ全体図と基本層序



H－１号住居跡　ベルトセクション

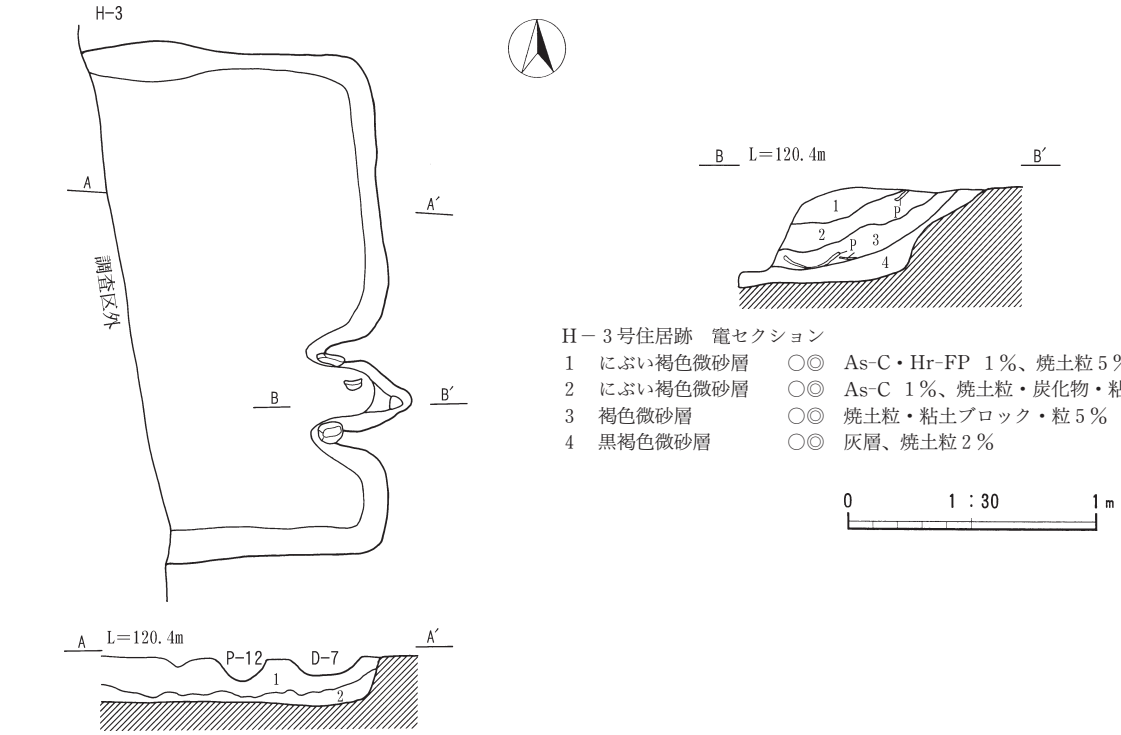
1	にぶい黄褐色微砂層	×△	現耕作土
2	褐色細砂層	◎○	鉄分凝集層
3	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP・As-B　2％
4	灰黄褐色粗砂層	○×	As-B 混土層
5	褐色細砂層	◎△	As-C・Hr-FP　2％
6	にぶい黄褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP　5％
7	暗褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FP　2％、黄橙色ブロック・粒２％
8	暗褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP　1％、黄橙色ブロック・粒１％

H－２号住居跡　竈セクション

1	にぶい黄褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP　5％、粘土ブロック５％、焼土粒１％
2	にぶい褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP　5％、炭化物１％
3	にぶい褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP　5％、焼土ブロック・粒５％、下部灰層

H－２号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FP　2％、炭化物１％
2	黒褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP　1％、炭化物・黄橙色ブロック１％



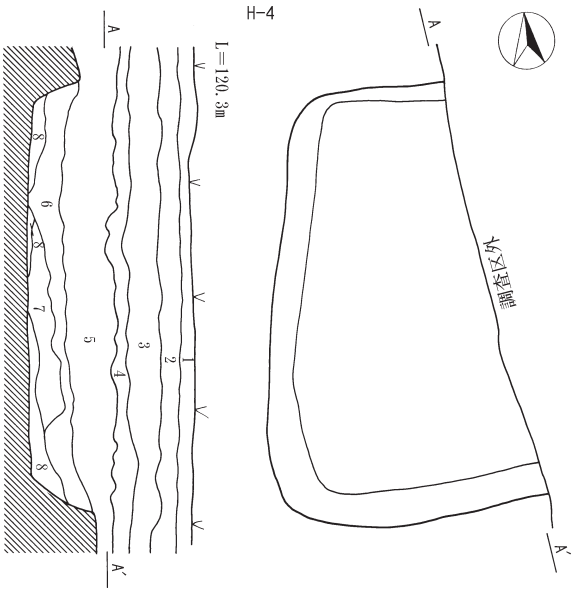
H－３号住居跡　竈セクション

1	にぶい褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP　1％、焼土粒５％、炭化物５％
2	にぶい褐色微砂層	○◎	As-C　1％、焼土粒・炭化物・粘土ブロック１％
3	褐色微砂層	○◎	焼土粒・粘土ブロック・粒５％
4	黒褐色微砂層	○◎	灰層、焼土粒２％

H－３号住居跡　ベルトセクション

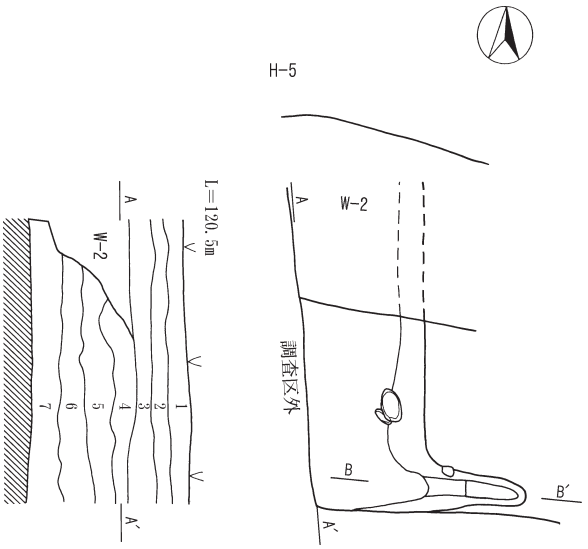
1	暗褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP　1％、焼土ブロック　1％、炭化物５％
2	黒褐色微砂層	◎◎	As-C　1％、黄橙色ブロック５％

Fig.20　８トレンチ／H－１～３号住居跡



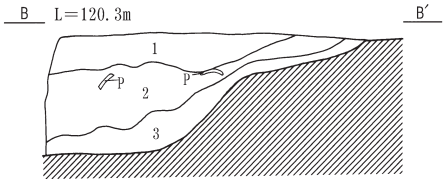
H－４号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色微砂層	×△	現耕作土
2	褐色細砂層	◎○	鉄分凝集層
3	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP・As-B　２％
4	灰黄褐色粗砂層	○×	As-B 混土層
5	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　２％
6	暗褐色微砂層	◎○	As-C・Hr-FP　１％、黄橙色ブロック１％
7	黒褐色微砂層	◎◎	As-C・Hr-FP　１％、黄橙色ブロック10％
8	黒褐色微砂層	◎○	As-C・Hr-FP　１％、黄橙色ブロック５％



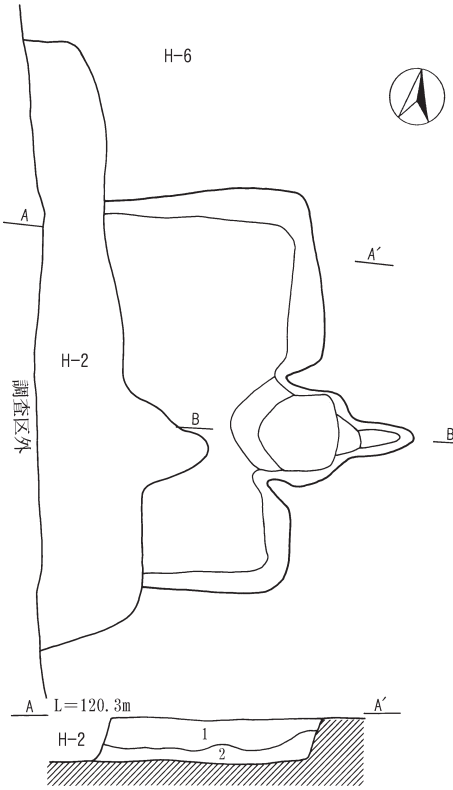
H－５号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色微砂層	×△	現耕作土
2	褐色細砂層	◎○	鉄分凝集層
3	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP・As-B　２％
4	灰黄褐色粗砂層	○×	As-B 混土層
5	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　２％
6	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　１％
7	にぶい黄褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP　１％、黄橙色ブロック５％、灰５％



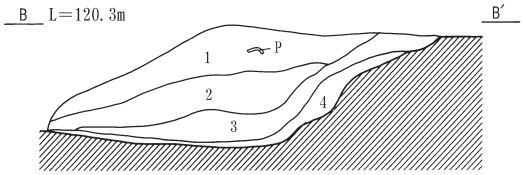
H－５号住居跡　竈セクション

1	にぶい黄褐色微砂層	○◎	焼土粒１％、黄橙色ブロック５％
2	暗褐色微砂層	○○	焼土粒２％、黄橙色ブロック１％
3	極暗褐色微砂層	○◎	焼土粒５％、灰５％



H－６号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　１％、黄橙色ブロック５％
2	黒褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP　１％、黄橙色ブロック１％



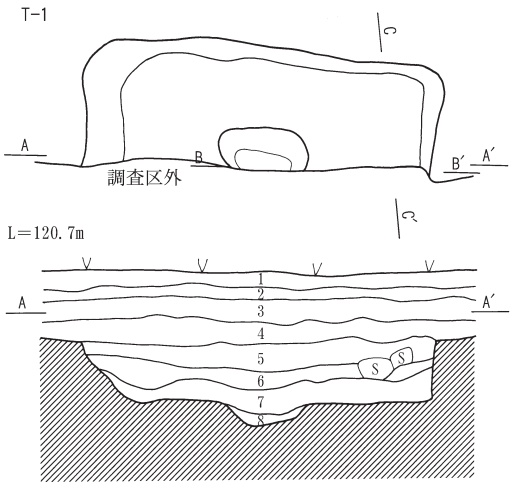
H－６号住居跡　竈セクション

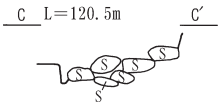
1	にぶい黄褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FP　１％、黄橙色粒２％
2	暗褐色微砂層	○○	焼土ブロック・粒２％、炭化物１％
3	灰褐色微砂層	○◎	焼土粒・粘土ブロック５％、下部灰層
4	灰褐色微砂層	○◎	灰層

0　1：30　1m

0　1：60　2m

Fig.21　８トレンチ／Ｈ－４～６号住居跡



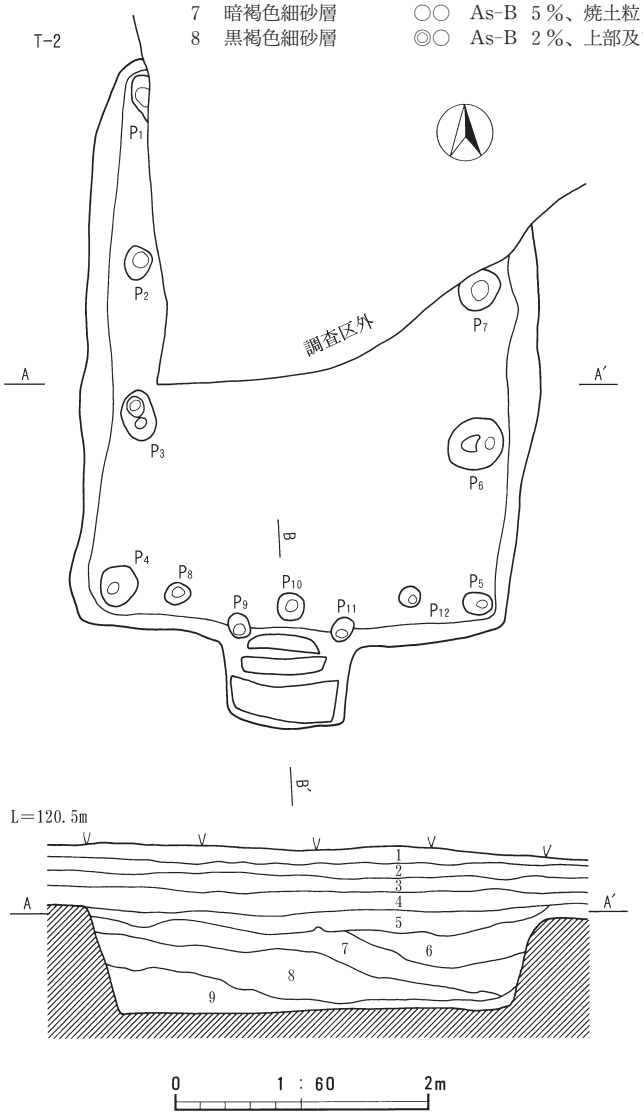


T－１号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_1	楕円形	71	(32)	18.5	

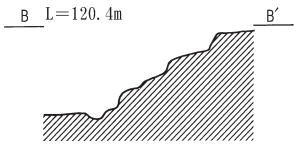
T－１号竪穴状遺構　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色微砂層	×△	現耕作土
2	褐色細砂層	◎○	鉄分凝集層
3	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP・As-B　2％
4	灰黄褐色粗砂層	○×	As-B 混土層
5	暗褐色細砂層	○○	As-B　5％、焼土粒・炭化物１％
6	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-B 10％、焼土粒・炭化物５％
7	暗褐色細砂層	○○	As-B　5％、焼土粒・炭化物１％、黄橙色ブロック１％
8	黒褐色細砂層	◎○	As-B　2％、上部及び下部に灰層有



T－２号住居跡柱穴計測表

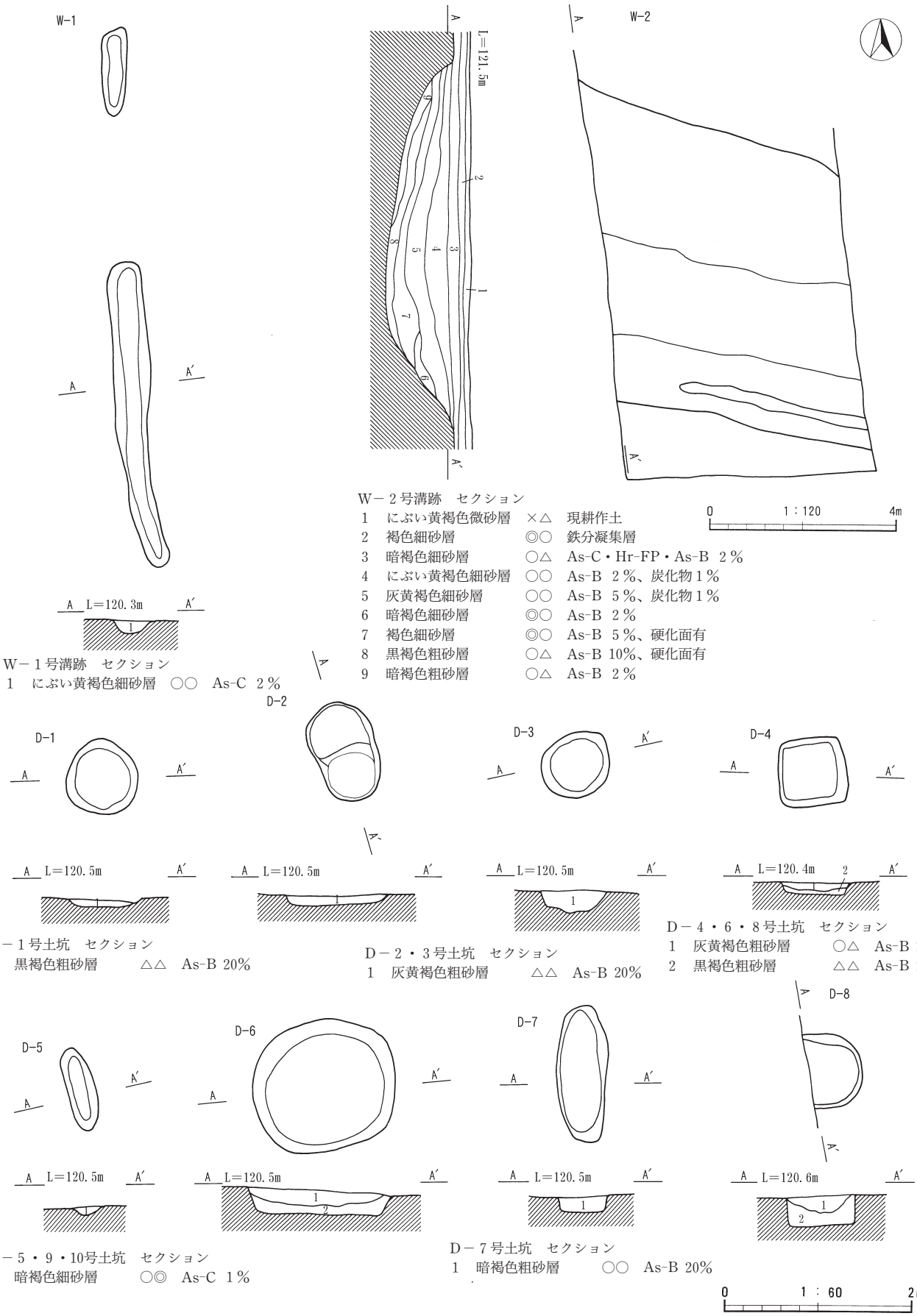
No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_1	半円形	23	(15)	34.0	
P_2	楕円形	26	20	31.0	
P_3	楕円形	40	26	32.5	
P_4	楕円形	36	29	71.5	
P_5	楕円形	35	25	57.5	
P_6	円　形	44	40	53.0	
P_7	楕円形	35	30	41.5	
P_8	円　形	18	16	11.0	
P_9	楕円形	20	16	31.5	
P_{10}	円　形	23	21	8.5	
P_{11}	円　形	20	17	29.0	
P_{12}	円　形	18	17	25.5	



T－２号竪穴状遺構　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色微砂層	×△	現耕作土
2	褐色細砂層	◎○	鉄分凝集層
3	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP・As-B　2％
4	灰黄褐色粗砂層	○×	As-B 混土層
5	灰黄褐色細砂層	△◎	As-B　2％
6	暗褐色粗砂層	○○	As-B 15％
7	黒褐色細砂層	○○	As-B　5％、粘土ブロック２％
8	にぶい黄褐色微砂層	◎◎	粘土ブロック主体、As-B　1％
9	灰黄褐色細砂層	○○	As-B　5％、炭化物１％

Fig.22　８トレンチ／Ｔ－１・２号竪穴状遺構



W－１号溝跡　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C　2％

W－２号溝跡　セクション

1	にぶい黄褐色微砂層	×△	現耕作土
2	褐色細砂層	◎○	鉄分凝集層
3	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP・As-B　2％
4	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-B　2％、炭化物１％
5	灰黄褐色細砂層	○○	As-B　5％、炭化物１％
6	暗褐色細砂層	◎○	As-B　2％
7	褐色細砂層	◎○	As-B　5％、硬化面有
8	黒褐色粗砂層	○△	As-B 10％、硬化面有
9	暗褐色粗砂層	○△	As-B　2％

D－１号土坑　セクション
1　黒褐色粗砂層　△△　As-B 20%

D－２・３号土坑　セクション
1　灰黄褐色粗砂層　△△　As-B 20%

D－４・６・８号土坑　セクション
1　灰黄褐色粗砂層　○△　As-B 20%
2　黒褐色粗砂層　△△　As-B 20%

D－５・９・10号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　○◎　As-C　1％

D－７号土坑　セクション
1　暗褐色粗砂層　○○　As-B 20%

Fig.23　８トレンチ／溝跡、D－１～８号土坑

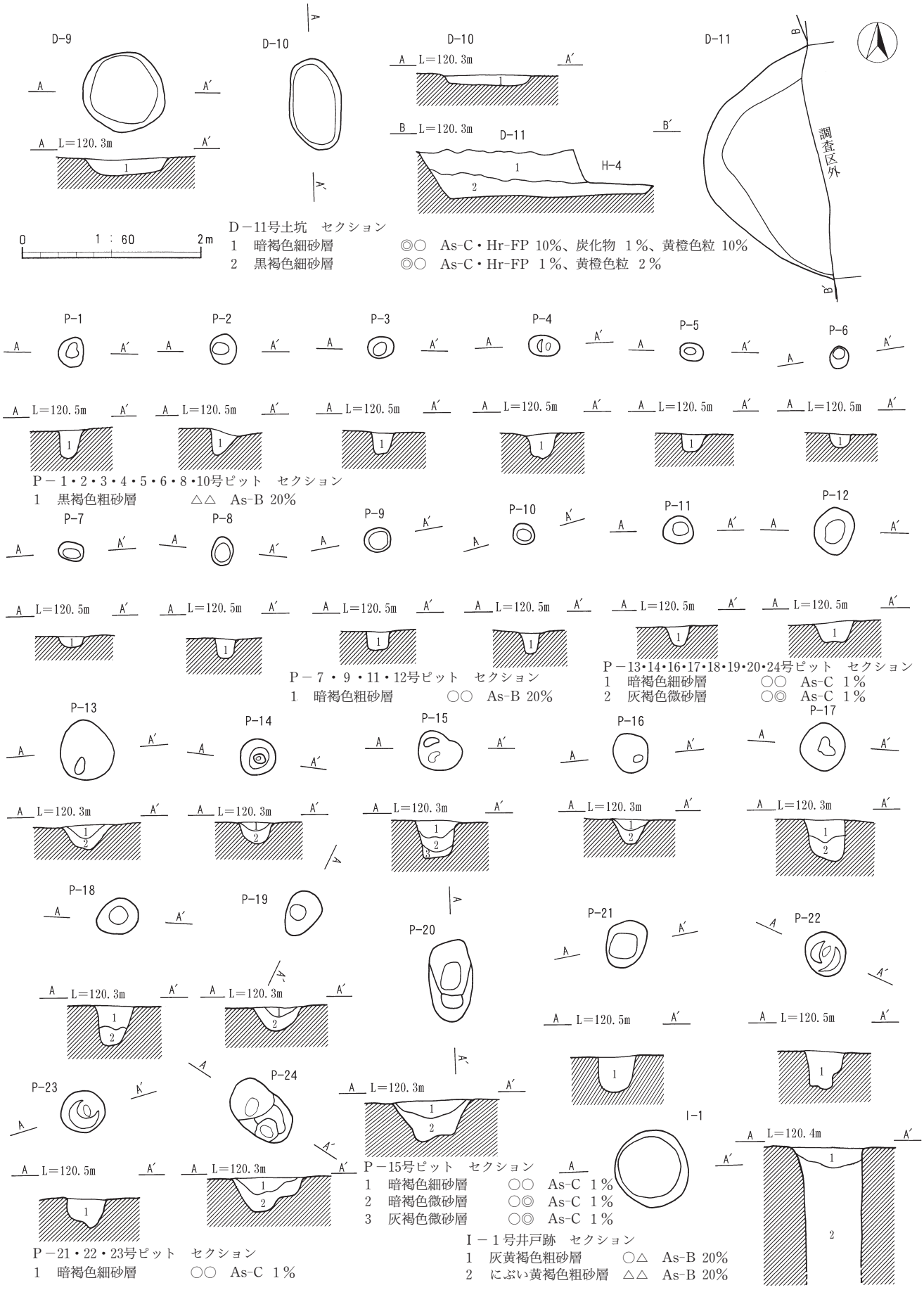
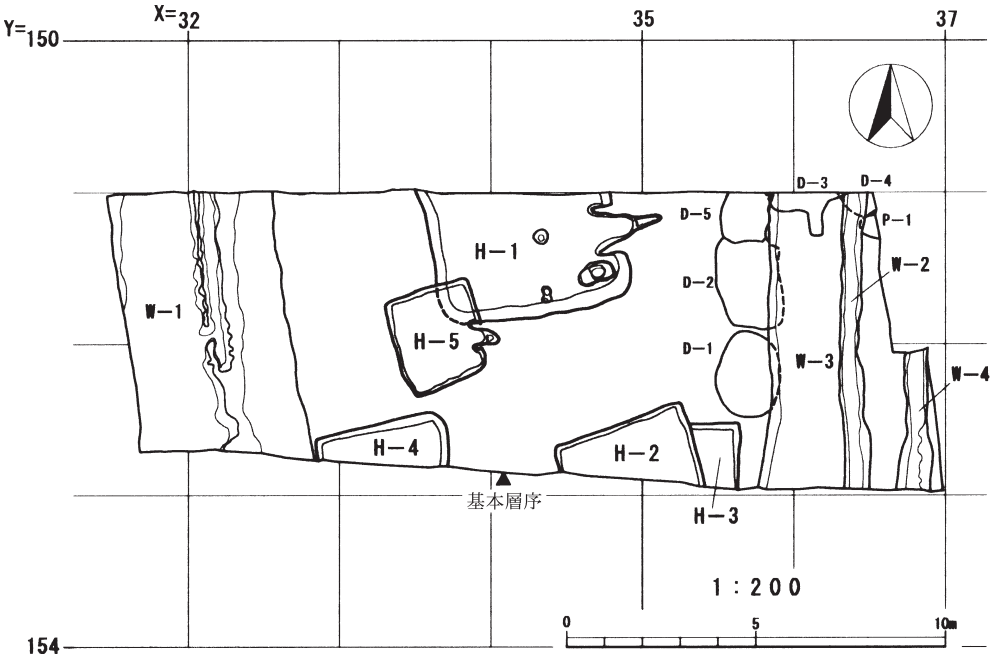
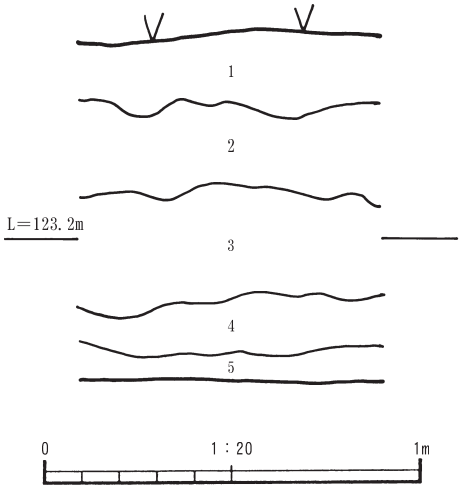


Fig.24　8トレンチ／D－9～11号土坑、ピット、井戸跡

9トレンチ

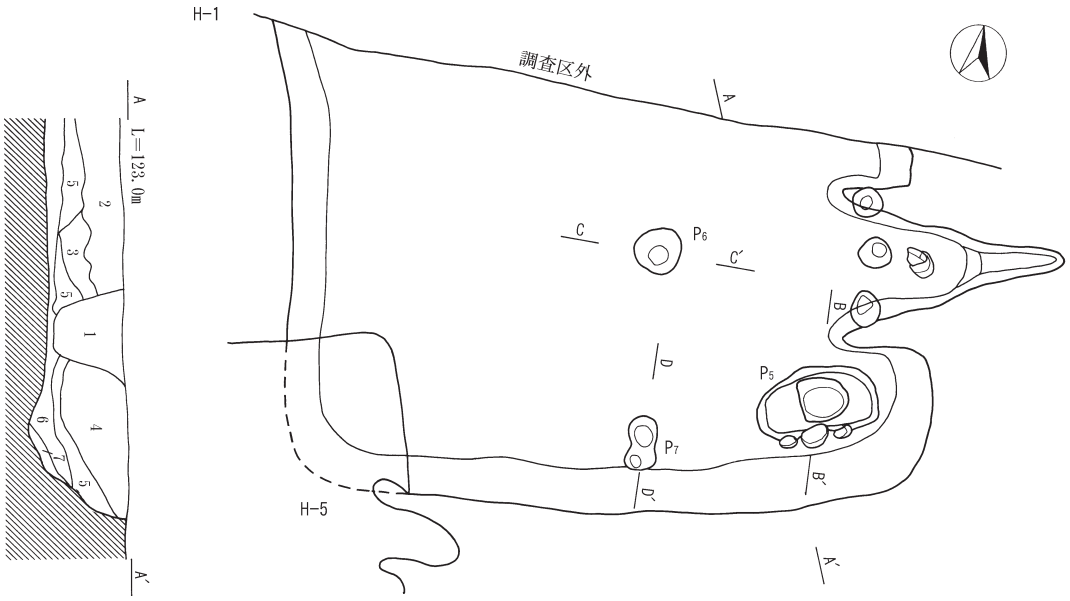


基　本　層　序



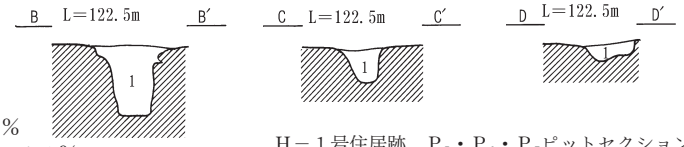
1	暗褐色細砂層（10YR3/3）	現耕作土
2	灰黄褐色細砂層（10YR4/2）	締まり○　粘性△ As-B 混土層
3	にぶい黄褐色細砂層（10YR4/3）	締まり○　粘性○ As-C・Hr-FP　5％
4	褐色微砂層（10YR4/4）	締まり△　粘性△ As-C・Hr-FP　2％
5	黄褐色微砂層（10YR5/6）	締まり△　粘性△ 褐色軽石１％ （総社砂層）

Fig.25　9トレンチ全体図と基本層序



H－１号住居跡　ベルトセクション

1　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP・As-B　5％、炭化物１％
2　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　2％
3　にぶい黄褐色細砂層　○○　黄橙色ブロック　20％
4　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％、黄橙色粒２％
5　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　2％、黄橙色ブロック１％
6　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　1％、炭化物・黄橙色ブロック１％
7　褐色微砂層　○○



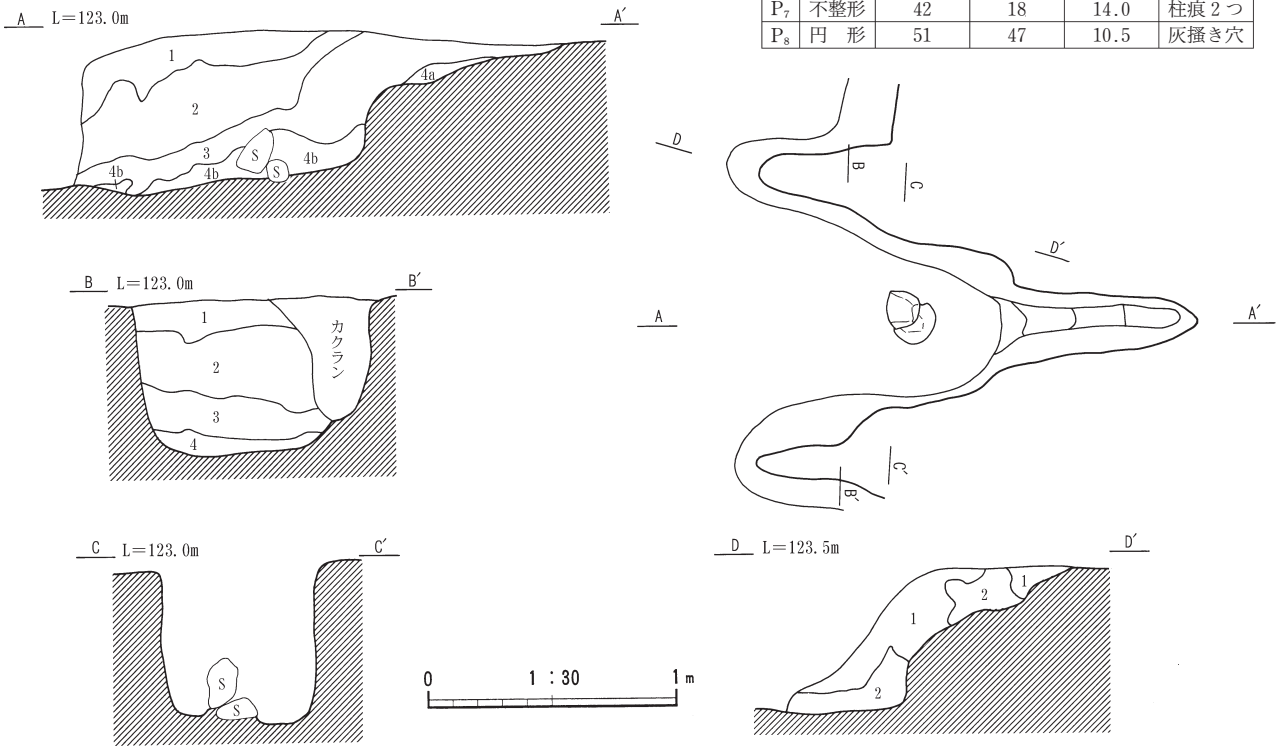
H－１号住居跡　P_5・P_6・P_7ピットセクション

1　褐色微砂層　○○

0　1：60　2m

H－１号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_5	楕円形	98	60	56.0	貯 蔵 穴
P_6	円　形	38	38	27.5	
P_7	不整形	42	18	14.0	柱痕２つ
P_8	円　形	51	47	10.5	灰掻き穴



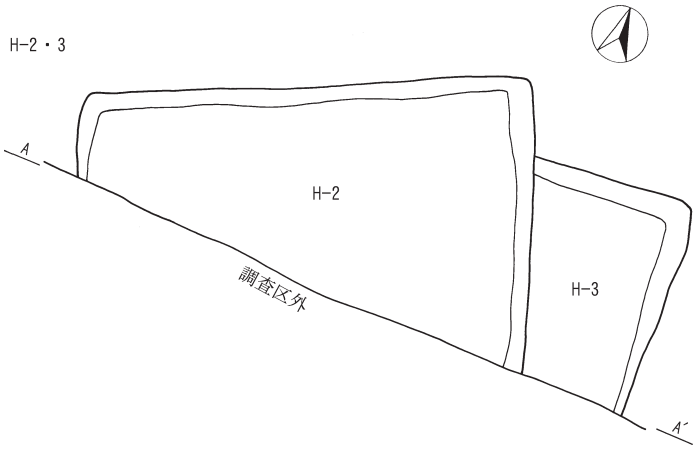
H－１号住居跡　竈セクション

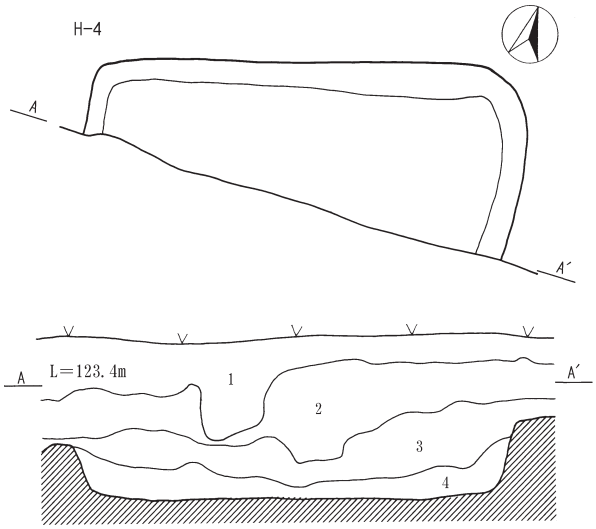
1　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　1％、黄橙色ブロック５％
2　灰黄褐色微砂層　○◎　粘土主体、焼土粒　1％
3　灰褐色微砂層　○◎　焼土ブロック・焼土粒５％、炭化物１％
4a　にぶい黄褐色微砂層　△○　粘土ブロック５％
4b　暗灰色微砂層　△○　灰層

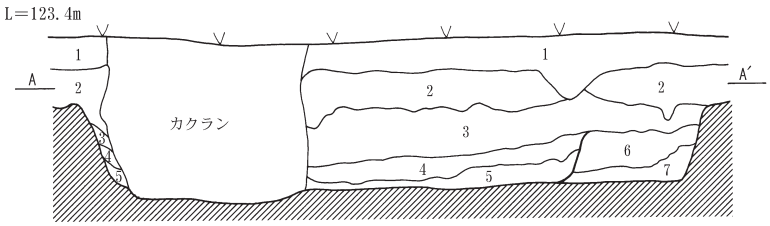
H－１号住居跡　竈袖裁割セクション

1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP　1％、粘土ブロック２％
2　にぶい黄橙色微砂層　○○　粘土主体

Fig.26　9トレンチ／H－１号住居跡





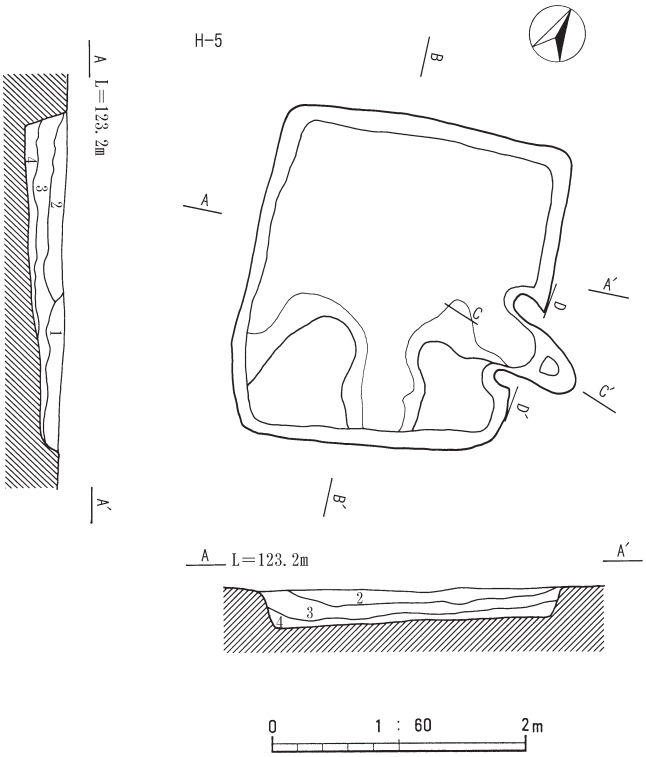


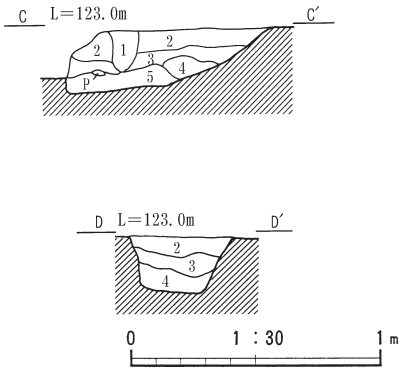
H－４号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	△△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
3	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　2％、黄橙色粒１％
4	暗褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FP　2％、黄橙色粒１％

H－２・３号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	△△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
3	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　5％
4	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　5％
5	褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　1％、黄橙色ブロック１％
6	褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　5％、黄橙色ブロック１％
7	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　1％、黄橙色ブロック５％





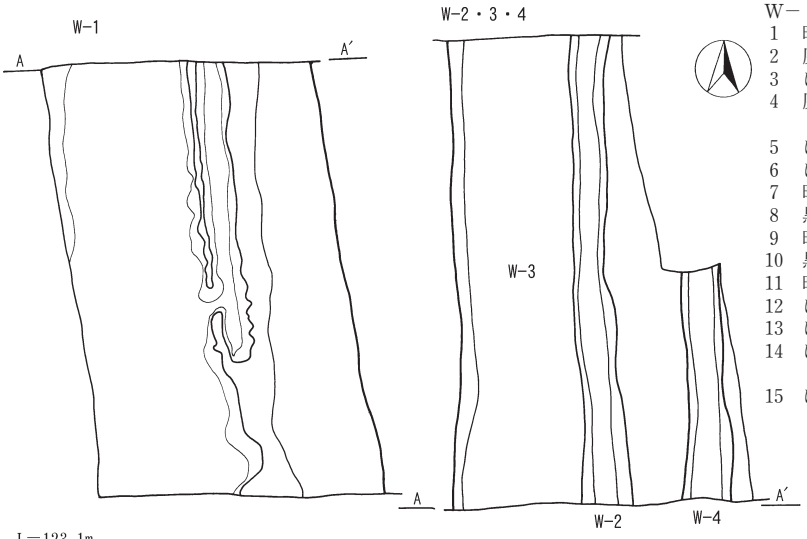
H－５号住居跡　竈セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○○	焼土粒　2％
2	にぶい褐色細砂層	○◎	焼土粒　5％、炭化物１％
3	褐色微砂層	○◎	焼土粒　5％、炭化物１％
4	赤褐色細砂層	○○	焼土ブロック５％
5	褐灰色微砂層	△○	灰層

H－５号住居跡　ベルトセクション

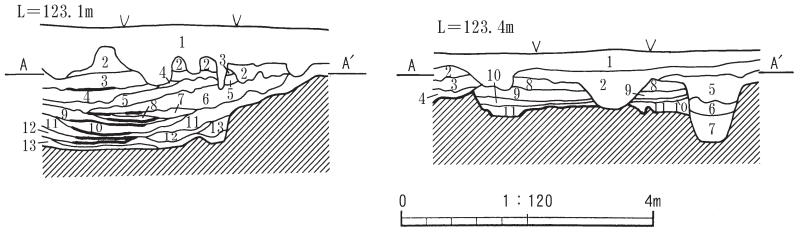
1	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 20％
2	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　2％
3	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　5％
4	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　2％

Fig.27　9トレンチ／H－２～５号住居跡



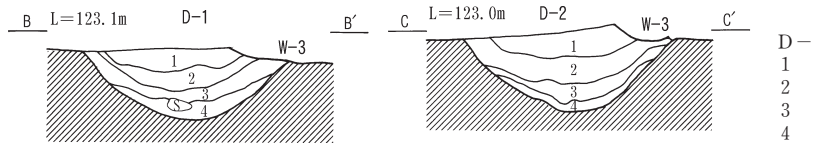
W－１号溝跡　セクション

1	暗褐色細砂層	△△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
3	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・As-B ２％
4	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・As-B ２％、上部硬化面有
5	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・As-B １％、炭化物１％
6	にぶい黄褐色粗砂層	○△	砂利層、As-B 20%、炭化物１％
7	暗褐色粗砂層	◎×	砂利層、As-B 20%、上部硬化面有
8	黒褐色細砂層	××	砂利層、As-B 20%
9	暗褐色細砂層	○○	As-B 20%、上部硬化面有
10	黒褐色粗砂層	◎×	砂利層、As-B 20%、上部硬化面有
11	暗褐色細砂層	○○	As-B 20%、上部硬化面有
12	にぶい黄褐色粗砂層	○○	As-B 20%、上部硬化面有
13	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-B 20%、黄橙色ブロック５％
14	にぶい黄褐色細砂層	◎○	砂利層、As-B 20%、炭化物１％、上部硬化面有
15	にぶい黄褐色粗砂層	◎○	As-B 20%、炭化物１％



W－２・３・４号溝跡　セクション

1	暗褐色細砂層	△△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層（W－２）
3	暗褐色微砂層	○◎	As-B 10%
4	暗褐色微砂層	○◎	As-B 10%、炭化物１％
5	灰褐色微砂層	○○	As-B ５％（W－４）
6	褐色細砂層	○○	As-B ５％、黄橙色ブロック２％（W－４）
7	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-B ５％、黄橙色ブロック２％（W－４）
8	にぶい黄褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP １％（W－３）
9	暗褐色細砂層	◎○	As-C・Hr-FP １％、中央砂利層有、上部硬化面有（W－３）
10	褐色細砂層	◎○	黄橙色ブロック５％、上部硬化面有（W－３）
11	暗褐色細砂層	◎○	As-C・Hr-FP ５％、上部硬化面有（W－３）

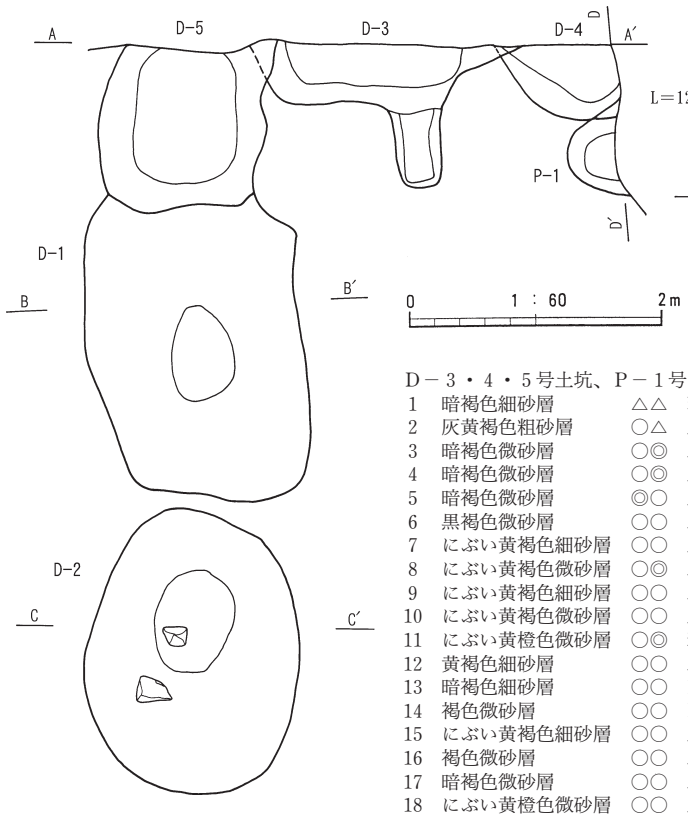


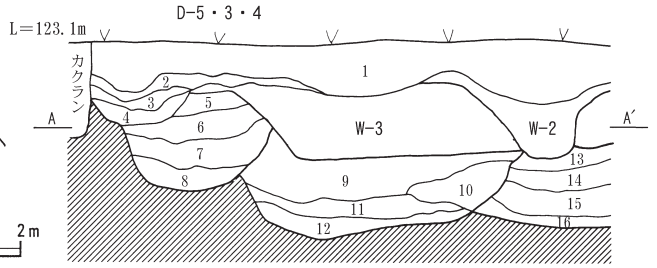
D－１号土坑　セクション

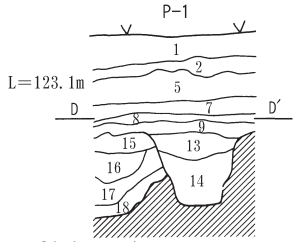
1	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP １％
2	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP １％
3	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP １％
4	暗褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP １％、黄橙色粒１％

D－２号土坑　セクション

1	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP ２％
2	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP ２％、炭化物１％
3	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP １％
4	暗褐色微砂層	○◎	黄橙色粒５％







D－３・４・５号土坑、P－１号ピット　セクション

1	暗褐色細砂層	△△	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
3	暗褐色微砂層	○◎	As-B 10%
4	暗褐色微砂層	○◎	As-B 10%、炭化物１％
5	暗褐色微砂層	◎○	As-C １％（D－５）
6	黒褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FP ２％（D－５）
7	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C ２％、炭化物 １％（D－５）
8	にぶい黄褐色微砂層	○◎	As-C １％、炭化物 １％（D－５）
9	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP １％、黄橙色ブロック ２％（D－３）
10	にぶい黄褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FP ２％、黄橙色ブロック ５％（D－３）
11	にぶい黄橙色微砂層	○◎	粘土主体、黄橙色ブロック 10%（D－３）
12	黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP １％、黄橙色ブロック ２％（D－３）
13	暗褐色細砂層	○○	Hr-FP ５％（P－１）
14	褐色微砂層	○○	Hr-FP ２％、黄橙色粒 10%（P－１）
15	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP １％、黄橙色ブロック ２％（D－４）
16	褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FP １％、黄橙色ブロック ２％（D－４）
17	暗褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FP １％、黄橙色ブロック ２％（D－４）
18	にぶい黄橙色微砂層	○○	As-C・Hr-FP １％、黄橙色ブロック ２％（D－４）

Fig.28　９トレンチ／溝跡、土坑、ピット

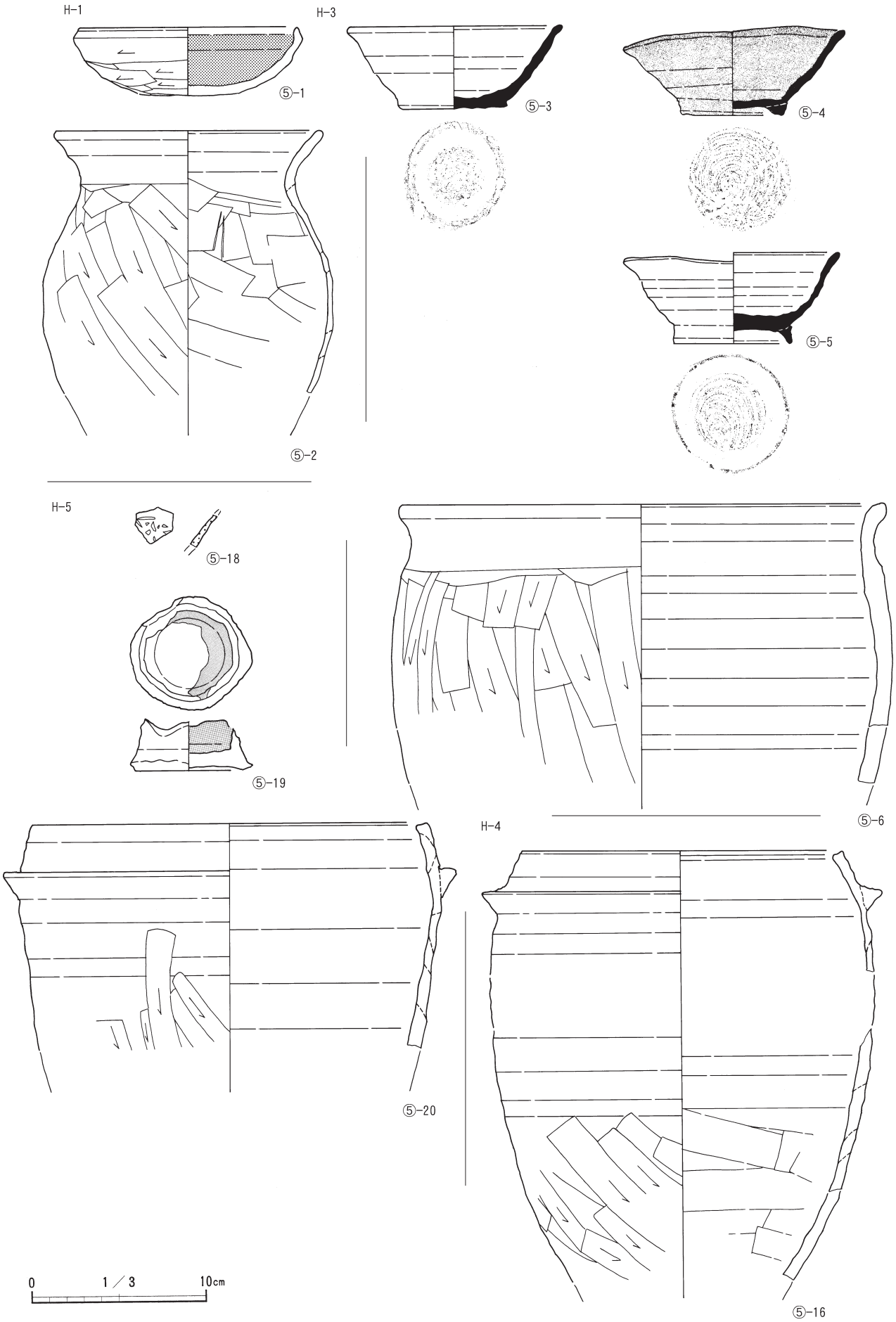


Fig.29　5トレンチ／H－1・3～5号住居跡出土遺物

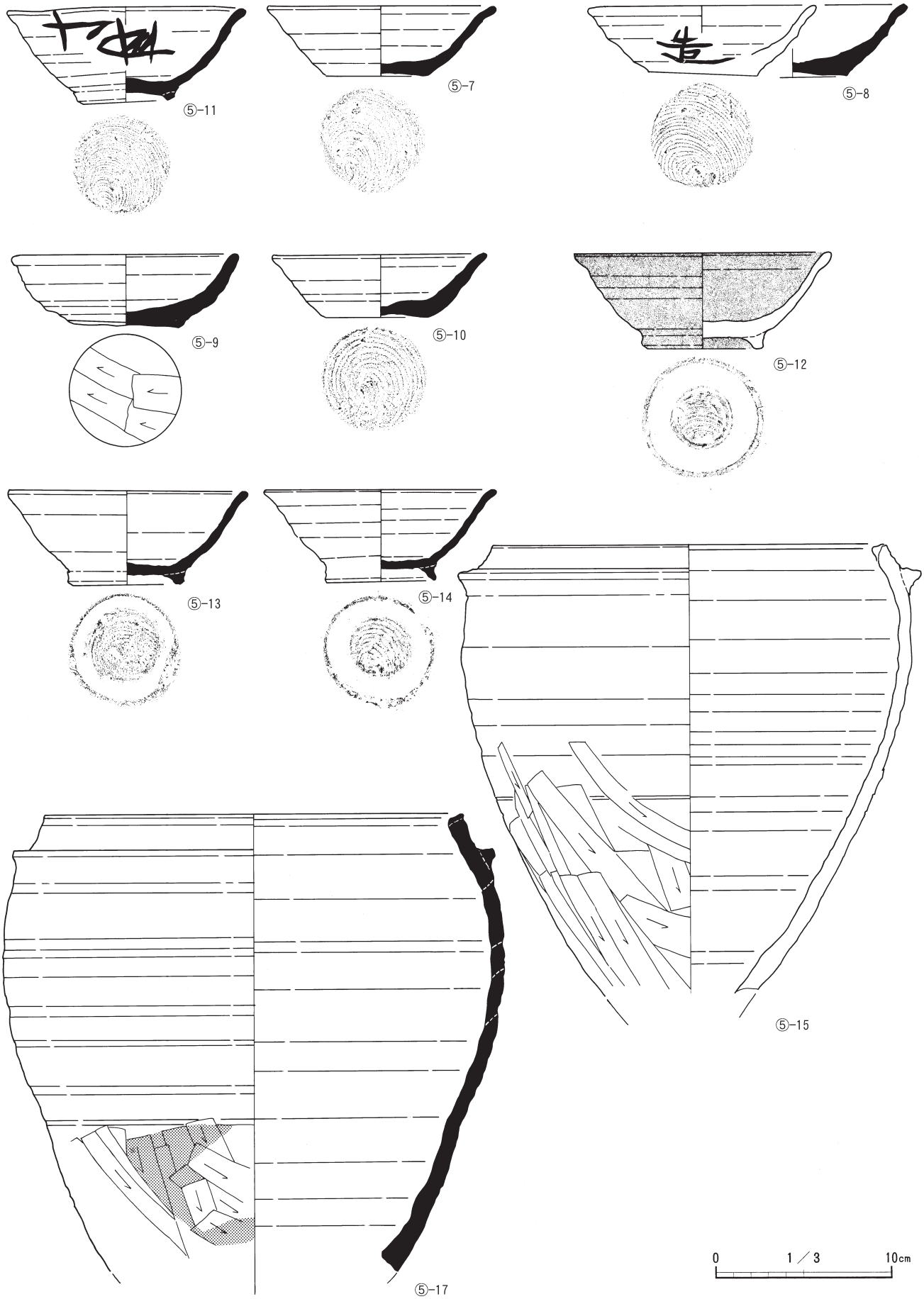


Fig.30　5トレンチ／H－4号住居跡出土遺物

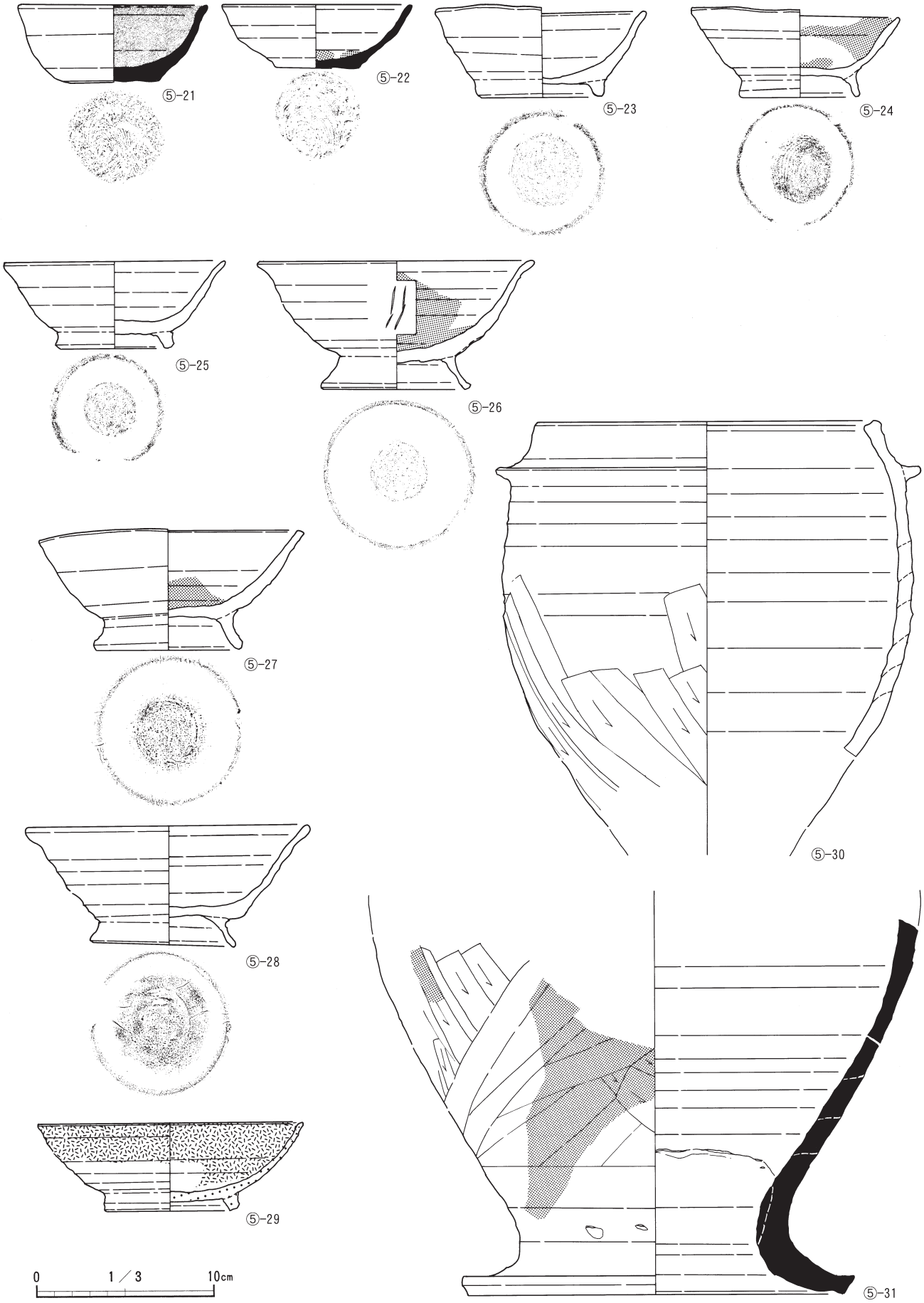


Fig.31　5トレンチ／H－6号住居跡出土遺物

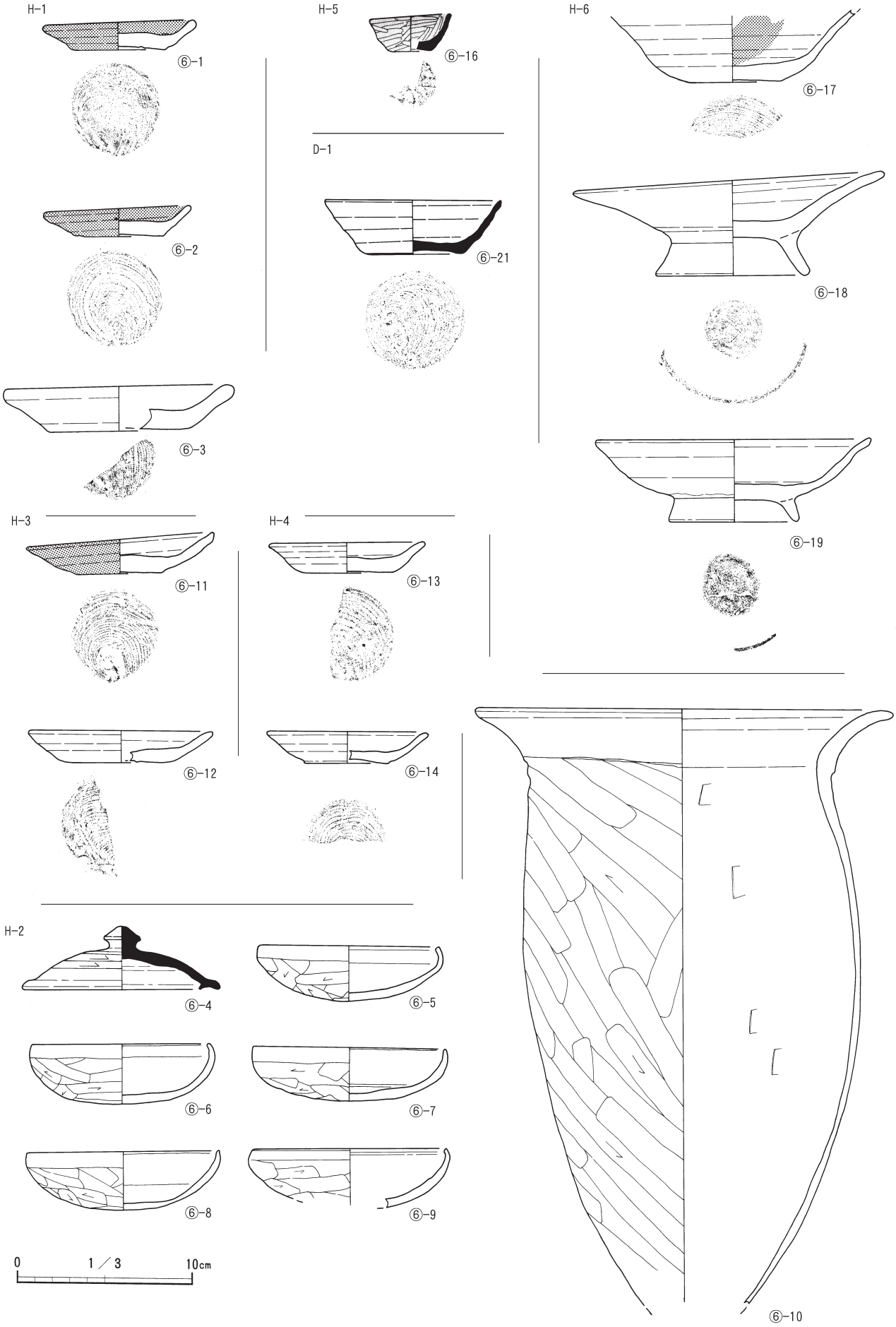


Fig.32　6トレンチ／H－1～6号住居跡、土坑出土遺物

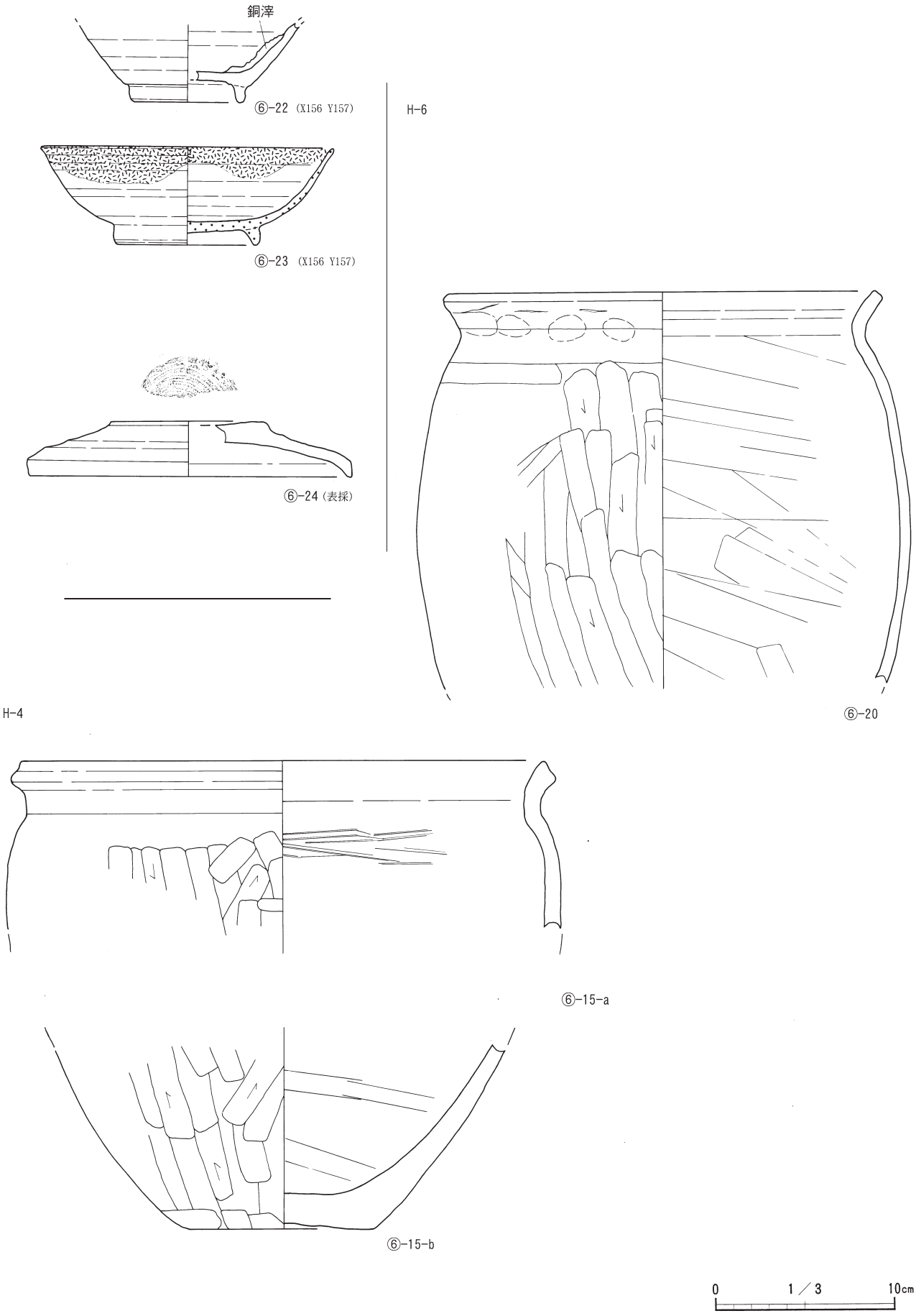


Fig.33　6トレンチ／H－4・6号住居跡出土遺物、表採遺物

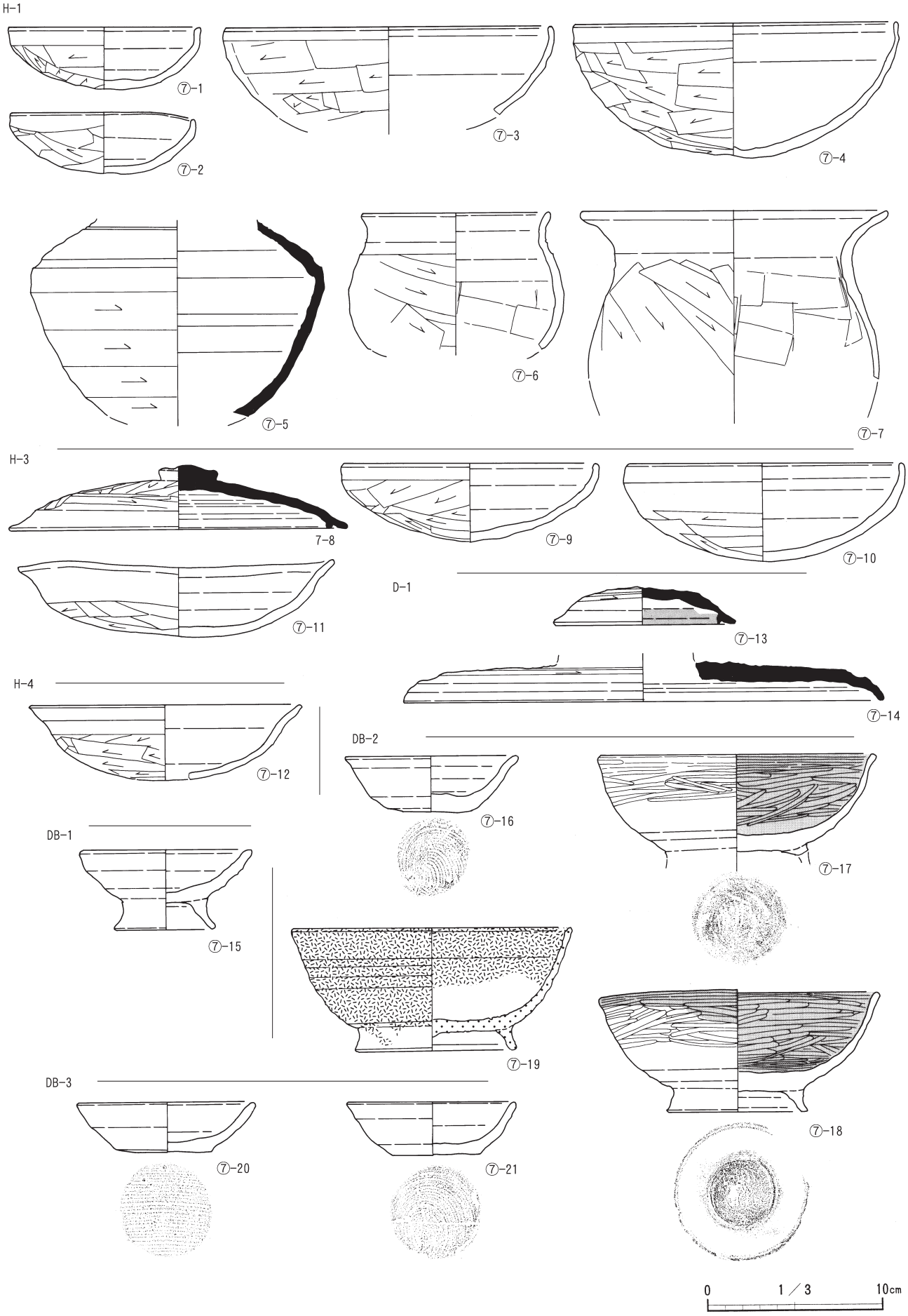


Fig.34　7トレンチ出土遺物

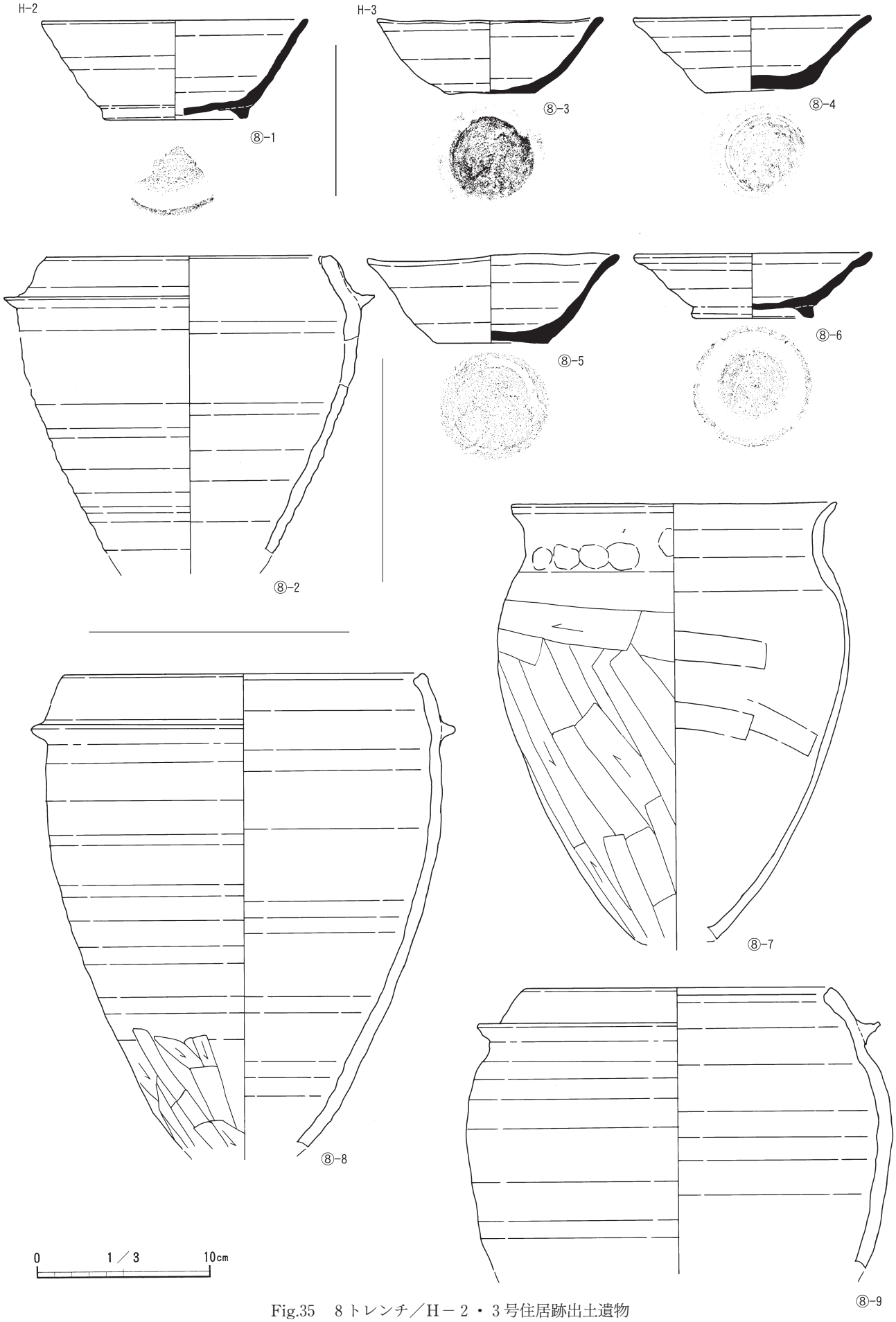


Fig.35　8トレンチ／H－2・3号住居跡出土遺物

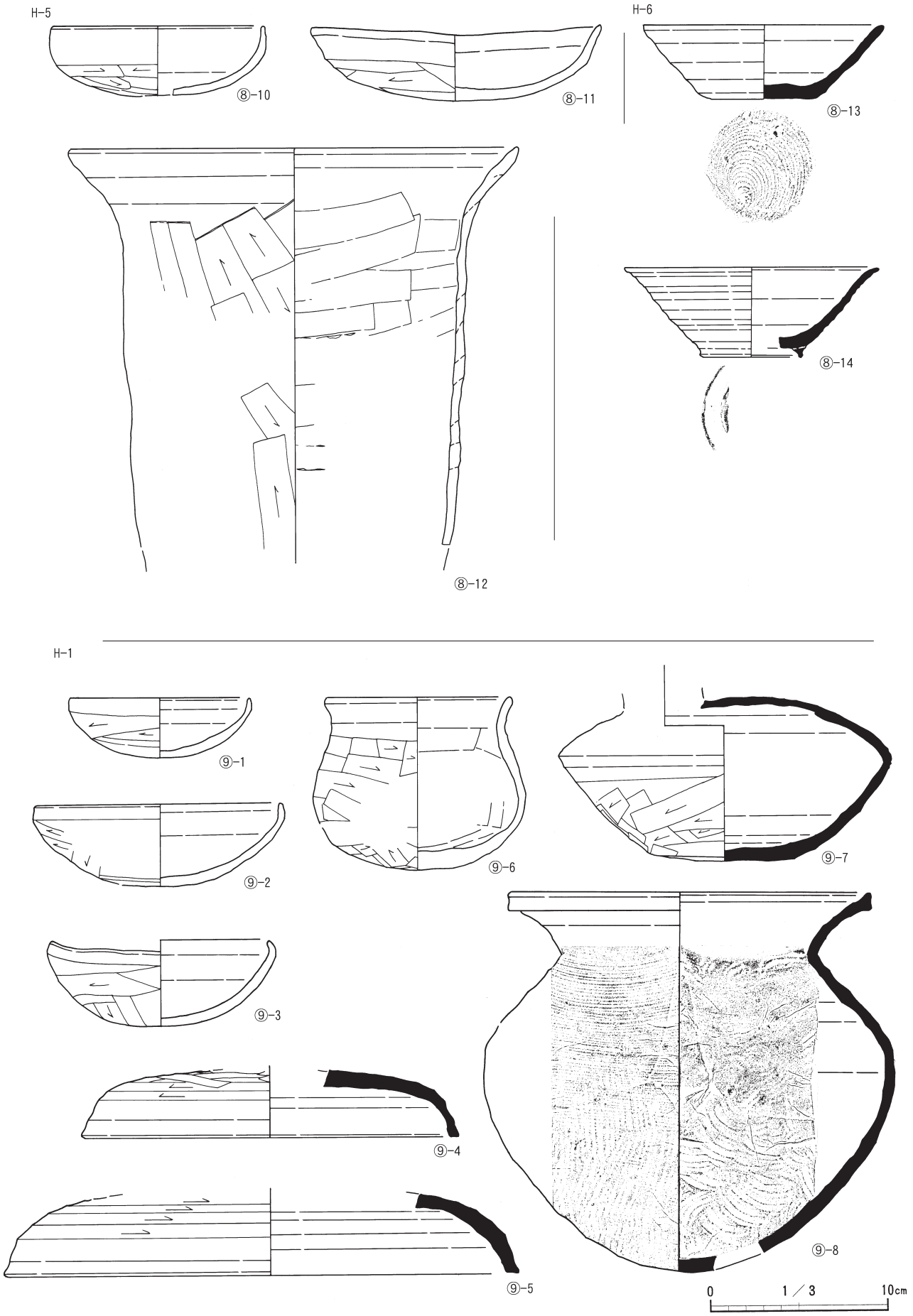


Fig.36　8トレンチ／H－5・6号住居跡、9トレンチ／H－1号住居跡出土遺物

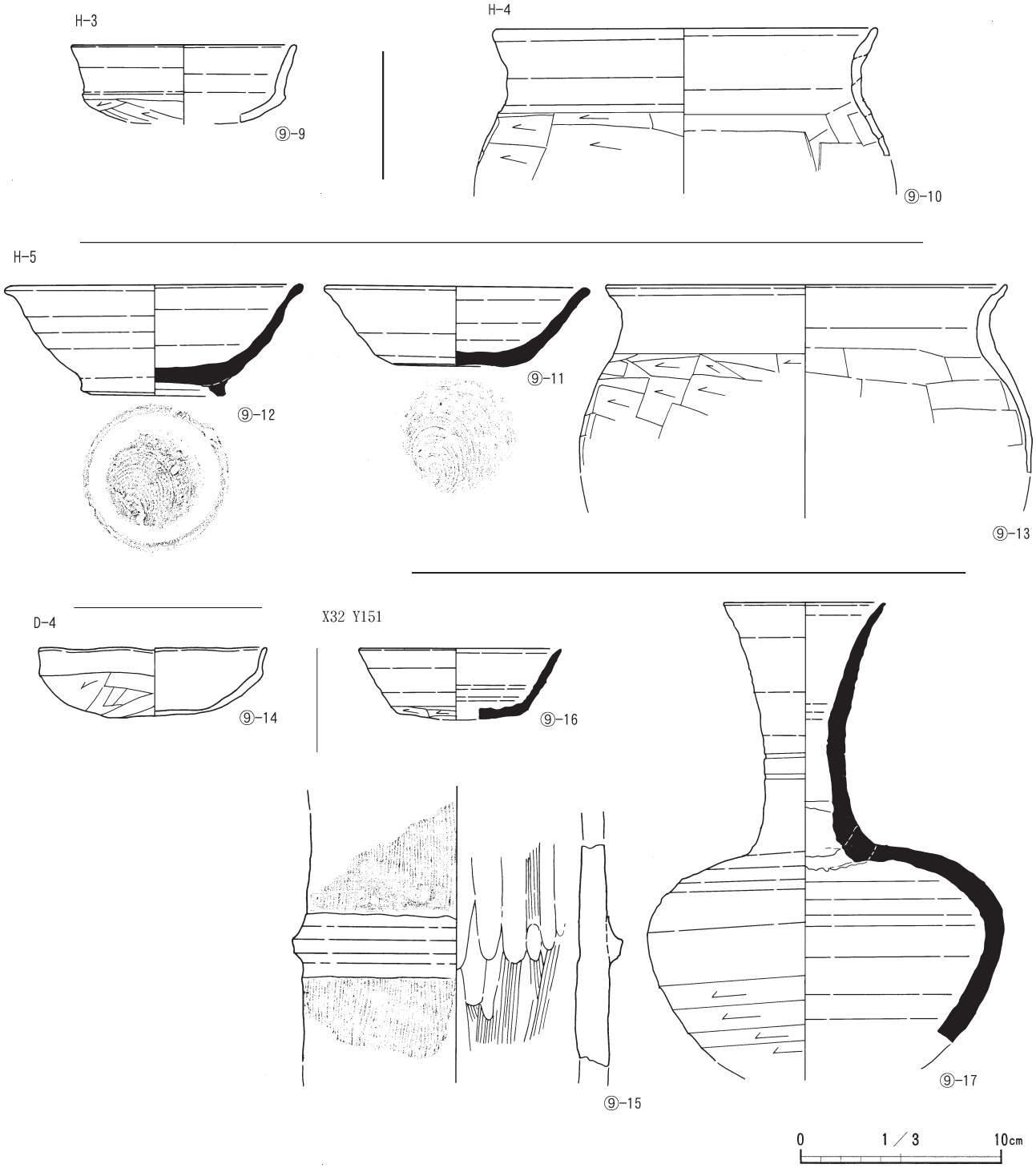


Fig.37　9トレンチ／H－3～5号住居跡、土坑出土遺物、表採遺物

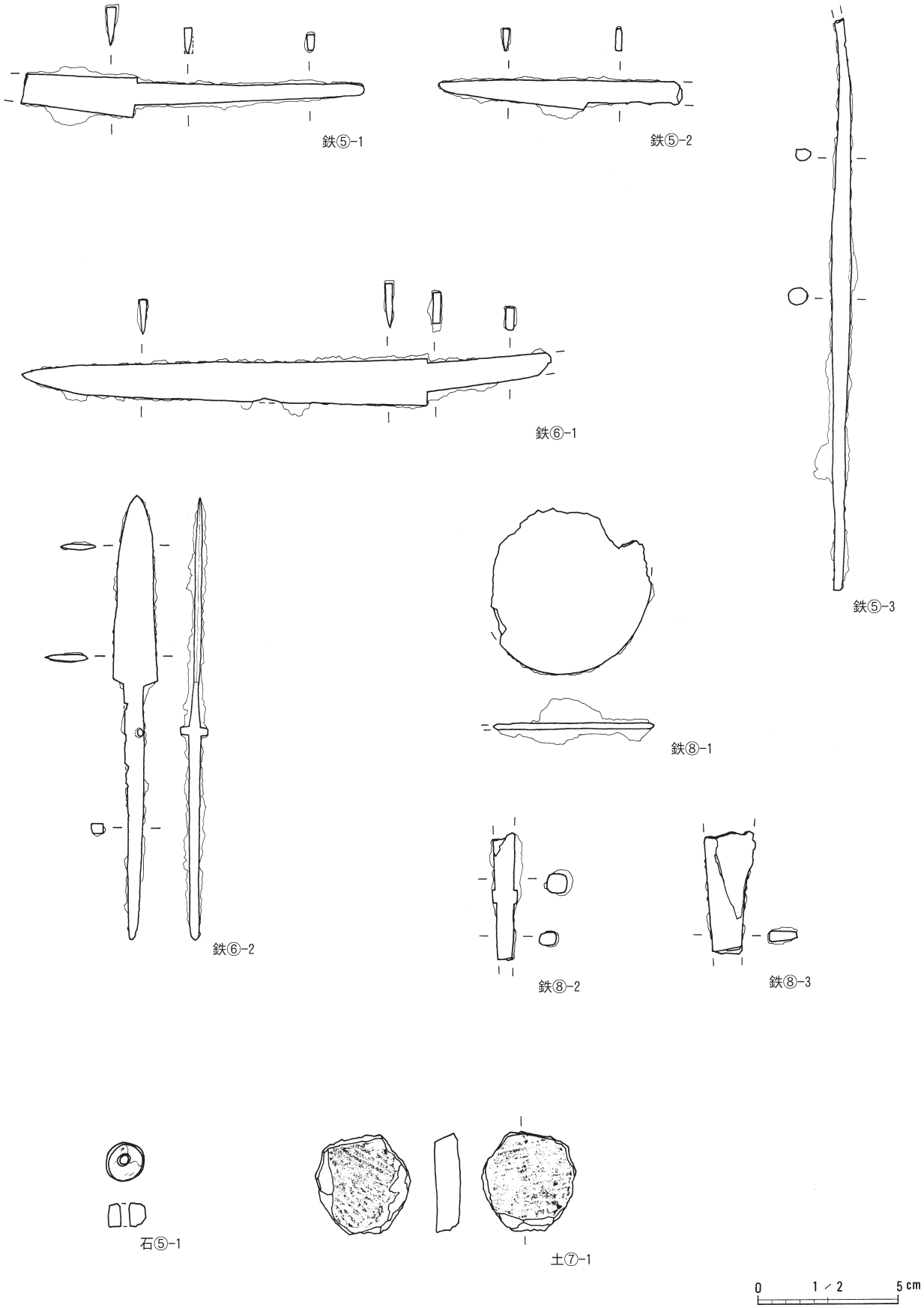


Fig.38　鉄器・鉄製品・石製品・土製品

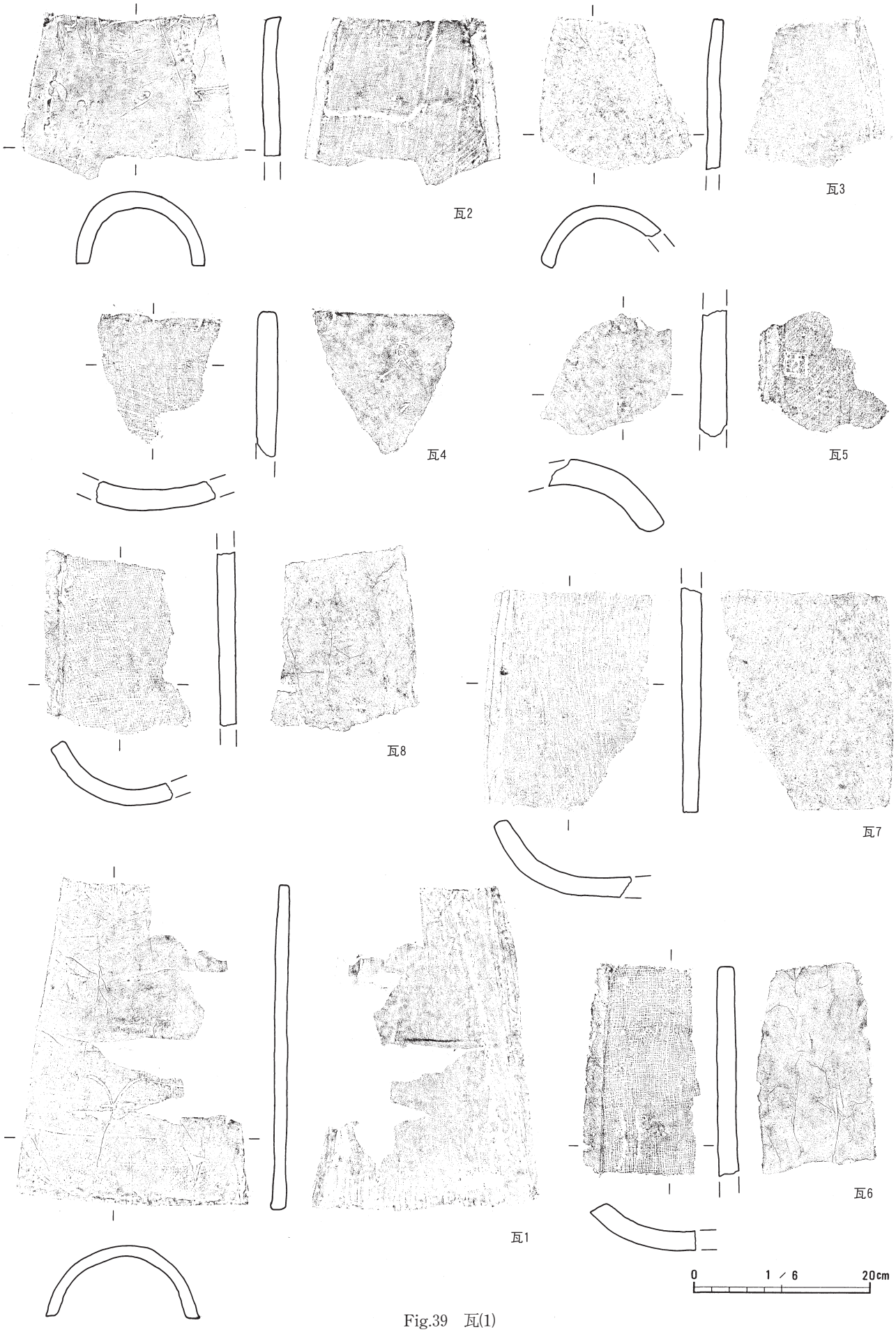


Fig.39　瓦(1)

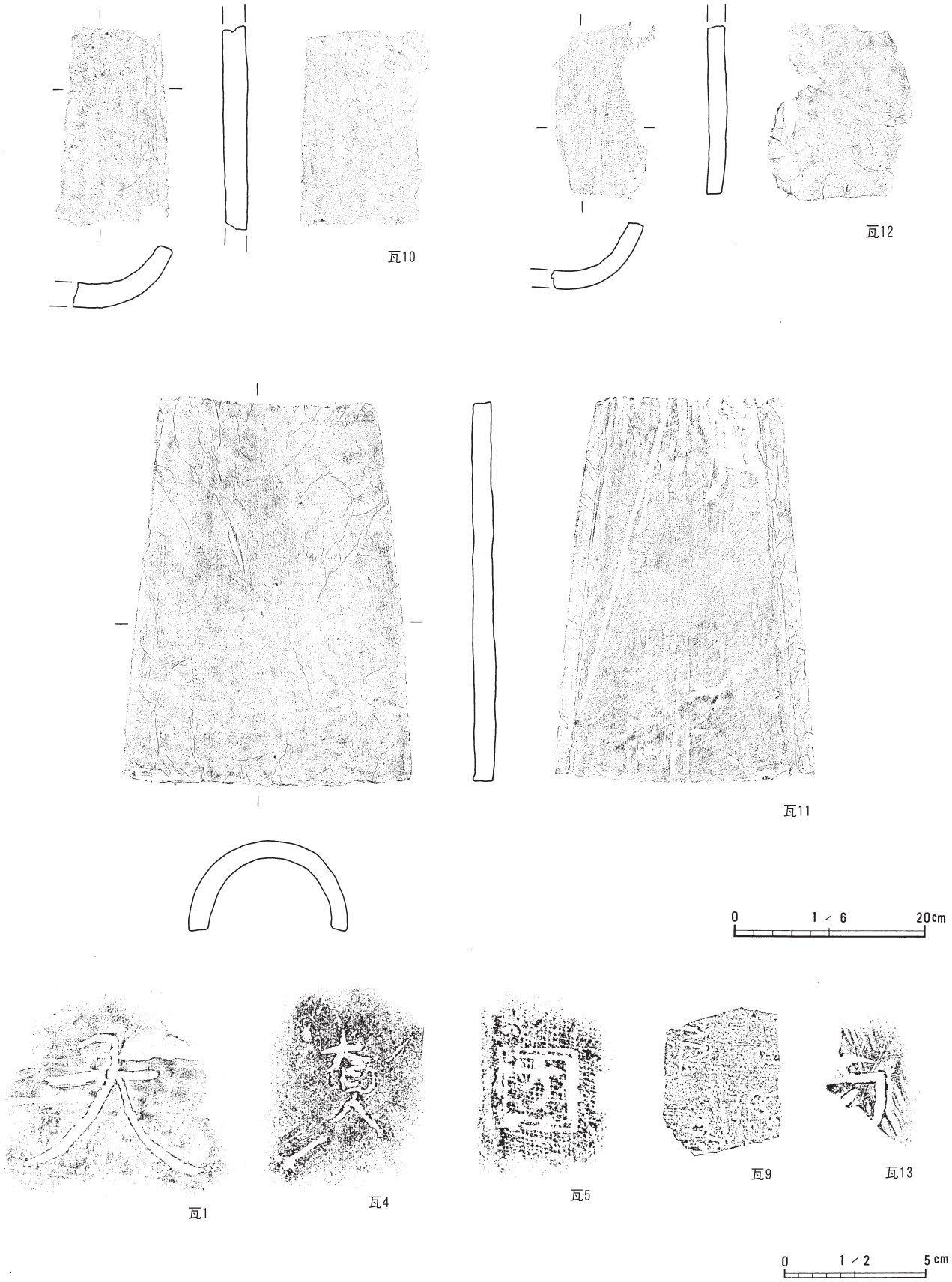


Fig.40　瓦(2)・文字瓦

5トレンチ北側遺構検出状況（北西から）

⑤－Ｈ－１号住居跡全景（西から）

⑤－Ｈ－１号住居跡竈全景（西から）

⑤－Ｈ－１号住居跡遺物出土状況（北東から）

⑤－Ｈ－１号住居跡遺物出土状況（南から）

⑤－Ｈ－４号住居跡全景（西から）

⑤－Ｈ－４号住居跡竈全景（西から）

⑤－Ｈ－４号住居跡竈内遺物出土状況（西から）

⑤－Ｈ－４号住居跡遺物出土状況全景（北から）

⑤－Ｈ－６号住居跡全景（西から）

⑤－Ｈ－６号住居跡竈全景（西から）

⑤－Ｈ－６号住居跡竈内遺物出土状況（西から）

５トレンチ南側遺構出土状況（南から）

6トレンチ調査区全景（南西から）

⑥－Ｈ－１号住居跡全景（西から）

⑥－Ｈ－１号住居跡竈全景（西から）

⑥－Ｈ－１号住居跡竈内遺物出土状況（西から）

⑥－Ｈ－１号住居跡竈構築状況（北西から）

⑥－Ｈ－２号住居跡全景（西から）

⑥－Ｈ－２号住居跡竈全景（西から）

⑥－Ｈ－２号住居跡遺物出土状況（南から）

⑥－Ｈ－３号住居跡全景（西から）

⑥－Ｈ－４・５号住居跡全景（西から）

⑥－Ｈ－４号住居跡竈全景（西から）

⑥－Ｈ－６号住居跡全景（西から）

⑥－Ｈ－６号住居跡竈全景（西から）

⑥－Ｈ－６号住居跡竈構築状況（西から）

⑥－Ｈ－６号住居跡刀子出土状況（南から）

⑦－Ｈ－１号住居跡全景（西から）

⑦－Ｈ－１号住居跡遺物出土状況（西から）

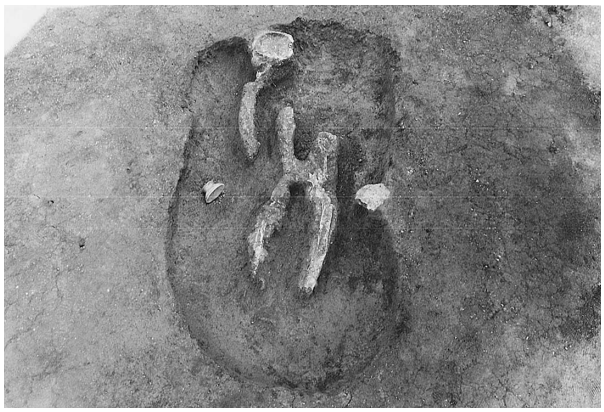
⑦－Ｈ－３号住居跡全景（西から）

⑦－Ｈ－３号住居跡竈全景（西から）

⑦－Ｈ－３号住居跡遺物出土状況（北から）

⑦－Ｈ－４号住居跡全景（西から）

⑦－Ｗ－１号溝跡全景（北から）



⑦－ＤＢ－１号土坑墓全景（南から）

⑦－ＤＢ－２号土坑墓全景（南から）

⑦－ＤＢ－２号土坑墓遺物出土状況（南から）

７トレンチ調査区全景（西から）

８トレンチ調査区全景（北から）

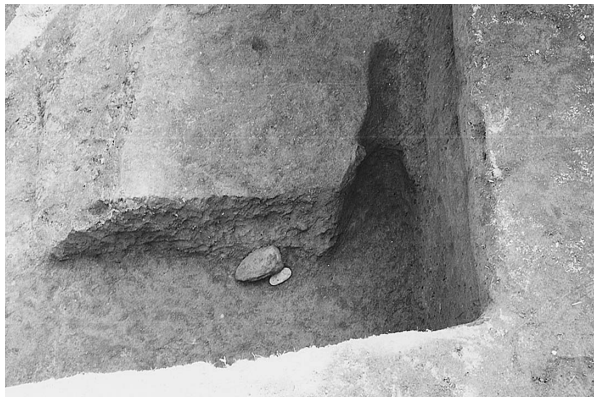
⑧－Ｈ－２号住居跡全景（西から）

⑧－Ｈ－２号住居跡竈全景（西から）

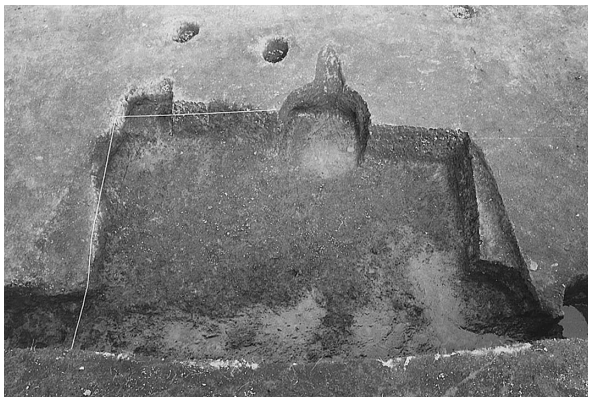
⑧－Ｈ－３号住居跡全景（西から）

⑧－Ｈ－３号住居跡竈全景（西から）

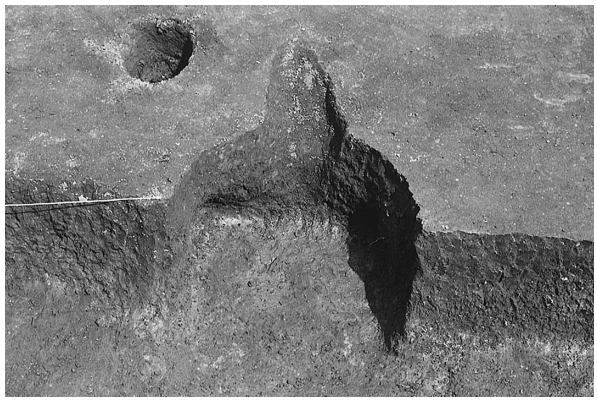
⑧－Ｈ－３号住居跡竈前遺物出土状況（西から）



⑧－Ｈ－５号住居跡全景（西から）



⑧－Ｈ－６号住居跡全景（西から）



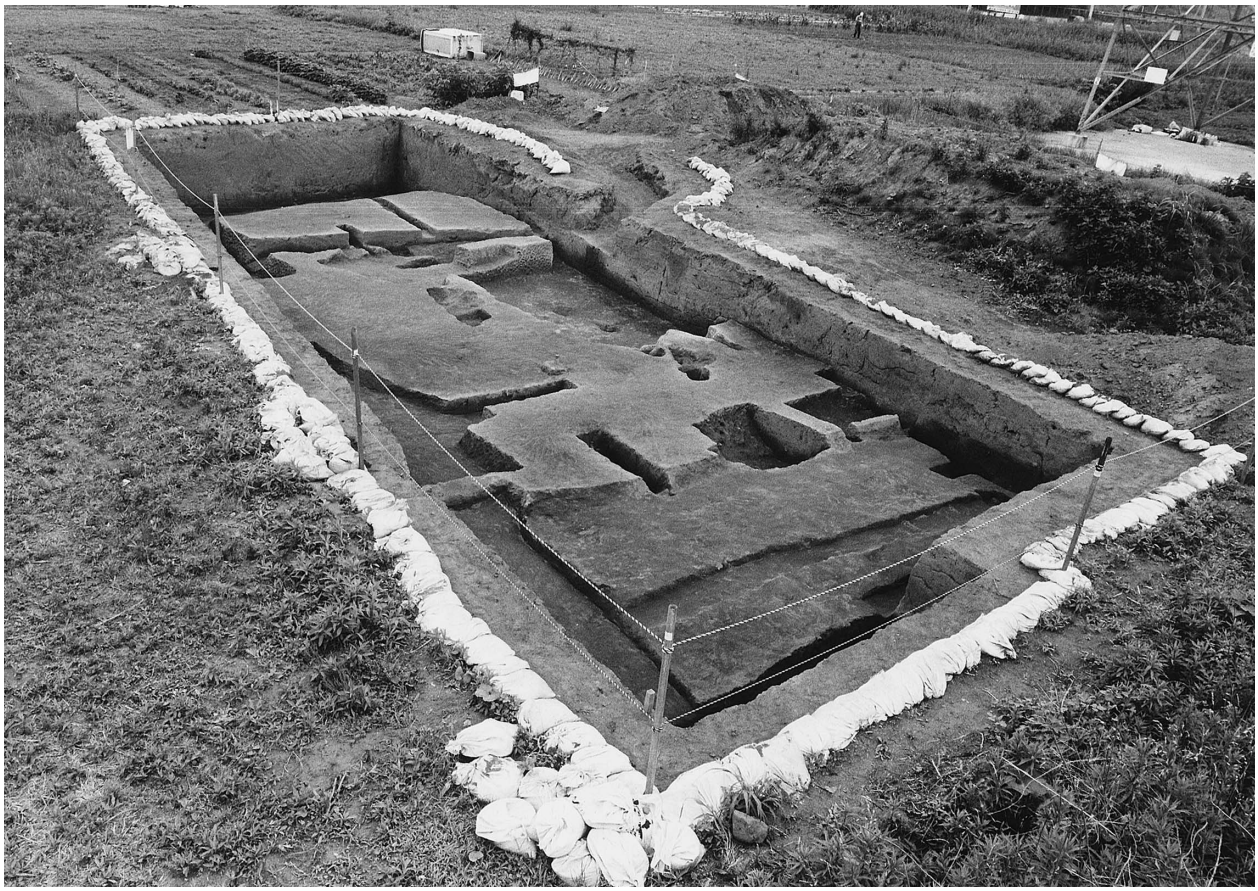
⑧－Ｈ－６号住居跡竈全景（西から）

⑧－Ｗ－２号溝跡全景（東から）

⑧－Ｔ－１号竪穴状遺構全景（北から）

⑧－Ｔ－２号竪穴状遺構全景（南から）

８トレンチ中央部遺構検出状況（東から）



9トレンチ調査区全景（南東から）

⑨－Ｈ－１号住居跡全景（西から）

⑨－Ｈ－１号住居跡竈全景（西から）

⑨－Ｈ－１号住居跡遺物出土状況（東から）

⑨－Ｈ－２・３号住居跡全景（北西から）

⑨－Ｈ－５号住居跡全景（西から）

⑨－Ｈ－５号住居跡竈全景（西から）

⑨－Ｈ－５号住居跡遺物出土状況

⑨－Ｈ－５号住居跡遺物出土状況

⑨－Ｗ－１号溝跡全景（南から）

⑨－Ｗ－１号溝跡集石部（西から）

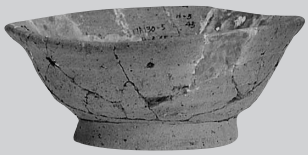
⑨－Ｗ－１号溝跡セクション（南から）

⑨－Ｗ－３号溝跡全景（南から）

⑤－1（H－1）

⑤－3（H－3）

⑤－4（H－3）

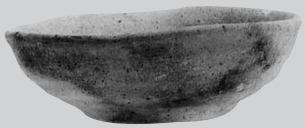


⑤－5（H－3）

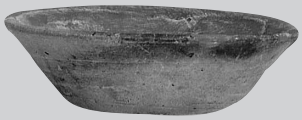
⑤－11（H－4）

⑤－7（H－4）

⑤－8（H－4）



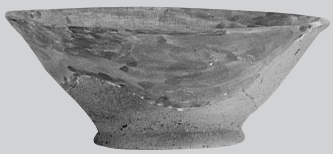
⑤－9（H－4）



⑤－10（H－4）

⑤－12（H－4）

⑤－13（H－4）



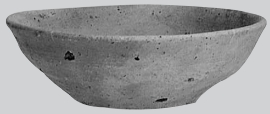
⑤－14（H－4）

⑤－15（H－4）

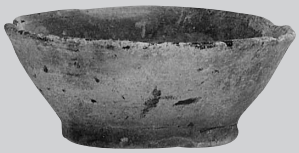
⑤－19（H－5）

⑤－16（H－4）

⑤－21（H－6）



⑤－22（H－6）



⑤－23（H－6）

⑤－17（H－4）

⑤－24（H－6）

⑤－25（H－6）

⑤－26（H－6）

⑤－27（H－6）

⑤－28（H－6）

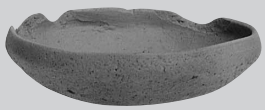
⑤－29（H－6）

⑤－30（H－6）

⑥－1（H－1）

⑥－2（H－1）

⑥－4（H－2）

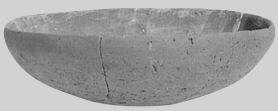


⑥－5（H－2）

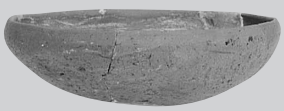
⑤－31（H－6）

⑥－6（H－2）

⑥－7（H－2）



⑥－8（H－2）



⑥－9（H－2）

⑥－10（H－2）

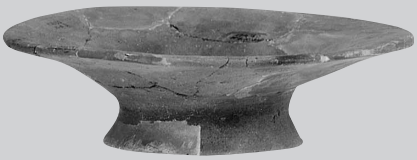
⑥－11（H－3）

⑥－12（H－3）

⑥－13（H－4）

⑥－14（H－4）

⑥－16（H－5）

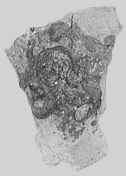


⑥－18（H－6）

⑥－19（H－6）

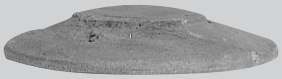
⑥－20（H－6）

⑥－21（D－1）



⑥－22（X156　Y157）

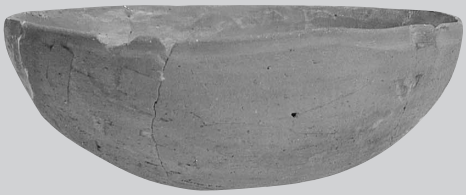
⑥－23（X156　Y157）



⑥－24（表採）

⑦－1（H－1）

⑦－2（H－1）

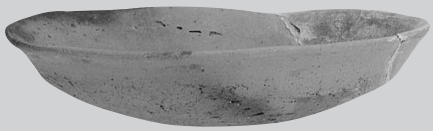


⑦－4（H－1）

⑦－8（H－3）

⑦－9（H－3）

⑦－10（H－3）



⑦－11（H－3）

⑦－13（D－1）

⑦－15（DB－1）

⑦－16（DB－2）

⑦－17（DB－2）

⑦－18（DB－2）

⑦－19（DB－2）

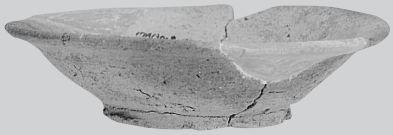
⑦－20（DB－3）

⑦－21（DB－3）

⑧－3（H－3）

⑧－4（H－3）

⑧－5（H－3）



⑧－6（H－3）

⑧－10（H－5）

⑧－7（H－3）

⑧－8（H－3）

⑧－9（H－3）

⑧－12（H－5）

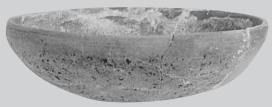
⑧－11（H－5）

⑧－13（H－6）

⑨－6（H－1）

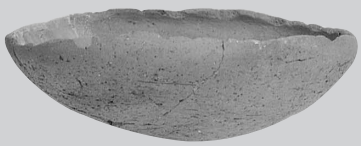
⑨－8（H－1）

⑨－7（H－1）



⑨－1（H－1）

⑨－2（H－1）



⑨－3（H－1）

⑨－9（H－3）

⑨－11（H－5）

⑨－12（H－5）

⑨－14（D－4）

⑨－17（X32　Y151）

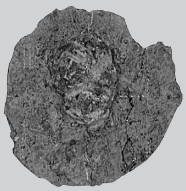
⑤－鉄３（H－6）

⑤－鉄１（H－4）

⑤－鉄２（H－5）

⑥－鉄１（H－6）

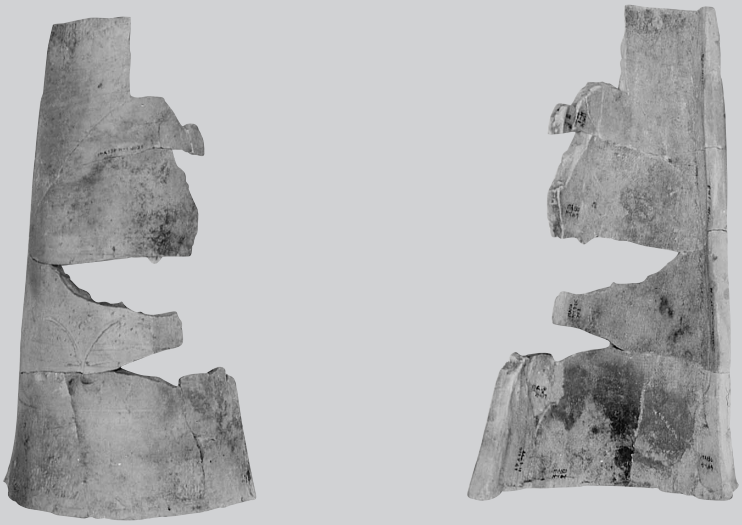
⑥－鉄２
（H－6）



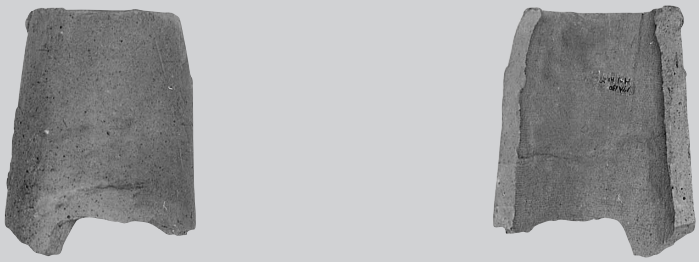
⑧－鉄１（H－3）

⑧－鉄２
（H－3）

⑧－鉄３
（H－6）



瓦1（⑥H－1）



瓦2（⑥H－1）

瓦11（⑧H－3）

瓦6（⑥H－4）

瓦7（⑥H－4）

瓦10（⑧H－3）

抄　　録

フ リ ガ ナ	モトソウジャオウミイセキグンニ
書　　名	元総社蒼海遺跡群（２）
副 書 名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	近藤　雅順・池田　史人
編 集 機 関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－２
発 行 年 月 日	西暦2006年３月17日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コ ー ド		位置（７トレンチ）		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北　緯	東　経			
モトソウジャ 元総社 オウミイセキグンニ 蒼海遺跡群（２）	マエバシシモトソウジャ 前橋市元総社 マチ 町1800-3 他	10201	17A130 -5～9	36°23′16″	139°02′01″	20050517 ～ 20050914	1,276㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項
元総社 蒼海遺跡群（２）	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡１軒	土師器、須恵器	
		奈良・平安時代	竪穴住居跡22軒、竪穴状遺構１軒、溝跡７条	土師器、須恵器、瓦、鉄製品	
		中世以降	竪穴状遺構２軒、溝跡７条、井戸跡１基		

元総社蒼海遺跡群（２）

2006年２月24日　印　刷
2006年３月３日　発　行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10－２
TEL　027－231－9531
印 刷 所　朝日印刷工業株式会社